

学生の確保の見通し等を記載した書類 目 次

(1) 新設組織の概要	p. 2
①新設組織の概要	p. 2
②新設組織の特色	p. 2
(2) 人材需要の社会的な動向等	p. 2
①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	p. 2
②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	p. 3
③新設組織の主な学生募集地域	p. 4
④既設組織の定員充足の状況	p. 5
(3) 学生確保の見通し	p. 11
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	p. 11
ア 既設組織における取組とその目標	p. 11
イ 新設組織における取組とその目標	p. 14
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数	p. 15
②競合校の分析状況	p. 17
ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性	p. 17
イ 競合校の入学志願動向	p. 24
ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）	p. 26
エ 学生納付金の金額設定の考え方	p. 27
③先行事例分析	p. 27
④学生確保に関するアンケート調査	p. 27
⑤人材需要に関するアンケート調査等	p. 28
(4) 新設組織の定員設定の理由	p. 30

(1) 新設組織の概要

①新設組織の概要

新設組織	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	所在地(教育研究を行う キャンパス)
文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科	110	—	440	東京都文京区向丘 1丁目19番1号

②新設組織の特色

本学部では、建学の精神を念頭に「人と人、人と地域、人と自然が共生する社会創造」を目標に掲げ、「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の3つのドメインを中心に知識の授与と実践的活動を行う。また、データサイエンスに関する教育・研究を推進し、社会課題に直面する多様なステークホルダーとの対話を通じて課題を把握し、データ分析を活用したアプローチにより解決策を導く力を養うことを重要な役割と位置付けている。

当学部の特色として、「文理融合型教育」「社会課題とデータサイエンスの適合性を考慮したドメイン別教育」「社会課題発見スキル、プロジェクトマネジメントスキル修得のためのPBL（Problem Based Learning 及び Project Based Learning）教育」「『社会課題発見スキル×データサイエンス・AI 活用スキル×プロジェクトマネジメントスキル』を実現するゼミナール・卒業研究」の4点が挙げられる。これらを通じて、学生が幅広い視野と実践的なスキルを持ち、社会課題に対応できる力を身につける学びを提供している。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

経済産業省の「IT人材の最新動向と将来推計に関する調査」（平成28年6月）【資料1】では、2030年までに日本全体で最大約79万人のIT人材が不足する可能性が指摘されている。この中で特に、データサイエンスやAI技術に精通した人材は、技術革新が急速に進展する社会においてますます重要な役割を担うとされている。例えば、製造業や金融業では、ビッグデータの分析とAIによる予測技術が業務効率化や新製品開発に不可欠となっており、こうした分野での専門知識を持つ人材の需要が全国的に増加している。また、リクルート進学総研の「学部・学科トレンドデータ集」【資料2】によると、情報系学部の志願者数は過去5年間で顕著に増加しており、特にデータサイエンスを学ぶ学部への関心が高まっている。このように、データサイエンスの専門知識に加え、特定の産業分野における深い理解を持つ人

材は、今後の日本経済全体において不可欠な存在となりつつある。

東京都では、【資料 3】からもわかるように、DX が加速しており、特に企業や自治体が地域特有の課題に対応するためのデータ駆動型ソリューションを必要としている。例えば、東京都では高齢化が進行しており、医療や介護の分野で効率的なサービス提供が求められている。この分野では、データ分析を活用して地域住民の健康状態をリアルタイムで把握し、予防医療や介護サービスを最適化する取り組みが重要視されている。また、都市のインフラ管理においても、センサーデータの収集と解析を通じて、交通渋滞やエネルギー消費の最適化が進められている。このような背景から、データサイエンスと特定分野の知識を統合的に活用できる人材が、地域課題の解決において極めて重要な役割を果たしている。

さらに、内閣府が提唱する「第 5 期科学技術基本計画の概要」【資料 4】は、IoT、ビッグデータ、AI を駆使して社会全体の生活の質を向上させることを目指している。この構想においては、データサイエンスの技術を持ちつつ、幅広いドメインに精通した人材が不可欠である。具体的には、社会インフラの維持管理や、環境問題への対応、さらには地域社会の持続可能な発展に向けた取り組みなど、多様な分野での応用が期待されている。たとえば、災害時の迅速な対応を支援するために、地理空間データと AI を活用して被害予測を行い、適切な避難誘導を実施する技術が求められている。これにより、社会全体でのデータ活用の重要性が増しており、こうした技術を駆使できる人材は、社会全体の課題解決においてますます不可欠な存在となっている。

このような背景を踏まえ、本学では単なる技術者の育成にとどまらず、社会課題を理解・把握し、さまざまなステークホルダーとコミュニケーションを重ねながら仮説を導き、データ分析の視点でアプローチし、課題解決に向けた提案ができる人材を養成することを目指している。これは新学部教育理念の根幹であり、社会全体の進学需要にも応えるものとなっている。

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

日本の 18 歳人口は、少子化の影響により今後も減少が続くことが予測されている。リクルート進学総研の「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」【資料 5】によれば、2023 年の 18 歳人口は約 110 万人であり、2035 年には約 97 万人にまで減少する見通しである。特に地方部でこの減少が顕著であり、地方大学にとっては入学者数の確保がさらに困難になると予測されている。東北地方や四国地方などでは既に多くの大学で定員割れが発生しており、この傾向は今後さらに深刻化すると考えられる。

一方で、首都圏を含む大都市圏においては 18 歳人口の減少が比較的緩やかであることが示されている。特に、文部科学省の「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」に掲載されている「大学進学時の都道府県別流入・流出者数」【資料 6】によれば、東京都や大阪府などの都市部では地方からの進学者が引き続き流入しており、首都圏の大学は全国的な人口減少の影響をある程度緩和している。このため、首都圏の大学は今後も一定の入

学者数を維持できる見込みが高い。実際【資料 7】のように、東京都の大学では地方からの学生の流入により、18 歳人口の減少を補う形で入学者数を確保している。

さらに、「年齢（5 歳階級）別将来人口（東京都、文京区）」【資料 8】によると、東京都全体の 15 歳から 19 歳の人口は 2025 年の 573,220 人から 2030 年には 588,866 人へと増加が予測されている。東京都全体で若年人口が増加することは、大学進学が必要が維持されることを示しており、文京区においても同様に、15 歳から 19 歳の人口が 2025 年の 9,345 人から 2035 年には 11,495 人へと増加が見込まれている。この人口の増加は、地域に根ざした学生確保の可能性を高める要因となる。加えて、東京都内の他地域からの学生流入が見込まれる文京区の立地は、新学部にとって安定した入学者確保を支える強固な基盤となり得る。

③新設組織の主な学生募集地域

新設組織であるヒューマン・データサイエンス学部が置かれる東京都への入学状況等を集約したのが「新設組織が置かれる都道府県への入学状況」【別紙 1】である。

「新設組織が置かれる都道府県への入学状況」【別紙 1】＜出身高校の所在地県別の入学者の構成比（上位 5 都道府県）＞を見ると、1 位：東京 54,268 人（34.5%）、2 位：神奈川 23,390 人（14.9%）、3 位：埼玉 18,327 人（11.7%）、4 位：千葉 14,112 人（9.0%）、5 位：茨城 5,375 人（3.4%）となっており、上位 5 都県の合計は 115,472 人で全体の 73.5%を占めている。また、本学では、これらの都県を重点的な募集地域としており、オープンキャンパスや入試イベントの参加者、資料請求者の多い地域も同様である。さらに、令和 6 年度入試の入学状況を見ても、入学者の多い上位 5 都県とその割合は、1 位：東京（37.5%）、2 位：埼玉（34.6%）、3 位：千葉（7.7%）、4 位：神奈川（3.2%）、5 位：茨城（3.1%）となっており、全体の 8 割以上を占めている。この入学者の構成は、東京都への進学状況とも一致している（表 1）。

このことから、東京都への全国的な入学状況と本学の既設組織における入学状況が対応していることが確認できる。したがって、新設組織の募集地域として、東京都への入学者が多い都道府県の高校からの入学を見込むことが可能であると言える。

表 1：令和 6 年度入試、新設組織が置かれる東京都への入学者上位都道府県と本学の状況

		1	2	3	4	5
東京都	入学者	東京	神奈川	埼玉	千葉	茨城
	接触者	東京	埼玉	神奈川	千葉	茨城
文京学院大学	入学者	東京	埼玉	千葉	神奈川	茨城
	接触者	東京	埼玉	千葉	神奈川	茨城

「新設組織が置かれる都道府県への入学状況」【別紙 1】＜新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況＞においても、東京都は令和 6 年度 102.88%、令和 5 年度 103.57%、令和

4 年度 103.70%と充足している。

「新設組織が置かれる都道府県への入学状況」【別紙 1】＜新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況＞においては、新設組織であるヒューマン・データサイエンス学部の学問分野となる「理・工学系（大学）」「社会科学系（大学）」で見ると、令和 6 年度の「理・工学系（大学）」で 99.39%と定員を充足していないが、「社会科学系（大学）」も含めその他の年度では定員を充足している。

以上のことから、新設組織の募集においても、既設組織で重点的な募集地域としてきた東京、埼玉、千葉、神奈川の 1 都 3 県に加え、資料請求等の接触者数において、令和 6 年度入試実績で接触者上位 6 位以降である、6 位：静岡、7 位：群馬、8 位：栃木、9 位：長野、10 位：新潟、11 位：福島、12 位：宮城も募集地域として学生募集に努めることとする。これらの 6～12 位の 7 県のうち、静岡、群馬、新潟、福島、宮城は地元残留率が東京への進学率を上回っているが東京への進学者数は地元に近い 2 位であり、栃木、長野は東京への進学者数が地元残留率を上回っており、入学者を見込むことが可能と考える。例年少数ではあるが入学実績もあり、接触者が他県よりも多いということは入学者となり得る顕在層と言える。7 県からの直近 3 年間の入学実績は表 2 の通りである。令和 4、5 年度入試はコロナ感染症蔓延の時期ということもあり入学者数は少ないが、令和 6 年度入試においては、7 県からの入学者合計数が前年度比で約 2 倍に増加している。今後も募集活動に努めることで 1 都 3 県以外においても出願・入学促進を図っていく。

表 2：接触者上位 6～12 位の地域からの入学者数

	静岡	群馬	栃木	長野	新潟	福島	宮城	合計
令和6	1	10	11	10	10	7	3	54
令和5	7	2	4	1	5	3	2	24
令和4	1	2	2	1	1	1	2	10

以上のように、新設組織の募集においては 1 都 3 県と北関東地域に加え、接触者状況を踏まえ募集地域を広域化していく。1 都 3 県では高校訪問やガイダンスなどの対面 PR を中心に行い、日常的に訪問などが難しい北関東と新潟、長野、福島、静岡については進学企業媒体や Web 広告、SNS を活用した PR を行い、高校生に向けて学生募集担当部署が管理運営をしている Web サイト「受験生サイト Switch On！」への流入を図り、新設組織の認知・理解を促進し、興味・喚起を醸成することで出願・入学促進を図っていく。

④既設組織の定員充足の状況

本学の既設組織の学部学科構成は、外国語学部（英語コミュニケーション学科 国際ビジネスコミュニケーション専攻／国際教養コミュニケーション専攻）、経営学部（経営コミュニケーション学科／マーケティング・デザイン学科）、人間学部（コミュニケーション社会

学科／児童発達学科／人間福祉学科／心理学科)、保健医療技術学部(理学療法学科／作業療法学科／臨床検査学科／看護学科)4学部11学科・2専攻を設置している。各学科の入試方式別の入学志願状況、及び入学者数は「既設学科等の入学定員の充足状況(直近5年間)」

【別紙2】で示す。なお、人間学部コミュニケーション社会学科はその教育課程を発展的に新設組織に引き継ぎ、令和7年度入試より募集を停止するため、学部学科構成は4学部10学科・2専攻となる。このため、「既設学科等の入学定員の充足状況(直近5年間)」【別紙2】においては人間学部コミュニケーション社会学科を除いている。

直近5年間の入学定員充足率の平均は、大学全体で0.88(人間学部コミュニケーション社会学科を除いた充足率、含めた充足率どちらも同様の数値)となっている。学科別の状況を分析すると、英語コミュニケーション学科、児童発達学科、人間福祉学科、作業療法学科、臨床検査学科で1.0を満たしておらず、他学科では充足している。ただし、未充足の学科についても、令和2年度までは児童発達学科(0.92)以外は1.0を満たしており、令和3年度から徐々に減少に転じている。令和3年度の減少要因としては、受験生総数の減少があげられる。文部科学省発表「令和3年度国公立大学入学者選抜実施状況」で私立大学の状況を確認すると、令和2年度から受験生数が志願者数、受験者数、入学者数ともに減少していることがわかる。志願者数比率は0.87、受験者数比率は0.87、入学者比率は0.98となっている。これに加え、令和3年度入試はコロナウイルス感染症蔓延も大学入試に影響を与えたと考えられる。私立大学全体で見ても、本学において定員を満たさなかった上記の学科に関わる学問系統が一様に志願者、入学者の減少が見られ定員も満たしていない。(表3)

表3：令和3年度志願者・入学者動向(大学)(令和2年度比較)

学問系統区分	保健	人文科学 (語学等)	社会科学 (社会福祉等)	教育	その他 (国際関係等)
志願者数増減 (R2年度比較)	△12,211	△87,953	△197,191	△17,866	△79,046
入学定員 充足率(%)	99.97	99.30	101.56 *1	94.40	99.49 *2

*1 社会科学系統の入学定員充足率は前年度比で増加しているが、増加しているのは経営、経済、法学、経営情報等の学部であり、社会福祉、観光、国際経営等の学部は減少

*2 その他系統では、国際、国際教養、国際関係、健康福祉等の学部が減少

参照：日本私立学校振興・共済事業団「令和3年度 私立大学・短期大学等入学志願動向」

また、本学の状況を入試区分で確認すると、前述した入学定員を満たさなかった学科の年内実施の総合型選抜では、令和2年度と比較すると大幅な減少はしていない。一方、一般選抜において全学科の志願者、入学者減少が顕著となっており、令和6年度入試まで減少傾向が続いている。一般選抜の志願者、入学者減少の要因としては、18歳人口減少に伴う受験生総数の減少や総合型選抜、学校推薦型選抜の年内入試へのシフトが進んでいることがあ

げられる。令和２年度と令和６年度の一般選抜と総合型、学校推薦型選抜の状況を比較すると、私立大学の入学者全体の構成比率（表４）で示す通り、一般選抜からの入学者比率が下がり、総合型選抜、学校推薦型選抜の年内入試からの入学者の割合が増加している。学校推薦型選抜の割合は４.１ポイント減少しているが、総合型選抜からの割合が６.８ポイント増加しており、受験生の受験志向の変化が見て取れる。特に総合型選抜においては、志願者、合格者、入学者がいずれも増加していることから、受験生が早期に進学先を決定し、本学は一般選抜に加え、年内入試（総合型、学校推薦型選抜）においても入学者を増加させることが難しかったと言える。

表４：令和２年度／令和６年度入学者選抜実施状況

参照：文部科学省「令和２年度国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」

文部科学省「令和６年度国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」

	令和２年度				令和６年度			
	志願者	合格者	入学者	入学者 構成比	志願者	合格者	入学者	入学者 構成比
全 体	4,427,250	1,350,432	493,321		3,724,570	1,494,147	479,227	
一 般 選 抜	3,775,790	1,008,391	213,422	43.2	3,045,817	1,078,926	186,987	39.0
推 薦 ＋ 総 合	646,636	340,018	278,735	56.5	612,937	383,963	283,968	59.2
推 薦	503,924	274,565	218,889	44.3	419,217	272,764	193,040	40.2
総 合	142,712	65,453	59,846	12.1	193,720	111,199	90,928	18.9

これらの私立大学入学者状況を踏まえた対策として、入学者選抜方法の見直しを図っている。令和７年度入試においては、１０月に専願制で実施している総合型選抜を併願制とすることで、これまで志願者として確保できていなかった入学可能性のある他大学との併願受験者の取り込みに繋げている。令和６年度入試からは、例年志願者が少数であった一般選抜Ⅰ期Ｂ日程の実施方法を見直し変更した。具体的には、受験生が得意科目を活用できるよ

う得意科目重視型の配点とした。さらに、2科目の受験を120分内での解答とし、試験開始時間を遠方者の移動負担を軽減できるよう午後開始とするなど工夫した結果、志願者数は125%と増加した。今後も入試状況と受験生の志望動向を踏まえた入試改革を行い、オープンキャンパス等入試イベントやガイダンス、高校訪問などPR活動を通して高校生や保護者、高校教員の理解を深め、出願及び入学意欲を醸成していく。

また、直近5年間の平均入学定員が未充足となっている学科に英語コミュニケーション学科、児童発達学科、人間福祉学科、作業療法学科、臨床検査学科があるが、英語コミュニケーション学科は後述で示す教育改革を中心とした取り組みの結果、令和7年度入試においては入学定員を充足できる見込みである。児童発達学科と人間福祉学科、臨床検査学科については高校生への訴求力を高めるべく、外国語学部及び外国語学部に先行して教育改革を行い志願者数増加の実績がある経営学部に倣い教育内容の改革に着手している。作業療法学科については、令和6年度入試では入学定員が充足していることから、引き続き定員充足できるよう高校生や保護者、高校教員へのPR活動に力を入れていく。

令和6年5月1日時点の大学全体（人間学部コミュニケーション社会学科含む）の収容定員充足率は0.84、直近5年間の平均収容定員充足率は0.94である。学部学科ごとの収容定員充足率は「学部学科の収容定員充足状況」（資料9）で示す通り、一部学科で収容定員に満たない学科があり、0.7倍未満の学科もある。0.7倍未満となっている学部・学科である外国語学部英語コミュニケーション学科、人間学部児童発達学科、人間学部人間福祉学科の要因としては以下があげられる。

外国語学部においては、コロナウイルス感染症蔓延を機に入学定員が未充足に転じた。海外留学や海外フィールドワークの中止、インバウンドの減少による観光業や国際関連職の低迷などの社会的影響を受け、外国語や国際分野を志望する高校生が減少したことが要因と考えられる。コロナ感染症が5類に移行して初めての入試となった令和6年度入試は高校生の外国語、国際分野志望も戻りつつあったが、年内入試においてコロナ以前は学校推薦型選抜で志願者を十分に確保できていた志願者が回復できなかったこと、また、18歳人口の減少に加え、受験生の年内入試へのシフトや一般選抜の競争緩和の影響により一般選抜で減少した入学者数の回復ができなかったことで、0.7倍未満となった。対応策として、外国語学部では既に教育内容の改革を行っている。英語スキル向上の体制と1年次からの少人数制初年次教育、2年次からの基礎ゼミといったPBL型の学びの導入、国内での留学環境も整備し、他大学との差別化を強化している。さらに、令和7年度入試からは入学定員を80名減じ、180名定員へと変更となる。これらの取組もあり、オープンキャンパス等入試イベントにおける外国語学部志望の参加者数も増加しており、令和7年度入試は入学定員充足を見込んでいる。

児童発達学科、人間福祉学科においては、国家資格、国家試験受験資格取得（児童発達学科は幼稚園教諭一種免許、保育士資格、小学校教諭一種免許、人間福祉学科は社会福祉士国家試験受験資格、精神保健福祉士国家試験受験資格、介護福祉士国家試験受験資格）に対応した学科であり、児童発達学科では3つの免許・資格が取得可能、人間福祉学科では2つの

国家試験受験資格が取得可能である。令和 2 年度までは児童発達学科で充足率 0.92、人間福祉学科で 1.01 と概ね充足していたが、令和 3 年度以降は（表 3）で示した通り、2 つの学科の学問系統志望者の減少、18 歳人口減少による上位大学の年内入試における合格者増と一般選抜の競争緩和の影響を受け、充足率が低下した。また、2 つの学科の学問系統志望者減少の要因は、関連する職業の人気不振など社会情勢の影響も大きいと考えられる。さらに、令和 5 年度の学校基本調査「学部別 学生数」を見ると、保育、子ども、児童発達、教育、福祉などが冠されている学部では女子の進学が高くなっているが、昨今の文理融合型も含め理系人材を育成する学部学科の新設の動向などで、女子の進路検討がこれまで以上に幅広くなっていることで他分野への受験生流出も考えられる。対応策として、外国語学部の教育改革に倣い、現在 2 学科でも教育改革を進めている。免許・資格取得に加え、各学科のリソースを活用し、実社会で活きる知識やスキルの修得環境を整備する。さらに、幅広いキャリア像を提示し、他大学との差別化を図ることで、新規層への訴求と高校生の潜在的ニーズの引き出しを目指している。また令和 7 年度入試では総合型選抜に併願制を導入し、新しい志願者層の出願につなげる努力を行っている。

新設組織であるヒューマン・データサイエンス学部の入学定員である 110 人においては、大学全体の動向として、理系人材を育成する学部学科の新設による女子学生の志望分野変更の様子も見て取れること、本学の募集地域である北関東、新潟、長野など東京への進学者が多い地域ではデータサイエンス系の学部学科が多くないことから、志願者を取り込むことが可能と考える。女子学生の志望分野変更については、学校基本調査「関係学科別の大学入学状況」において、私立大学への女子入学者における学問分野ごとの令和 6 年度（現大学 1 年生）と令和 3 年度（現大学 4 年生）比較で明らかである。女子入学者の人数で見ると令和 6 年度は対令和 3 年度で 1,006 と微増している。この 1,006 を基に各学問分野の入学者比率を見ると、理学 1.17、工学 1.24、農学 1.11 と増加している。一方で家政（家政学関係）0.77、家政（児童学関係）0.62 と減少しており、女子学生の志願者が多くを占める家政分野から他分野への流出が起こっていることがわかる。また、学校基本調査を基にリクルート進学総研がまとめた「マーケットリポート 2023」で都道府県別の大学進学率を確認すると、本学の募集地域である 12 都県（東京、埼玉、千葉、神奈川、茨城、栃木、群馬、静岡、新潟、長野、宮城、福島）のうち、東京、埼玉、千葉、神奈川は全国で 10 位以内、茨城、栃木、群馬、静岡は 20 位以内であり、ランキング外となっている新潟は 49.6%、長野は 48.4%と全国的に見ても進学率が高い地域である。加えて、前述の「③新設組織の主な学生募集地域」でも述べたように、12 都県は東京への進学者数が地元残留率を上回る 1 位、もしくは 2 位を占めており、新設組織で身につけることができるこれからの社会ニーズに即した新設組織の教育内容、養成する人材像と進路イメージを丁寧、且つ具体的に案内することで志願に繋げていく。

また、教育課程を発展的に新設組織へ引き継ぐことを目的に募集を停止した人間学部コミュニケーション社会学科は、本学の理念である「自立と共生」の根幹をなす教育を展開していた学科であり、それらの教育課程を活用するとともに、他既設組織の学問領域要素も取

り入れることで、本学独自の文理融合型の教育課程と人材育成を目指している。前述の社会的動向の分析でも述べたように、今後の社会ニーズにおいても必要不可欠な人材育成に基づいた学部でもあり、保護者や高校教員に共感が得られると期待できる。実際に他学部の教育改革の実績として、令和5年度募集時に改革を行った経営学部を挙げると、デザイン思考を学びの軸に据え1年次からPBL学習やインターンシップ、フィールドワークなどを導入することで、実践的な学びの機会創出を強化した。実社会との関りから社会課題を発見、解決する力を身につけ変化の激しい時代を乗り越えることのできる人材を育成する改革内容を、高校生はじめ、保護者や高校教員へ展開している。改革の結果として、令和5年度募集において本学を第一志望として専願制の入試（総合型選抜、学校推薦型選抜）に出願した志願者数は、前年度比130.60%と、受験生総数の減少に伴い私立大学全体の志願者数が前年度比97.15%と減少したにも関わらず、増加している。新設組織の特色として、「文理融合型教育」「社会課題とデータサイエンスの適合性を考慮したドメイン別教育」「社会課題発見スキル、プロジェクトマネジメントスキル修得のためのPBL（Problem Based Learning 及び Project Based Learning）教育」「『社会課題発見スキル×データサイエンス・AI活用スキル×プロジェクトマネジメントスキル』を実現するゼミナール・卒業研究」の4点があり、これらを通して幅広い視野と実践的なスキル、社会課題に対応できる力を身につけることが可能である。そのため、保護者が子どもの進学先検討の重視点として上位10位以内に挙げる卒業後に関すること、具体的には「社会で活躍できる(3位)」「就職に有利である(5位)」「将来の選択肢が増える(6位)」(「第11回 高校生と保護者の進路に関する意識調査2023」リクルート『キャリアガイダンス』調べ)を満たす教育内容でもあり、経営学部同様に保護者や高校教員の共感が期待できると考えている。さらに、社会背景として内閣府が提唱しているデジタル田園都市国家構想実現のための各省庁の施策充実・強化や、科学技術、学術における男女共同参画の推進において次代を担う理工系女性人材の育成、理工系分野のキャリアに関する女子生徒、保護者、教員の理解を促す取組の推進などの後押しもある。高校生においても、文理融合型の学びであることから理工系への進路を検討している学生をはじめ、文系志望学生のどちらも入学対象となり110人の入学定員確保は可能と考える。

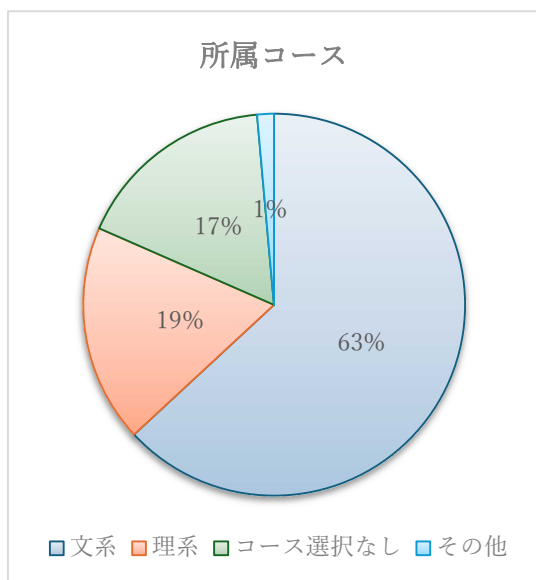
実際、後述する学生確保に関するアンケート調査の結果でも、入学希望の回答を得た141名のうち、文系が63%、理系が19%と、文系が多いものの、分野に関わらず入学対象となることが確認された。(グラフ1)

また、アンケートの設問6において、新設組織の特に魅力を感じる特色として141名の高校生が選択した項目では、「2. 文系・理系に関わらずデータを利活用する力を身につけることができる」「3. データサイエンスだけでなく、健康・生活、地域・環境、ビジネス・文化を学ぶ文理融合型の学部」「4. 理系科目が苦手でも安心できる丁寧な学びの環境」といった、文理融合型の特色を示す項目のいずれかを選択した人数が60%に上っている。(グラフ2) これにより、文系・理系のどちらの志望者も入学対象となり得ることが分かる。

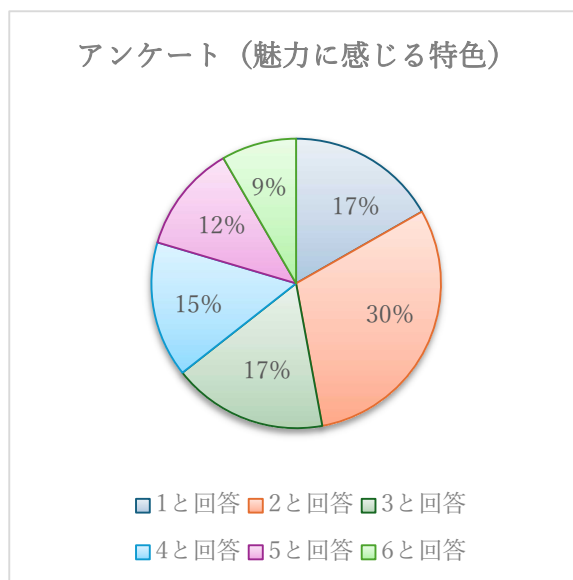
募集活動においては、アンケート調査結果を基に、文系・理系それぞれに適した訴求方法を工夫し、文理融合型の学びへの理解を深めるとともに、双方の進路検討を後押しできるよ

う、丁寧な広報を行っていく。

<グラフ 1>



<グラフ 2>



（３）学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

新設するヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科は、データサイエンスの実践スキル及び「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の３ドメインの知識の修得を特色としている。新設組織と近接する学問分野を持つ既設組織としては、外国語学部、経営学部、人間学部、保健医療技術学部の全学部が対象となることから、大学全体の取組を取り上げることとする。

取組内容としては大きく４つに分類して検証する。学内での活動として１）オープンキャンパス等入試イベント。そして学外での活動として高校内で実施するガイダンスや出張講義、進学企業等が主催する会場形式の相談会をまとめた２）ガイダンス。さらに、３）職員による高校訪問、高校教員対象入試説明会。最後に対面以外でのPR活動として４）広報媒体を取り上げる。年間を通して高校生をはじめ、保護者や高校教員に対して様々な接触機会を設けて、本学を知り、理解を深めてもらえるよう努めており、具体的には以下の取組を行っている。

１）オープンキャンパス等入試イベント

本学は東京と埼玉に２キャンパスを設置しており、オープンキャンパス等入試イベ

ントは毎回両キャンパスで実施している。開催日程は年間11回、3月（1回）、5月（1回）、6月（1回）、7月（1回）、8月（3回）、9月（2回）、10月（2回*各キャンパス1回）、12月（1回）で、高校生の進路検討時期に合わせてオープンキャンパスや個別相談会、進学相談会等名称や内容を変えて実施している。令和6年度のオープンキャンパスは、3月、5月、6月、7月、8月（3回）、9月（1回）の計8回実施した。プログラムには、教員と学生が学びの内容を紹介する学部学科ガイダンス、フリートークによる交流、職員による個別入試相談、学生が案内する学科別キャンパスツアーを用意している。さらに、外国語学部では英会話体験、人間学部や保健医療技術学部の資格取得学科では実習体験・実習室見学を実施した。学年を問わず、本学の学習環境を活かし、各学科の学びを深く理解できるよう展開している。また、リピーター参加者が増える8月には、本学への出願意欲を高めてもらうよう、受験生向けに小論文や面接などの受験対策講座を特別に実施するなど、各回で初参加者とリピーター、学年を意識したプログラム構成としている。令和6年度は上記オープンキャンパスの他、受験生の疑問や不安を解消し出願意志を固めてもらうべく、個別対応の入試個別相談をメインとした相談会を9月（1回）、10月（1回）、12月（1回）の3回実施した。特に10月の相談会は大学祭と同時開催とすることで、キャンパスライフの雰囲気も感じることができるよう工夫をしている。

オープンキャンパス等入試イベント参加者の人数、そのうちの出願者数、入学者数については、「既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績①」【別紙3】で示す。令和6年度募集活動として令和5年に開催したオープンキャンパス等入試イベントの来場者数は3,299人、そのうち受験対象者は2,185人であった。2,185人の受験対象者のうち、出願したのは767人（35.1%）で入学したのは647人（29.6%）であった。令和6年度入学者のうち本学のオープンキャンパス等のイベントに参加した人数の割合は67.7%であった。

2) ガイダンス（高校内説明会、出張講義、学外進学相談会等）

高校生との対面での接触機会を多く設け、本学の認知と大学理解を深めること、そして高大接続の観点から高校生が様々な学問分野系統の学びと社会の結びつきに対して気づきや発見をもたらし、より具体的な進路検討を支援することを目的に、進学企業が主催する学外でのガイダンス等に参加している。主に高校内で大学説明や学問系統別の説明、出張講義などを行う高校内説明会、複数の大学が一つの会場に集まる会場形式の進学相談会への参加となる。一都三県を中心に参加しており、令和6年度の募集活動としては高校内大学説明会に183校290回、出張講義に57校61回、会場形式進学相談会に67回参加した。

学外でのガイダンス等への参加者の人数、そのうちの出願者数、入学者数については、「既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績②」【別紙3】で示す。令和5年に参加したガイダンス等の参加者数は2,858人、そのうち受験対象者は673人であ

った。673 人の受験対象者のうち、出願したのは 82 人（12.2％）で、入学したのは 63 人（9.4％）であった。

3) 職員による高校訪問、高校教員対象入試説明会

本学への入学者を出身高校の所在地県別構成比で見ると、東京、埼玉、千葉、神奈川、茨城の 1 都 4 県が例年上位となっており、令和 6 年度入試では入学者の 86.17％を占める。また、資料請求やオープンキャンパス参加などの接触者数も 1 都 3 県に所在する高校が多くなっている。このことから本学の学生募集の重点エリアである 1 都 3 県を中心に重点高校として約 250 校を定め訪問を行っている。進路指導担当の教員には、在学生や卒業生の大学生活や進路の状況を報告し、本学の学びや入試制度の詳細を説明している。さらに、高校の要望や高校生の志望状況を伺い、意見交換を行っている。例年 6 月には、高校教員を本学に招き、当該年度の入試説明を実施するとともに、学生の活動発表を通じて、本学の特色である実践・体験型の活動を体感してもらっている。また、参加高校出身の在学生との懇談の時間を設け、直接大学生活の様子を伝えている。

4) 広報媒体

高校生向けの Web サイトとして大学公式ホームページの他、「受験生サイト Switch On!」を学生募集担当部署が管理運営し、LINE や Instagram などの SNS、Web 広告や進学企業サイトと連動した広報活動を展開している。「受験生サイト Switch On!」では、入試情報やオープンキャンパス等の入試イベント情報の他、学部学科の学びの特色、就職・資格、学生生活の様子などを中心に高校生がスマートフォンでアクセスすることを念頭にユーザビリティを意識した構成で運営している。近年は高校生の志向に合わせ授業や課外活動、大学生活などの動画を多数制作して YouTube に投稿し、SNS を活用している。それにより、オープンキャンパス等入試イベントに参加できない高校生にも情報を届け、本学への興味・関心を持ってもらえるよう努めている。最新の情報発信やコンテンツの内容、更新などは高校生の進路検討時期を考慮し、オープンキャンパス等入試イベント来場促進や出願促進につなげている。令和 5 年度の「受験生サイト Switch On!」アクセス数は 1,230,287、SNS のメディアごとのフォロワーと情報発信数は LINE が 13,496 人、約 60 回、Instagram が 1,328 人、約 300 回、X が 2,519 人、約 100 回、TikTok が 585 人、約 100 回、Facebook が 1,227 人、約 300 回であった。

令和 7 年の大学全体の目標は、オープンキャンパス等入試イベントにおいて高校 3 年生や既卒生など受験対象者の来場者数を実人数で 2,610 人とする。これは、令和 8 年度入試で予定している既設学部学科の入学定員 1,080 人に新設学部学科の入学定員 110 人を加えた入学定員全体の 1,190 人に対して、「既設学部学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績①」【別紙 3】で示した、令和 6 年度入試におけるオープンキャンパス等入試イベントに参加した受験者のうちの入学者数 647 人と入学率実績 29.6％を踏まえ算出した人数となる。入学

者 647 人は令和 6 年度入学者全体の 67.7%にあたる。このことから、令和 8 年度入試においては、オープンキャンパス等入試イベント参加者からの入学率を 31%まで向上させ、入学定員の 68%の入学者を目標とする。既に令和 7 年度入試の募集活動として、令和 6 年に実施したオープンキャンパス等入試イベントではプログラム内容の見直しや来場促進に取り組んでおり、受験対象者の参加数も前年度と比較して増加している。令和 7 年についても、引き続きプログラム内容の精査や来場促進につながる広報展開を工夫することで、2,610 人の来場者数目標達成が可能と考える。また、参加者の満足度を高めることで入学率の向上も目指し、入学定員の 68%にあたる 809 名の入学者を見込むことが可能と考える。

イ 新設組織における取組とその目標

新設組織であるヒューマン・データサイエンス学部においては、上記記載の「既設組織における取組とその目標」を踏まえ、以下の取組に注力し実施する計画である。

1) 既設組織と同時開催のオープンキャンパス、新設組織独自のオープンキャンパス

令和 6 年度オープンキャンパスとしての開催は 3 月、5 月、6 月、7 月、8 月（3 回）、9 月（1 回）の 8 回、入試個別相談をメインとした相談会を 9 月（1 回）、10 月（1 回）、12 月（1 回）の 3 回実施した。令和 7 年も同様の回数を予定しており、各回で新設組織対応のプログラムを実施することとしている。学部の学び説明の他、本学の特色である実践・体験型の学びを体感してもらうよう参加型のプログラムも企画する。後半の入試個別相談会でも、手厚い個別対応で学部理解や入試理解に努めることとする。また、新設組織独自のオープンキャンパスを計画している。新設するヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科ではデータサイエンス及び、

「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の 3 ドメインの知識や実践スキル習得を特色としていることから、それぞれのドメインでの学びがイメージでき、社会の中でそれらの領域とデータサイエンスの関りが理解できるようなプログラム構成とし、卒業後の進路イメージも提示することとしたい。実社会におけるニーズの高まりを実感できるよう、データを活用して社会課題やビジネス課題の解決に取り組んでいる卒業生や企業の方を招いた講演なども計画する。文理融合型の学びを展開することから、これまで本学に接触のなかった分野の文系志望者や理系志望者といった新規層の参加増加も狙っている。

また近年、大学における「データサイエンス」を冠する学部、学科の新設が続き、各大学の「データサイエンス」の教育プログラムが多様なことから、高校生や保護者の他、高校教員についても各大学の特長を理解するのが困難であると推測される。このため、進路指導を担当する高校教員への理解を促すことができるよう、高校教員向けの説明会等も計画している。

2) 高校内大学説明会、出張講義、高校訪問

令和 6 年度の募集活動として、高校内大学説明会に 183 校 290 回、出張講義に 57 校 61 回、会場形式進学相談会に 67 回参加している。令和 8 年度入試においては例年の参加数は保ち、加えて約 50 回の追加を計画している。追加する高校は具体的には 1 都 3 県で本学にこれまで出願実績が少ない農業、工業の専門科を有する高校や、一部の学部で出願実績がある商業科を有する高校、DX ハイスクール採択校を候補としている。進学企業の協力を得ながら大学進学に関する調査を行い、高校内大学説明会や出張講義の機会を創出していく。

高校訪問についても対象高校の増加を計画している。これまでの出願、入学実績を踏まえ、1 都 3 県の重点校を中心とした高校訪問を継続するとともに、上記の専門科を有する高校や DX ハイスクール採択校への訪問を増やしていく。職員による高校訪問を通して高校の探求学習や DX ハイスクール採択校の情報、数学教育、文理横断的な学びに対するニーズと新設組織における学びをマッチングさせることで、高大接続の取組への発展も期待できる。また、本学は一般選抜において宮城、長野、静岡でも入試を実施しており、いずれの県もデータサイエンス系学部学科を設置している大学が少ないエリアであることから、高校訪問を強化し新設組織の認知・理解に努める。

3) ホームページ、パンフレット等制作物、広報媒体

大学ホームページと高校生向けホームページ「受験生サイト Switch On!」において既に新設組織の開設予定は告知しているが、さらにコンテンツを充実させることを予定している。学生募集担当部署が管理運営をしている「受験生サイト Switch On!」は SNS や Web 広告、進学企業媒体など様々な広報媒体との連動で高校生の誘導をいち早く図ることが可能であることから、先行してリニューアルを行っていく。月平均約 10 万アクセスがあるが、サイト内ページで見るとトップページ、オープンキャンパストップページ、学部学科案内トップページ、入試ページへのアクセスが多い。これらの多数のアクセスがあるページに新設組織への導線を設定し、新設組織が目的ではない層にも閲覧してもらう構造とする。さらに、学外のガイダンス等での接触者や高校教員向けツールとして新設組織独自のパンフレット、動画制作も計画している。新設組織が近接する学問分野系統はデータサイエンス及び、「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の 3 ドメインであることから、これまで対象外だった多数の高校生へのアプローチも可能となる。文理問わず幅広い新規層の取込みには、進学企業の企画を活用し、新設組織のパンフレットや DM の配布や動画、「受験生サイト Switch On!」への流入、オープンキャンパス等入試イベントへの参加促進を図っていく。

ウ 当該組織の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績」【別紙 3】に基づき、新設組織であるヒューマン・データサイエンス学部の入学定員 110 人の入学者の見込み数を算出した。

令和 6 年度入試において、オープンキャンパス等入試イベント参加者で受験対象者 2,185 人のうち、本郷キャンパスにおける受験対象参加者数は 1,313 人（高校 3 年生、既卒生など受験対象者）、そのうち 29.0%が本学に入学している。本学の本郷キャンパス既設組織 5 学科の平均来場者数は 1 学科あたり 263 人（高校 3 年生、既卒生など受験対象者）であり、新設組織においてもオープンキャンパス参加促進施策を展開することで、263 人の参加者確保を目標とする。令和 6 年度入試と同様

の入学率と仮定すると、参加者 263 人のうち入学者は 76 人となる。前述した令和 8 年度入試の目標入学率である 31%が達成された場合には、約 82 人の入学者が見込まれる。例年のオープンキャンパスに加えて、新設組織独自のオープンキャンパスを開催するなどして目標が達成できるよう努める。

その他に、「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績_②」【別紙 3】で示す通り、令和 6 年度入試において高校内大学説明会、出張講義、学外進学相談会等のガイダンス参加者（高校 3 年生、既卒生など受験対象者）の 9.4%と参加者の約 1 割が入学している。なお、学外でのガイダンスについては参加者の個人情報取得できないケースもあり、実際の参加者数と受験者数、入学者数は報告の数値よりは高いと推測される。また、令和 8 年度入試においては、高校内大学説明会や出張講義で新設組織対策として 50 回の追加を計画しており、実施回数は 112%となる。受験対象者の参加数も同様に 112%と仮定し、さらにガイダンス内容をよりブラッシュアップすることで、入学率を 13%まで向上させることを目標とする。達成できた場合、受験対象参加者数は 754 人となり、13%の入学率と仮定すると 98 人の入学者となる。この人数を各学科の入学定員に照らし合わせると、約 9 人の入学者見込みとなる。個人情報取得できない受験生数を考慮すると、9 人以上は確保が可能と考える。

また、「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績_③」【別紙 3】で示す通り、令和 6 年度入試において資料請求者からの入学率は 1.3%、112 人である。この人数は上記実績 2 つの入学者とは重複していない人数であり、例年対面での接触のない受験者、入学者が一定数存在する。本学に来校が難しい受験生でも、資料請求やホームページを通じて出願できるようにしており、受験の機会を広げていると言える。前述した通り、ホームページリニューアルや進学企業サイトへの新設組織案内の掲出、独自のパンフレット等制作などの施策で、令和 8 年度入試において受験対象者からの資料請求数は前年比 120%を目標とする。達成できた場合、資料請求数は 10,079 人となり、同様の入学率と仮定すると 131 人の入学者となる。この人数を各学科の入学定員に照らし合わせると、約 12 人の入学者見込みとなる。

上記 3 つの PR 活動による入学見込み数の合計は 103 人となる。この他、例年、入試イベント参加やガイダンス、資料請求などの事前接触がない出願・入学者が一定数おり、令和 6 年度入試では 150 人の入学者であった。上記で述べた資料請求者からの出願・入学同様に、本学のホームページ上で学部学科の学び、学生の実践的な活動の様子と成長の過程、入試情

報の詳細や大学パンフレットデジタル版へのアクセスなどにより、事前接触がない受験生も獲得できていることがわかる。令和6年度入学者150人を各学科の入学定員に照らし合わせると、事前接触がない入学者は14人の入学見込みとなり、合計すると117人の入学見込みとなり、入学定員110人を充足する。

②競合校の分析状況

ア 競合校の選定理由と新設組織との比較分析、優位性

ア. 1. 競合校の選定理由

競合校については、以下の観点により4校を選定した。

- ・学校種の類似性：私立の4年制大学
- ・定員規模の類似性：入学定員30名以上の大学、学部を選定
- ・学問分野の類似性：データサイエンス分野の学部・学科を選定
- ・所在地の類似性：関東圏の大学、学部を選定
- ・学力層の類似性：本学保健医療技術学部偏差値（42.5）から5程度上の学部まで選定

<表 5. 競合校一覧>

大学	学部学科名	入学定員	偏差値	所在地
武蔵野大学	データサイエンス学部 データサイエンス学科	90	45.0	東京都江東区有明3-3-3
順天堂大学	健康データサイエンス学部 健康データサイエンス学科	100	45.0	千葉県浦安市日の出6-8-1
専修大学	ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科	235	47.5	神奈川県川崎市多摩区 東三田2-1-1
明星大学	データサイエンス学環	30	42.5	東京都日野市程久保2-1-1

*「大学受験パスナビ」(株式会社旺文社)における令和6年度入学者選抜の数値を引用して作成。

ア. 2. 競合校との比較分析

以下の比較分析により本学の特色を説明する。

ア. 2. 1. 教育内容と方法

本学部は、建学の精神「自立と共生」に基づき、「人と人、人と地域、人と自然が共生する社会」の創造を目指した文理融合型の教育を展開している。特に、「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の3つのドメインを中心に据え、社会課題を発見し、データサイエンスを活用した解決策を提案する能力を養うことを教育の柱としている。この学びは、単なる理論修得に留まらず、社会で必要とされるスキルと実践力を兼ね備えた人

材の育成に重点を置いている。

本学部の特徴は、文系・理系を問わず、社会課題解決に関心を持つ多様なバックグラウンドの学生を幅広く受け入れる点にある。文系学生でもデータサイエンスの専門的な知識を無理なく学べるよう、リメディアル教育を通じて、一人ひとりの習熟度に応じた支援を実施している。さらに、入学前教育として、数学や情報分野への取り組み方を身につけるプログラムを用意し、全ての学生が安心して大学での学びをスタートできる環境を整えている。

本学部のカリキュラムは、1年次から4年次にかけて段階的に実施されるPBL型教育を特徴とする。1年次には地域社会や企業と連携した課題解決型学習を経験し、2年次以降にはプロジェクトマネジメントの理論や応用を学びながら、より高度な社会課題に取り組む。これにより、学生は課題発見力と分析力に加え、ステークホルダーと協働して成果を出すための実践的な能力を養うことができる。

他大学と比較した際、本学部の最大の優位性は、文理融合型の学びを軸にした広範な対応力である。例えば、武蔵野大学データサイエンス学部や順天堂大学健康データサイエンス学部が、それぞれデータサイエンスや健康分野に特化した教育を展開しているのに対し、本学部は健康分野に加え、地域やビジネス分野も横断的に学べるカリキュラムを構築している。次に、専修大学ネットワーク情報学科がICTやネットワーク技術者の育成に強みを持つ一方、本学は文理融合型のデータサイエンス教育を基盤とし、データ分析や情報技術に加え、社会調査や課題解決型の学びを通じた応用力の育成に注力している。これにより、情報技術の専門性に加えて、企業や行政の調査業務や地域課題の解決に貢献できる人材を育成する体制が整っている。また、明星大学データサイエンス学環が企業の実務に即した即戦力の育成を目指す教育を展開しているのに対し、本学は「課題発見力」「マネジメントスキル」を備えた人材を育成するPBL型教育を重視している。1年次から企業や地域と連携したプロジェクトに取り組む実践的な学びを提供することで、社会の多様なステークホルダーと連携しながら課題を発見し、解決する力を養うという点で、教育のアプローチに明確な違いがある。

さらに、学びを支える施設や環境も充実しており、実践的な活動を支援する設備を整えている。例えば、学内にはデータ解析ツールやものづくりの設備を備えたラボが設置される予定で、学生たちは実際の現場に近い環境で学ぶことができる。また、学びの過程で身につけた知識やスキルを実社会で活かすため、地域社会や企業と連携したプロジェクトやインターンシップの機会を多く提供している。

これらの取り組みにより、本学部は、多様な社会課題に対応できる人材の育成において他大学と一線を画しており、理論から応用、さらには実践まで一貫して学べる体系的な教育プログラムを通じて、学生の可能性を最大限に引き出すことが可能である。

ア. 2. 2. 入試（競合校の受験時期、入学手続時期との関係）

<表 6. 文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部入学試験一覧>

入試区分	本学入試名称	試験日程	選抜方法
総合型選抜	9月総合型選抜（専願）	9月中旬	書類審査、小論文またはプレゼンテーションの審査及び面接を実施する。
	10月総合型選抜（併願）	10月中旬	
	12月総合型選抜（専願）	12月中旬	
	2月総合型選抜（専願）	2月下旬	
学校推薦型選抜	公募制学校推薦型選抜	11月中旬	高等学校の調査書、学校長の推薦書、活動報告書の他、面接を実施し、学力の3要素を多面的・総合的に評価。
	指定校制学校推薦型選抜	11月中旬	
一般選抜	共通テスト利用選抜 2科目/3科目型判定	1月中旬	大学入学共通テストの得点と高等学校の調査書を元に多面的・総合的に評価。
	全学統一選抜	1月下旬	学力試験、高等学校の調査書を元に多面的・総合的に評価。
	一般選抜Ⅰ期	2月上旬	
	一般選抜Ⅱ期	2月下旬	
	一般選抜Ⅲ期	3月上旬	

本学の入試制度は、専願型選抜の一貫性と入学手続きの柔軟性が大きな特徴である。特に、総合型選抜（9月は専願、10月は併願、12月は専願）と学校推薦型選抜（公募制・指定校制）の5回の選抜機会を通じて、早期から受験生の進路決定を支援する仕組みが整えられている。多くの競合校が専願型と併願型を併用する中、本学では学校推薦型選抜（公募制・指定校制）及び9月・12月の総合型選抜を専願型で実施し、第一志望とする受験生を積極的に受け入れている。これにより、志望意欲の高い受験生が早期に進路を確定しやすい環境が整っている。一般選抜も受験機会を複数回設け、文系・理系どちらの科目でも受験可能とすることで、受験生の状況に応じた柔軟な対応を行っている。また2月にも総合型選抜（専願）を設定することで、早期の進路確定が難しい受験生も、最後まで挑戦を続けられる環境が整備されている。

また、入学手続きの柔軟性にも配慮している。入学二次手続きの締め切りは競合校と同様3月上旬に設定されており、受験生の状況に応じた手続きのしやすさが考慮されている。これにより、進路選択のタイミングに一定の幅を持たせることで、受験生の負担を軽減している。

ア. 2. 3. 学生納付金、奨学制度などの修学支援の内容

<表 7. 各大学における学生納付金>

大学	入学金	授業料等	初年次納付金	4年間の納付金
文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部	270,000円	1,170,000円	1,440,000円	5,520,000円

大学	入学金	授業料等	初年次納付金	4年間の納付金
ヒューマン・データサイエンス学科				
武蔵野大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科	180,000円	1,337,000円	1,517,000円	5,717,000円
順天堂大学 健康データサイエンス学部 健康データサイエンス学科	200,000円	1,400,000円	1,600,000円	5,800,000円
専修大学 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科	200,000円	1,256,000円	1,456,000円	5,362,000円
明星大学 データサイエンス学環	200,000円	1,380,000円	1,580,000円	5,792,600円

※各大学公式ホームページを参照

本学の入学金は 270,000 円で、これは大学全体で共通の金額である。他大学と比較するとやや高い水準ではあるが、授業料は受験生及び保護者の経済的負担を考慮した適正な水準に設定している。具体的には、初年次納付金は 1,440,000 円、4 年間の合計納付金は 5,520,000 円であり、これは教育環境の充実と負担軽減の両立を図ったバランスの取れた金額である。特に、ヒューマン・データサイエンス学部では、データサイエンス分野の専門教育に必要な先端的な学びの環境を整備しており、学生が質の高い教育を受けられるようカリキュラムや設備の充実に努めている。これにより、学生が将来にわたって活躍できる力を身につけられる環境が提供されている。

<表 8. 各大学における入学検定料>

大学	入学検定料	対象
文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部	35,000円	総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜
ヒューマン・データサイエンス学科	15,000円	大学入学共通テスト利用選抜
武蔵野大学 データサイエンス学部	35,000円	総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜
データサイエンス学科	15,000円	大学入学共通テスト利用選抜
順天堂大学 健康データサイエンス学部	60,000円	一般選抜、共通テスト・一般併用選抜
健康データサイエンス学科	40,000円	大学入学共通テスト利用選抜
専修大学	35,000円	総合型選抜、学校推薦型選抜

大学	入学検定料	対象
ネットワーク情報学部	32,000円	一般選抜
ネットワーク情報学科	17,000円	大学入学共通テスト利用選抜
明星大学	35,000円	総合型選抜
データサイエンス学環	30,000円	一般選抜
(*学校推薦型は非公開)	12,000円	大学入学共通テスト利用選抜

※各大学公式ホームページ、募集要項を参照

本学では、受験生が安心して出願できるよう、入学検定料の明確さと納得感を重視している。総合型選抜・学校推薦型選抜・一般選抜は 35,000 円、大学入学共通テスト利用選抜は 15,000 円とし、一律の料金体系で分かりやすさを確保している。他大学と比較すると、武蔵野大学と同水準であり、専修大学や明星大学のように方式ごとに料金が細かく異なる大学もある中で、本学は統一した料金体系とすることで、受験生が迷いにくい点も強みである。また、共通テスト利用選抜の検定料も適正な範囲に設定されており、複数の大学を併願する受験生にとっても出願しやすい料金体系となっている。全体として、他大学と比べても合理的な価格設定を維持し、受験生が出願しやすい環境を整えている。

加えて、入学後も安心して学び続けられるよう、奨学金制度を整備し、経済的な支援を行っている。他大学と同様に、日本学生支援機構（JASSO）を活用できるほか、「各大学独自の奨学金制度一覧表」【資料 10】の通り、本学では入試成績優秀者向けのスカラシップ制度、学業継続支援の奨学金、資格取得を支援する奨励金など、多様な支援策を設けている。

スカラシップ制度では、入試成績優秀者を対象に、一定の条件を満たすことで奨学金を給付する制度を整えている。また、教育支援奨学金（B's エデュケーション）や島田依史子記念奨学金（B's ライフ）では、学業成績に加え、大学での学びを活かした社会貢献や研究活動への取り組みも評価の対象となる点が特徴である。他大学でも成績優秀者や経済的支援を目的とした奨学金はあるが、本学は学生の主体的な学びや挑戦を積極的に評価し、支援につなげる仕組みを整えている。また、資格取得を支援する奨励金を設け、学内での学びを深めながら専門性を高める機会を提供している。奨学金制度を通じて、学びを深めたい学生が経済的な理由で進学や挑戦を諦めることなく、安心して学べる環境を整えている。

ア. 2. 4. 就職支援の内容

文京学院大学では、学生の社会的・職業的自立を支援するため、キャリアセンターを中心に個別支援体制を強化している。この支援は、学生の進路選択や就職活動において、個々のニーズに対応したきめ細かなサポートを提供することを目的としている。

【個別支援の概要】

キャリアセンターは、学生一人ひとりの希望や目標に応じて、ゼミナール別の支援を行っている。特に、就職活動が本格化する3年次からは、ゼミナール別に担当者を配置し、ゼミナール教員と連携して、学生のキャリア形成を支援する。担当者は、学生が目指す業界や職種に合ったアドバイスを提供し、具体的な企業紹介や就職活動に関する個別指導を行う。これにより、学生は自分に合った進路を見つけ、就職活動に自信を持って臨むことができる。個別面談や個別相談も継続的に実施し、学生の進捗や悩みに応じて適切なアドバイスを行っている。

このように、キャリアセンターでは、学生の特性に合わせた支援を行うため、ゼミナールの教員と密接に連携し、個別の進路相談や活動支援を行う体制を整備している。こうして、ゼミナールごとの支援を通じて、学生は自分のキャリアに対する理解を深め、実践的な就職活動を進めることができる。

【学部・学年別の支援】

キャリアセンターは、入学直後の1年次から卒業時まで、段階的なサポートを提供する。1年次では必修科目「キャリアデザインⅠ」を通じて、交流を通じた自己理解の深化や多様な価値観の共有を学び、続く「キャリアデザインⅡ」ではキャリア理論を学びながら、自身の課題を発見し、キャリアプランを作成する力を養う。また、2・3年次の選択科目「インターンシップ」では、夏期休暇中に企業や地域団体での職場体験を行い、事前・事後授業を通じて職業観を養い、進路選択に役立てる。

また就職活動に直結するマナー講座、公務員講座、筆記試験対策講座を始め、業界理解を深めるためのシュウカツマスター講座やジョブフェア（学内業界・企業研究会）など、各種イベントを通して、学生が自分のペースで参加できる機会を提供している。また、本学独自の取り組みとして学生キャリアサポーターによる後輩就職支援活動も実施している。

【連携体制と教育支援】

キャリアセンターは、学内の各部門と連携して、学生への支援を強化している。特に、ヒューマン・データサイエンス学部のキャリア委員会は、学部内の就職支援に関する重要な役割を担うことになるため、キャリアセンターと連携して学生の就職活動を支援することになる。他学部のキャリア委員会同様に、月例の委員会では、キャリア教育や就職支援に関する情報共有や検討を行い、学生が必要とする支援をタイムリーに提供する体制を整えていくことになる。

また、キャリアセンターは、企業とのネットワークを広げ、卒業生の進路を把握することで、企業とのつながりを深めている。これにより、学生にはさまざまな業界での就職機会が提供され、個別の支援を通じてより具体的な進路選択が可能となる。特に就職が本格化する3年次からは、学生が自己理解や業界理解を深め、面接対策に備えられるよう、より就職活動に直結するテーマ別の講座の開催や、企業による見学会や説明会等、企業との接点を拡大するための企画を実施することで、学生のキャリア形成に有益な情報や知識の提供を強化

していく。具体的には、Weekly オンライン企業説明会、新卒応援ハローワークによる企業紹介会、UI ターンガイダンス、インターンシップ&キャリア発見フェア、ジョブフェア、就活交流会等、企業との連携により、それぞれのニーズに合わせた企画を多数実施している。

【全学的な支援体制】

全学的なキャリア支援体制の中心として、キャリア戦略会議委員会では、各学部のキャリア委員会及び支援活動を統合し、大学全体の就職率向上を目指した戦略を策定している。これにより、全学的な視点で学生の就職活動を支援し、キャリア教育の質を高めている。

このように、個別支援を中心にしたキャリア教育・支援体制は、学生一人ひとりの進路選択を支え、社会的・職業的自立を促進している。

競合する他大学と比較した際、キャリアガイダンスやインターンシップ、学内企業説明会など各就職支援プログラムはどの大学も行っているが、本学の就職支援の中で特に大きく優位性があり、またその特徴となるものとして、以下の3点が上げられる。

①キャリアカウンセラー資格を有するスタッフが多く在籍し、全学生に対してゼミ別担当制を敷くことにより早期から全員学生面談を実施している。その結果、他大学と異なり低学年時から卒業時まで同一担当者が一貫対応することで、個別の進路相談や履歴書・エントリーシートの添削、面接指導など、在籍期間中を通してきめ細やかなサポートの提供が可能となる。

②低学年からのキャリアガイダンスや、業界別支援プログラム、インターンシップ支援など、早期からのキャリア形成を重視している。

③学生キャリアリーダー委員会や学生キャリアサポーターなど、学生同士のサポート体制が充実しており、主体的、実践的なキャリア支援が行われている。

このように全学的なキャリア支援（各種イベントやガイダンス等）と同時に、個別支援に比重を置いたサポート体制は、他大学と比較して本学の優位性としてあげることができる。

ア. 2. 5. 取得できる資格

<表 9. 各大学における取得可能な資格>

大学	IT パスポート	統計検定	基本情報技術者	社会調査士
文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科	○	○	○	○
武蔵野大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科	○			

大学	IT パスポート	統計検定	基本情報 技術者	社会調査士
順天堂大学 健康データサイエンス学部 健康データサイエンス学科	○	○	○	
専修大学 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科				
明星大学 データサイエンス学環	○	○	○	

※各大学公式ホームページを参照

本学ヒューマン・データサイエンス学部では、IT パスポート、統計検定、基本情報技術者、社会調査士の4つの資格取得が可能なカリキュラムを提供している。これにより、IT スキルの習得に加え、データ分析力や社会課題の調査・解決能力を兼ね備えた多角的な人材を育成する教育体制が整備されている。特に、社会調査士の資格取得が可能な点は本学の大きな特徴の一つである。データサイエンスの技術者育成だけでなく、地域や企業が抱える社会的な課題を把握し、データを基に適切な解決策を提示する力を養うことができる点は、本学の教育方針を象徴している。これにより、IT 業界のみならず、行政機関やマーケティングリサーチ分野など、幅広い分野へのキャリアパスが開かれている。

他大学においても、IT パスポートや基本情報技術者の資格取得が支援されているケースは多いが、本学では、これらの資格に加えて、統計的な思考力や調査力を活かした「社会課題の解決」に貢献できる人材の育成を目指している。そのため、PBL 型の学びを1年次から導入し、企業や地域社会と連携した実践的な学習機会を提供している。これにより、学生は課題発見から解決までを一貫して体験し、資格取得に必要なスキルと実践的な応用力を着実に身につけることができる。

また、入学時からのリメディアル教育を通じて、文系出身の学生もスムーズに学べるサポート体制が整備されている。これにより、IT スキルやデータサイエンスに不安を抱える学生でも、安心して学習を進められる環境が用意されている。

このように、本学は社会課題発見スキル、データサイエンス・AI 活用スキル、プロジェクトマネジメントスキルの3つのスキルを学べる環境を整え、社会問題の解決策を提案できる人材の育成を目指している。このアプローチにより、IT 業界、データサイエンス分野、調査リサーチ業界、行政機関の調査部門など、幅広い分野で活躍できるキャリアの選択肢を提供している。

イ 競合校の入学志願動向

競合校の入学志願動向は、以下の「表 10. 競合校の入学志願動向状況（令和 4～令和 6 年度）」により分析した。競合校 4 大学（武蔵野大学、順天堂大学、専修大学、明星大学）のうち、いずれの大学も令和 6 年度は入学定員を満たしている。特に、武蔵野大学、専修大学、明星大学の入学者充足率は 100%を超えており、安定的な志願者の確保ができていることがうかがえる。志願者数の推移に着目すると、武蔵野大学と順天堂大学は増加傾向にある。武蔵野大学では、令和 4 年度の 2,174 名から令和 6 年度には 2,892 名に増加しており、志願倍率も 24.1 倍から 32.1 倍へと上昇している。この志願倍率の上昇は、データサイエンス分野の学びが受験生から高い関心を得ていることを示唆している。順天堂大学も、令和 5 年度の志願者 259 名から令和 6 年度には 300 名へと増加し、志願倍率は 2.6 倍から 3.0 倍へと拡大している。一方で、専修大学と明星大学の志願者数は微減している。専修大学は、令和 4 年度の 5,241 名から令和 6 年度の 3,975 名へと減少したが、入学者充足率は 105%から 107%へ向上している。明星大学は、令和 5 年度の志願者 515 名から令和 6 年度には 376 名に減少したが、入学定員 30 名を 2 年連続で充足している。志願倍率も 17.1 倍から 12.5 倍へと減少しているが、志願倍率が 10 倍を超える高水準を維持している点は特筆すべきである。

<表 10. 競合校の入学志願動向状況>

大学	年度	入学 定員	志願 者数	志願 倍率	受験 者数	合格 者数	入学 者数	入学者 充足率
武蔵野大学 データサイエンス学部	令和4	90	2,174	24.1倍	2,047	586	92	102%
	令和5	90	2,804	31.1倍	2,661	696	98	108%
	令和6	90	2,892	32.1倍	2,746	735	116	128%
順天堂大学 健康データサイエンス学部	令和4	－	－	－	－	－	－	－
	令和5	100	259	2.6倍	252	218	101	101%
	令和6	100	300	3.0倍	290	140	111	111%
専修大学 ネットワーク情報学部	令和4	235	5,241	22.3倍	4,993	1,598	247	105%
	令和5	235	4,210	17.9倍	3,975	1,536	257	109%
	令和6	235	3,975	16.9倍	3,775	1,540	252	107%
明星大学 データサイエンス学環	令和4	－	－	－	－	－	－	－
	令和5	30	515	17.1倍	491	258	30	100%
	令和6	30	376	12.5倍	376	249	30	100%

※各大学公式ホームページを参照

競合校の動向を踏まえると、本学が安定的な志願者を確保できる可能性は十分に高いと考えられる。特に、武蔵野大学の志願倍率が 32.1 倍と高い水準に達している状況は、データサイエンス分野への進学需要が引き続き高まっていることを示しており、志願者の一部

が本学に分散する余地があると考えられる。さらに、専修大学が情報分野、明星大学が即戦力育成を重視する一方で、本学はデータサイエンスの技術的知見に加え、社会課題の発見と解決に取り組む文理融合型教育を特徴としており、この点に魅力を感じる受験生層を取り込むことが期待される。

また、文理融合の教育は、多様な学問的背景を持つ学生に幅広いキャリア形成の選択肢を提供する点で、競合校の教育方針を補完する役割を果たしている。本学が地域や企業との連携を重視し、実践的な学びを通じて社会課題解決に取り組む力を養成している点は、専修大学や明星大学にはない独自の魅力として受験生に訴求できる。このような教育の特徴を広く周知することで、データサイエンス分野や文理融合型教育に関心を持つ志願者を安定的に確保できる見込みがある。

ウ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

競合校の定員充足率は以下の通りである。

＜表 11. 競合校の定員充足率＞

大学	入学定員	収容定員	在学生数	収容定員充足率
武蔵野大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科	90	360	400	111%
順天堂大学 健康データサイエンス学部 健康データサイエンス学科	100	200	210	105%
専修大学 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科	235	940	1,023	109%
明星大学 データサイエンス学環	30	60	59	98%

※各大学公式ホームページを参照

明星大学データサイエンス学環は、「表 10. 競合校の入学志願動向状況」の通り、入学時には定員 30 名を満たしており、計画通りの学生を確保していた。しかし、その後の退学者により収容定員が未充足となったと考えられる。このことから、入学時点での定員確保は十分可能であり、本学においても同様に入学者の確保が見込まれる。

また、本学は文理融合型の教育を特徴としており、専修大学や明星大学の志願者層を補完的に受け入れるポジションを築くことができる。

エ 学生納付金の金額設定の考え方

本学ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科の初年度学生納付金は1,440,000円である。この金額は、競合校の学費水準や本学の財務状況を踏まえ、受験生及び在学生の経済的負担を考慮して慎重に設定したものである。

本学では、文理融合型の教育を基盤とし、理系の専門知識と文系的な課題解決力を兼ね備えた人材の育成を目指している。工学系の専門性に特化した学部とは異なり、重厚な実験設備を要する教育体制ではないため、学費の水準を一定程度抑えることが可能である。これにより、多様な学びの機会を提供しつつも、受験生や保護者にとって手の届きやすい学費水準を実現している。また、PBL型教育を1年次から導入し、社会の多様な課題に対応できる実践的な学びの場を提供している。他分野と連携した多角的なアプローチを可能にする教育環境を整えつつ、納付金の負担軽減も図っていることが、本学の大きな特色である。これにより、教育の質と受験生の経済的負担のバランスを両立した学費設定を実現している。

③先行事例分析

該当なし

④学生確保に関するアンケート調査

ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科に関して、高校生の進学意向等を的確に把握することを目的として、アンケート調査を実施した。調査実施にあたっては、中立性や公平性、客観性を担保する観点から第三者機関によるアンケート調査を行った。第三者機関として調査を行ったのは一般財団法人日本開発構想研究所であり、調査結果は調査結果報告書（【資料11】を参照）の通りとなっている。

④. 1. 調査対象

東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・茨城県・静岡県・新潟県の高等学校180校に在籍する高校生2年生を対象に、アンケート調査を実施した。アンケート調査の実施に当たっては、文京学院大学側が高等学校のリストアップを行い、そのうちアンケート調査実施の承諾を得られた180校宛にアンケート調査票（【資料11】における資料Aを参照）を送付した。アンケート回答者に必要な情報を明示する観点からリーフレット（【資料11】における資料Bを参照）も併せて送付した。高校別にみた調査票等一式の発送状況については、【資料11】における資料Cの通りとなっている。その後、調査実施高等学校よりアンケート調査票を回収し、集計分析を行った。尚、高校でのアンケート実施にあたっては、紙媒体の調査票に回答を記入し調査票を返送する方式と、調査票表面上部にあるQRコードからWeb回答フ

フォームに入り回答する方式の、いずれかを選択する方法を採用した。

④. 2. 実施時期

令和6年10月1日～令和7年1月31日にかけて調査を実施した。

④. 3. 調査票回収状況

本調査では、高等学校 180 校に対して合計 38,834 票のアンケート調査票を送付した。その結果、合計 25,036 票の有効回答票を回収することができた。有効回答票の回収率は、59.32%であった。合計 25,036 票の有効回答票のうち、紙媒体の調査票による有効回答票は 16,965 票、Web 回答フォームによる有効回答票は 8,071 票となった。

④. 4. ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科に係るクロス集計結果（【資料11】における資料E：クロス集計表を参照）

「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）」150頁～151頁、並びに「学校法人の寄附行為の認可及び寄附行為変更の認可申請書類の作成等に関する手引（令和6年9月改訂版）」230頁～233頁の指示に基づき、ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科に係るクロス集計を行ったところ、以下の集計結果を得ることができた。なお、本アンケートでは、信頼性と客観性を確保するため、併設高校（文京学院大学女子高等学校）は調査対象に含めていない。

全回答者 25,036 人のうち、問4（卒業後の進路）で「1 大学進学」を選択した者は 18,741 人であり、さらにそのうち問5（進学希望の大学設置者）で「1 私立」を選択した者は 16,236 人であり、さらにそのうち問7（興味のある学問分野）で「1 データサイエンス学」を選択した者は 959 人であり、さらにそのうち問8（文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部への受験希望の有無）で「1 第一志望として受験する」を選択した者は 148 人、「2 第二志望として受験する」を選択した者は 69 人、「3 第三志望以降として受験する」を選択した者は 186 人であった。

このうち「1 第一志望として受験する」を選択した者は 148 人について、問9（問9 文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部合格した場合の入学希望の有無）での回答状況を見てみると「1 入学する」を選択した者は 141 人であった。

「1 入学する」を選択した 141 人について、ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科の入学定員 110 人に照らせば、1.28 倍の入学希望に係る実数が得られたことがわかった。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科に関して、事業所が期待する教育内容、卒業生に対する採用意向等を的確に把握することを目的として、ア

ンケート調査を実施した。調査実施にあたっては、中立性や公平性、客観性を担保する観点から第三者機関によるアンケート調査を行った。第三者機関として調査を行ったのは一般財団法人日本開発構想研究所であり、調査結果は調査結果報告書（【資料 12】を参照）の通りとなっている。

⑤. 1. 調査対象

ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科卒業生の就職先として想定される業種に属する事業所で、文京学院大学既設学部の卒業生に対して採用実績のある合計 558 事業所を選定の上、人事採用担当者宛に調査票等一式を発送しアンケート調査を実施した。アンケート調査の実施にあたっては、文京学院大学が事業所のリストアップを行い、日本開発構想研究所がそのリストに基づき合計 558 票（1 事業所につき 1 票）のアンケート調査票（【資料 12】における資料 a を参照）を配布した。アンケート回答者に必要な情報を明示する観点からリーフレット（【資料 12】における資料 b を参照）も併せて送付した。

尚、事業所でのアンケート調査実施にあたっては、紙媒体の調査票に回答を記入し調査票を返送する方式と、調査票表面上部にある QR コードから Web 回答フォームに入り回答する方式の、いずれかを選択する方法を採用した。

⑤. 2. 実施時期

令和 6 年 10 月 22 日～令和 6 年 11 月 22 日にかけて調査を実施した。

⑤. 3. 調査票回収状況

合計 164 事業所から合計 164 票（1 事業所につき 1 票）の有効回答票を回収することができた。回収率は、29.3%であった。164 票の有効回答票のうち、紙媒体の調査票による有効回答票は 67 票、Web 回答フォームによる有効回答票は 97 票となった。

⑤. 4. 調査結果（【資料 12】における資料 d を参照）

事業所に対して、問 8 によりヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科卒業生に対する採用意向をきいたところ、「採用したい」が 100 事業所（60.9%）、「採用を検討したい」が 58 事業所（35.3%）となった。

さらに問 9 において、ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科卒業生に対する採用想定人数をきいたところ、問 8 で「採用したい」と回答した事業所については、「1 人」が 9 事業所（9%）、「2 人」が 17 事業所（17%）、「3 人」が 11 事業所（11%）、「4 人」が 2 事業所（2%）、「5 名以上」が 18 事業所（18%）「人数は未定」が 43 事業所（43%）、となった。

この問 9 における採用想定人数と採用想定人数を選択した事業所数を掛け合わせると、

「1人」×9+「2人」×17+「3人」×11+「4人」×2+「5人」×18+43=217人となり、
ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科の入学定員 110人
に照らすと、1.97 倍の採用希望に係る実数を得ることができた。選択肢「5 名以上」につい
ては最小値である 5 人で掛け合わせた点、選択肢「人数は未定」については 1 人で掛け合わ
せた点、等を踏まえれば入学定員 110 人分に係る卒業後の進路見通しは確保できていると
考えられる。

(4) 新設組織の定員設定の理由

本学は、建学の精神「自立と共生」のもと、社会の変化や地域社会のニーズに応じた教育
を展開し、現在では複数の学部・学科を擁する総合大学として発展を続けている。特に、社
会課題の発見とデータサイエンス・AI の活用を通じて、実践的なスキルを備えた人材を養
成することを目的に、「ヒューマン・データサイエンス学部(仮称)」の新設を計画している。

本学部の定員設定にあたっては、「人材需要に関するアンケート調査等 (P28)」に示され
たデータサイエンス・AI 分野における高い人材需要、及び既存学部の志願動向、競合大学
の状況、さらに入学試験における志願倍率や定員充足率など、多面的な要因を総合的に勘案
した。

近年、データサイエンス・AI の活用は急速に拡大しており、経済産業省の「IT 人材の最
新動向と将来推計に関する調査」によれば、2030 年までにデータサイエンス人材の不足が
顕著になると予測されている。この状況に対応するため、文理を問わず多様なバックグラウ
ンドを持つ学生がデータ活用能力を身につけ、社会課題の解決に貢献できる人材として活
躍することが求められている。

本学部の入学定員を 110 名に設定する理由として、以下の点を挙げることができる。

・地域の人材ニーズへの対応：東京都及び近隣地域において、データサイエンスを活用し
た社会課題解決に取り組む企業・団体からの高い期待が寄せられている。特に、健康・環境・
ビジネスなどの分野ではデータ分析を通じた課題解決が求められており、本学部の学びが
これらのニーズに合致する。

・競合校との差別化：競合大学においてもデータサイエンス関連学部が設置されている
が、本学では「文理融合」「実践的 PBL 型教育」「社会調査士の資格取得支援」などを特色と
しており、幅広いキャリアに対応できる教育環境を提供する。これにより、他大学とは異な
る層の志願者の確保が見込まれる。

・学生確保の見込み：「学生確保に関するアンケート調査 (P27)」の結果、本学部の教育
内容に高い関心を示す高校生が多数存在しており、オープンキャンパス等の参加実績から
も入学定員を満たすだけの志願者獲得が可能と予測される。

また、18 歳人口の減少という全国的な課題に対応するため、本学では、東京都及び近隣地域の高校を対象とした積極的な広報活動を行い、オープンキャンパス、出張講義、模擬授業などを通じて受験生の興味関心を高める取り組みを実施している。加えて、大学入学後も入学前教育、リメディアル教育、キャリア支援プログラムなどを充実させ、入学者の学修意欲を高め、定員充足を確実にする体制を整えている。

これらの取組により、入学定員 110 名は適切であり、社会の要請に応じた人材育成を実現し、持続的な学生確保が可能であると判断している。

学生の確保の見通し等を記載した書類 資料編

目 次

【資料 1】 IT 人材の最新動向と将来推計に関する調査	p. 3
【資料 2】 学部・学科トレンドデータ集	p. 4
【資料 3】 データ連携・活用促進プロジェクト（東京）	p. 5
【資料 4】 第 5 期科学技術基本計画の概要	p. 6
【資料 5】 18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向	p. 7
【資料 6】 大学進学時の都道府県別流入・流出者数	p. 8
【資料 7】 大学進学にともなう人口流出と地方創生	p. 9
【資料 8】 年齢(5 歳階級)別将来人口（東京都、文京区）	p. 10
【資料 9】 学部学科・専攻の収容定員充足状況	p. 11
【資料 10】 各大学独自の奨学金制度一覧表	p. 12
【資料 11】 学部の設置に係る高校生アンケート調査結果報告書	p. 13
【資料 12】 学部の設置に係る事業所アンケート調査結果報告書	p. 31
【別紙 1】 新設組織が置かれる都道府県への入学状況	p. 44
【別紙 2-1】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間） 外国語学部 英語コミュニケーション学科	p. 45
【別紙 2-2】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間） 経営学部 経営コミュニケーション学科	p. 46
【別紙 2-3】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間） 経営学部 マーケティング・デザイン学科	p. 47
【別紙 2-4】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間） 人間学部 児童発達学科	p. 48
【別紙 2-5】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間） 人間学部 人間福祉学科	p. 49
【別紙 2-6】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間） 人間学部 心理学科	p. 50
【別紙 2-7】 既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間） 保健医療技術学部 理学療法学科	p. 51

【別紙 2-8】既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）

保健医療技術学部 作業療法学科…………… p. 52

【別紙 2-9】既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）

保健医療技術学部 臨床検査学科…………… p. 53

【別紙 2-10】既設学科等の入学定員の充足状況（直近 5 年間）

保健医療技術学部 看護学科…………… p. 54

【別紙 3】既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績…………… p. 55

IT人材の最新動向と将来推計に関する調査

< 2 > IT人材動向の将来予測

IT人材の「不足規模」に関する推計結果

- IT関連産業の産業人口に関する将来推計（マクロ推計）の一環として、人材の不足状況や今後の見通しに関するアンケート調査結果に基づき、現在及び将来の人材不足数に関する推計も実施。
- マクロ推計によれば、**2015年時点で約17万人のIT人材が不足している**という結果になった。さらに、前頁で示されたとおり、今後IT人材の供給力が低下するにもかかわらず、ITニーズの拡大によってIT市場は今後も拡大を続けることが見込まれるため、IT人材不足は今後ますます深刻化し、**2030年には、（中位シナリオの場合で）約59万人程度まで人材の不足規模が拡大する**との推計結果が得られた。

2

今後のIT人材
の不足規模

IT人材の不足規模に関する予測

- 2015年の人材不足規模：約17万人
- 2030年の人材不足規模：約59万人（中位シナリオ）
- ⇒ IT人材不足は、今後ますます深刻化



出展：経済産業省「IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果 報告書概要版」7頁

URL：https://www.meti.go.jp/shingikai/economy/daiyoji_sangyo_skill/pdf/001_s02_00.pdf?sc_vid=16569792003497484509097412229

学部・学科トレンドデータ集

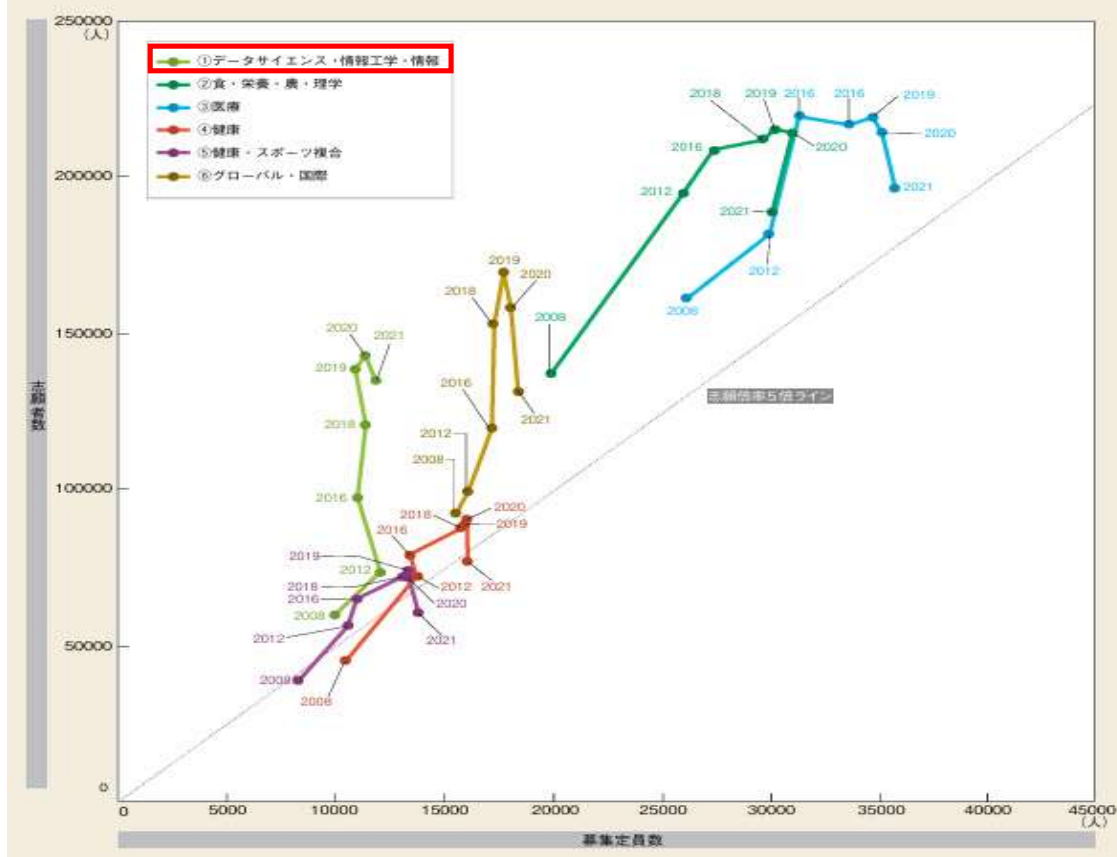
図表 3 単独分野の志願者増減ランキング

増加			<全国> 帝国公私 ALL		
2008年—2012年			2015年—2018年		
順位	学科系統(小分類) 名称	増加(人)	順位	学科系統(小分類) 名称	増加(人)
1	看護学	37,532	1	経済学	90,298
2	教育学	26,118	2	経営学	67,173
3	医学(専門課程)	22,079	3	法学	50,937
4	医療技術学	13,827	4	商学	49,225
5	栄養・食物学	11,709	5	社会学	37,872
6	保育・児童学	11,367	6	看護学	22,281
7	生命科学	10,886	7	情報工学	21,375
8	心理学	10,766	8	心理学	21,216
9	情報工学	7,021	9	国際関係学	18,626
10	語学(外国語)	6,814	10	総合政策学	15,950
11	応用化学	6,164	11	建築学	13,507
12	歴史学	4,739	12	語学(外国語)	11,643
13	物理学	4,439	13	歴史学	11,173
14	スポーツ学	3,694	14	政治・政策学	8,119
15	リハビリテーション学	2,897	15	外国文学	7,300
16	建築学	2,842	16	スポーツ学	5,692
17	農学	2,646	17	文化人類学	5,626
18	機械工学	2,539	18	観光学	5,523
19	地理学	2,295	19	日本文化学	5,420
20	日本文化学	2,182	20	哲学・宗教学	5,204

2019年—2021年		
順位	学科系統(小分類) 名称	増加(人)
1	情報工学	5,596
2	医療技術学	2,837
3	数学	287
4	地球・宇宙学	268
5	デザイン	194
6	電気工学	143
7	舞台・演劇学	128
8	音楽	-13
9	服飾・被服学	-73
10	住居学	-103
11	経営工学	-122
12	環境科学	-125
13	考古学	-149
14	言語学	-177
15	原子力工学	-187
16	マスコミ学	-219
17	図書館情報学	-278
18	通信工学	-341
19	システム・制御工学	-436
20	航空・船舶・自動車工学	-481

図表 6 メガトレンド分野の学科サイクル

■志願者数×募集定員数 推移(2008、2012、2016、2018、2019、2020、2021)



出典：鹿島梓（2022）「学部・学科トレンドデータ集」『リクルートカレッジマネジメント』Vol.232、99頁
 「図表3単独分野の志願者増減ランキング」、103頁「図表6 目御トレンド分野の学科サイクル」より引用して作成

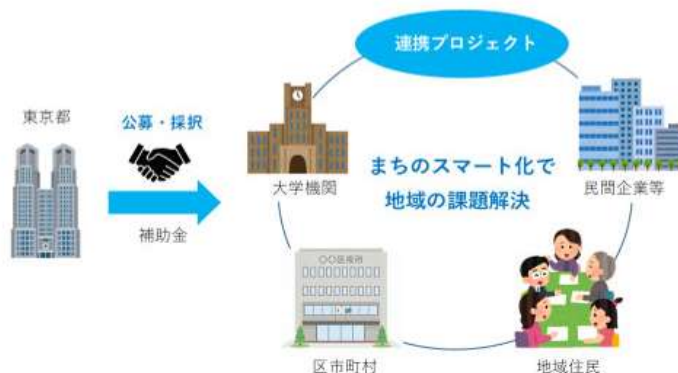
URL：https://souken.shingakunet.com/publication/college_m/2022_RCM232/2022_RCM232_091.pdf

データ連携・活用促進プロジェクト（東京）

地域を主体とするスマート東京先進事例創出事業

令和4年度より新たに、区市町村、大学、地域に寄り添う民間企業等の連携のもと、地域特性や資源を活かし、まちのスマート化を通じた地域の課題解決に資する取組への支援を開始しています。

《事業スキーム》



東京都デジタルサービス局「スマート東京の推進」より引用して作成

URL : <https://www.digitalservice.metro.tokyo.lg.jp/business/smart-tokyo>

(1) 連携型プロジェクト

自らが持つ都市OS^{【注】}と他エリアの都市OS等を連携させ、新たなサービスを提供する事業者によるプロジェクト

【注】都市OSとは、スマートシティを実現しようとする地域が共通的に活用する機能が集約されることで、様々な分野のサービス導入を容易にさせることを実現するITシステムの総称。

事業者	地区名	事業概要
一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会	大手町・丸の内・有楽町	竹芝・豊洲・八重洲・日本橋・京橋等の他エリアと連携し、就業者や来街者に対して、施設・イベント情報や交通の運行状況等を提供し、都内広域で魅力を満喫できる回遊促進のための新しいサービス等を実装します。
一般社団法人竹芝エリアマネジメント	竹芝	大丸有や島しょ等の他エリアと連携し、来街者や就業者に対して、リアルタイムデータを活用したイベント情報提供やクーポン配信等、新たなサービスを実装することで、より良いまちづくりを実現します。
一般社団法人豊洲スマートシティ推進協議会	豊洲	臨海エリアなどの他エリアと連携し、乗車券と施設利用券等が一体化した電子チケットの発行やXRによる観光案内などのスマートサービスを実装することで、職・住・遊の全ステークホルダーのQOL向上を図ります。

(2) 連携準備型プロジェクト

将来的なプラットフォーム間連携を目指して都市OS等を構築し新たにサービスを提供する事業者

事業者	地区名	事業概要
東日本旅客鉄道株式会社(代表事業者)、東日本電信電話株式会社、KDDI株式会社	品川駅北周辺(1〜4街区)	「鉄道データ」と「都市混雑データ」を活用したエキマチ一体での人流マネジメントサービスを実装することで、平時から非常時までシームレスに混雑防止を図ります。
渋谷区	渋谷駅周辺	空間データ一元化による空間活用の促進と多様な主体を巻き込んだ協業型まちづくりを実現します。
清水建設株式会社	府中市武蔵台	データプラットフォームを活用した、医療資源の見える化と共有によるサービス事業の創出を実現します。

東京都「データ連携・活用促進プロジェクト」より引用して作成

URL : https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2023/10/30/12.html?utm_source=chatgpt.com

第5期科学技術基本計画の概要

- 「科学技術基本計画」は、科学技術基本法に基づき政府が策定する、10年先を見通した5年間の科学技術の振興に関する総合的な計画
- 第5期基本計画（平成28年度～32年度）は、**総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）**として初めての計画であり、「科学技術イノベーション政策」を強力に推進
- 本基本計画を、**政府、学界、産業界、国民**といった幅広い関係者が共に実行する計画として位置付け、我が国を「**世界で最もイノベーションに適した国**」へと導く

第1章 基本的考え方

(1) 現状認識

- ICTの進化等により、社会・経済の構造が日々大きく変化する「**大変革時代**」が到来
・既存の枠組みにとらわれない市場・ビジネス等の登場
・「もの」から「コト」へ、価値観の多様化
・知識・価値の創造プロセス変化（オープンイノベーションの重視、オープンサイエンスの潮流）等
- **国内外の課題**が増大、複雑化（エネルギー制約、少子高齢化、地域の疲弊、自然災害、安全保障環境の変化、地球規模課題の深刻化など）
⇒ こうした中、科学技術イノベーションの推進が必要（科学技術の多義性を踏まえ成果を適切に活用）

(2) 科学技術基本計画の20年間の実績と課題

- 研究者数や論文数が増加するなど、我が国の**研究開発環境は着実に整備**され、国際競争力を強化。LED、iPS細胞など**国民生活や経済に変化**をもたらす科学技術が登場。今世紀、ノーベル賞受賞者（自然科学系）が世界第2位であることは、我が国の科学技術が大きな存在感を有する証し。
- しかし近年、論文の質・量双方の国際的地位低下、国際研究ネットワーク構築の遅れ、若手が能力を発揮できていない等、「**基盤的な力**」が弱体化。産学連携も本格段階に至っていない。大学等の経営・人事システム改革の遅れや組織間などの「**壁**」の存在などが要因に
- **政府研究開発投資の伸びは停滞**。世界における我が国の立ち位置は**劣後傾向**



(3) 目指すべき国の姿

- 基本計画によりどのような国を実現するのかを提示

- ① 持続的な成長と地域社会の自律的発展
- ② 国及び国民の安全・安心の確保と豊かで質の高い生活の実現
- ③ 地球規模課題への対応と世界の発展への貢献
- ④ 知の資産の持続的創出

(4) 基本方針

- **先を見通し戦略的に手**を打っていく力（**先見性と戦略性**）と、どのような変化にも**的確に対応**していく力（**多様性と柔軟性**）を重視
- あらゆる主体が**国際的に開かれたイノベーションシステム**の中で競争、協調し、各主体の**持つ力を最大限発揮**できる仕組みを、**人文社会科学、自然科学のあらゆる分野の参画**の下で構築

① 第5期科学技術基本計画の4本柱

- i) 未来の産業創造と社会変革 ii) 経済・社会的な課題への対応
- iii) 基盤的な力の強化 iv) 人材、知、資金の好循環システムの構築
- ※ i～ivの推進に際し、科学技術外交とも一体となり、戦略的に国際展開を図る視点が不可欠

② 科学技術基本計画の推進に当たっての重要事項

- i) 科学技術イノベーションと社会との関係深化 ii) 科学技術イノベーションの推進機能の強化
- 基本計画を5年間の指針としつつ、毎年度「**総合戦略**」を策定し、柔軟に政策運営
- 計画の進捗及び成果の状況を把握していくため、**主要指標及び目標値を設定**（目標値は、国全体としての達成状況把握のために設定しており、現場でその達成が自己目的化されないよう留意が必要）

第3章 経済・社会的課題への対応

- **国内又は地球規模で顕在化している課題に先手を打って対応**するため、国が重要な政策課題を設定し、課題解決に向けた科学技術イノベーションの取組を進める。

- **13の重要政策課題**ごとに、研究開発から社会実装までの取組を一体的に推進
- <持続的な成長と地域社会の自律的発展>
・エネルギーの安定的確保とエネルギー利用の効率化
・資源の安定的な確保と循環的な利用
・食料の安定的な確保
・世界最先端の医療技術の実現による健康長寿社会の形成
・持続可能な都市及び地域のための社会基盤の実現
・効率的・効果的なインフラの長寿命化への対策
・ものづくり・コトづくりの競争力向上
- <国及び国民の安全・安心の確保と豊かで質の高い生活の実現>
・自然災害への対応
・食料安全、生活環境、労働衛生等の確保
・サイバーセキュリティの確保
・国家安全保障上の諸課題への対応
- <地球規模課題への対応と世界の発展への貢献>
・地球規模の気候変動への対応
・生物多様性への対応
- 様々な課題への対応に関連し、**国家戦略上重要なフロンティア**である「海洋」「宇宙」の適切な開発、利用及び管理を支える一連の科学技術について、長期的視野に立って継続的に強化

第4章 科学技術イノベーションの基盤的な力の強化

- **今後起こり得る様々な変化に対して柔軟かつ的確に対応**するため、若手人材の育成・活躍促進と大学の改革・機能強化を中心に、**基盤的な力の抜本的強化に向けた取組を進める**。

(1) 人材力の強化

- **若手研究者のキャリアパスの明確化とキャリアの段階に応じた能力・意欲を発揮できる環境整備**（大学等におけるシニアへの年俸制導入や任期付雇用転換等を通じた**若手向け任期なしポストの拡充促進**、**テニョアトラック制の原則導入促進**、大学の**若手本務教員の1割増**など）
- 科学技術イノベーションを担う多様な人材の育成・確保とキャリアパス確立、大学と産業界等との協働による大学院教育改革、次代の科学技術イノベーションを担う人材育成
- 女性リーダーの育成・登用等を通じた**女性の活躍促進**、女性研究者の**新規採用割合の増加**（自然科学系全体で30%へ）、次代を担う女性の拡大
- 海外に出る研究者等への支援強化と外国人の受入れ・定着強化など**国際的な研究ネットワーク構築の強化**、分野・組織・セクター等の壁を越えた**人材の流動化の促進**



(2) 知の基盤の強化

- **イノベーションの源泉としての学術研究と基礎研究の推進に向けた改革・強化**（社会からの負託に応える**科研費改革**・強化、戦略的・要請的な基礎研究の改革・強化、学際的・分野融合的な研究充実、国際共同研究の推進、世界トップレベル研究拠点の形成など）
- 研究開発活動を支える**共通基盤技術、施設・設備、情報基盤の戦略的強化**、オープンサイエンスの推進体制の構築（公的資金の研究成果の利活用の拡大など）
- こうした取組を通じた**総論文数増加**、総論文のうち**トップ10%論文数割合の増加（10%へ）**

(3) 資金改革の強化

- 大学等の一層効率的・効果的な運営を可能とする**基盤的経費の改革と確実な措置**
- 公募型資金の改革（競争的資金の使い勝手の改善、競争的資金以外の研究資金への間接経費導入等の検討、研究機器の共用化の促進など）
- **国立大学改革と研究資金改革との一体的推進**（運営費交付金の新たな配分・評価など）

第2章 未来の産業創造と社会変革に向けた新たな価値創出の取組

- **自ら大きな変化を起こし、大変革時代を先導していくため、非連続なイノベーションを生み出す研究開発と、新しい価値やサービスが次々と創出される「超スマート社会」を世界に先駆けて実現するための仕組み作りを強化する。**

(1) 未来に果敢に挑戦する研究開発と人材の強化

- 失敗を恐れず高いハードルに果敢に挑戦し、他の追随を許さないイノベーションを生み出していく営みが重要。**アイデアの斬新さと経済・社会的インパクトを重視した研究開発への挑戦を促す**とともに、**より創造的なアイデアと、それを実装する行動力を持つ人材にアイデアの試行機会を提供**（各府省の研究開発プロジェクトにおける、チャレンジングな研究開発の推進に適した手法の普及拡大、ImPACTの更なる発展・展開など）

(2) 世界に先駆けた「超スマート社会」の実現（Society 5.0）

- 世界では、ものづくり分野を中心に、ネットワークやIoTを活用していく取組が打ち出されている。我が国ではその活用を、**ものづくりだけでなく様々な分野に広げ、経済成長や健康長寿社会の形成、さらには社会変革につなげていく**。また、**科学技術の成果のあらゆる分野や領域への浸透を促し、ビジネス力の強化、サービスの質の向上につなげる**
- サイバー空間とフィジカル空間（現実社会）が高度に融合した「**超スマート社会**」を**未来の姿として共有し、その実現に向けた一連の取組を「Society 5.0」**とし、更に深化させつつ強力に推進
- ※ 狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く新たな社会を生み出す変革を科学技術イノベーションが先導していく、という意味を持つ
- サービスや事業の「**システム化**」、システムの高度化、複数のシステム間の**連携協調**が必要であり、産学官・関係府省連携の下、**共通的なプラットフォーム（超スマート社会サービスプラットフォーム）構築**に必要となる取組を推進



(3) 「超スマート社会」における競争力向上と基盤技術の戦略的強化

- 競争力の維持・強化に向け、知的財産・国際標準化戦略、基盤技術、人材等を強化
- システムのパッケージ輸出促進を通じ、新ビジネスを創出し、課題先進国であることを強みに変える
- 基盤技術については、**超スマート社会サービスプラットフォームに必要となる技術**（サイバーセキュリティ、IoTシステム構築、ビッグデータ解析、AI、デバイスなど）と、**新たな価値創出のコアとなる強みを有する技術**（ロボット、センサ、バイオテクノロジー、素材・ナノテクノロジー、光・量子など）について、中長期視野から高い達成目標を設定し、その強化を図る

第5章 イノベーション創出に向けた人材、知、資金の好循環システムの構築

- **国内外の人材、知、資金を活用し、新しい価値の創出とその社会実装を迅速に進めるため、企業、大学、公的研究機関の本格的連携とベンチャー企業の創出強化等を通じて、人材、知、資金があらゆる壁を乗り越え循環し、イノベーションが生み出されるシステム構築を進める。**

(1) オープンイノベーションを推進する仕組みの強化

- 企業・大学・公的研究機関における推進体制強化（産業界の**人材・知・資金を投入した本格的連携、大学等の経営システム改革**、国立研究開発法人の**橋渡し機能強化**など）
- 人材の移動の促進、**人材・知・資金が結集する「場」の形成**
- こうした取組を通じ**セクター間の研究者移動数の2割増**、**大学・国立研究開発法人の企業からの共同研究受入額の5割増**



(2) 新規事業に挑戦する中小・ベンチャー企業の創出強化

- **起業家の育成、起業、事業化、成長段階までの各過程に適した支援**（大学発ベンチャー創出促進、新製品・サービスに対する初期需要確保など）、**新規上場（IPO）やM&Aの増加**

(3) 国際的な知的財産・標準化の戦略的活用

- 中小企業や大学等に散在する知的財産の活用促進（特許出願に占める**中小企業割合15%の実現**、大学の**特許実施許諾件数の5割増**）、国際標準化推進と支援体制強化

(4) イノベーション創出に向けた制度の見直しと整備

- 新たな製品・サービス等に対応した制度見直し、ICT発展に対応した知的財産の制度整備

(5) 「地方創生」に資するイノベーションシステムの構築

- 地域主導による自律的・持続的なイノベーションシステム駆動（地域企業の活性化促進など）

(6) グローバルなニーズを先取りしたイノベーション創出機会の開拓

- グローバルニーズの先取りや**インクルーシブ・イノベーション**を推進する仕組みの構築
- ※ 社会的に包摂的で持続可能なイノベーション、新興国及び途上国との科学技術協力において、これまでの援助型の協力からの転換を図る

第6章 科学技術イノベーションと社会との関係深化

- 科学技術イノベーションの推進に当たり、**社会の多様なステークホルダーとの対話と協働**に取り組む。

- 様々なステークホルダーの「**共創**」を推進。政策形成への科学的助言、倫理的・法制度的・社会的取組への対応などを実施。また、研究の公正性の確保のための取組を実施

第7章 科学技術イノベーションの推進機能の強化

- 科学技術イノベーションの主要な実行主体である**大学及び国立研究開発法人の改革・機能強化と科学技術イノベーション政策の推進体制の強化**を図るとともに、**研究開発投資を確保する**。

- 「教育や研究を通じて社会に貢献する」との認識の下での**抜本的な大学改革と機能強化**、イノベーションシステムの駆動力としての**国立研究開発法人改革と機能強化**を推進
- 科学技術イノベーション活動の**国際活動と科学技術外交との一体的展開**を図るとともに、客観的根拠に基づく政策推進等を通じ、科学技術イノベーション政策の実効性を向上。さらに、CSTIの**司令塔機能を強化**（指標の活用等を通じた恒常的な政策の質の向上、SIPの推進など）
- 基本計画実行のため、官民合わせた研究開発投資を**対GDP比4%以上**、政府研究開発投資について**経済・財政再生計画との整合性を確保しつつ対GDP比1%へ**。期間中のGDP名目成長率を平均3.3%という前提で試算した場合、**政府研究開発投資の総額の規模は約26兆円**

出展：内閣府「第5期科学技術基本計画で提唱したSociety 5.0のコンセプト」

URL : <https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/5gaiyo.pdf>

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校 進学率地元残留率の動向

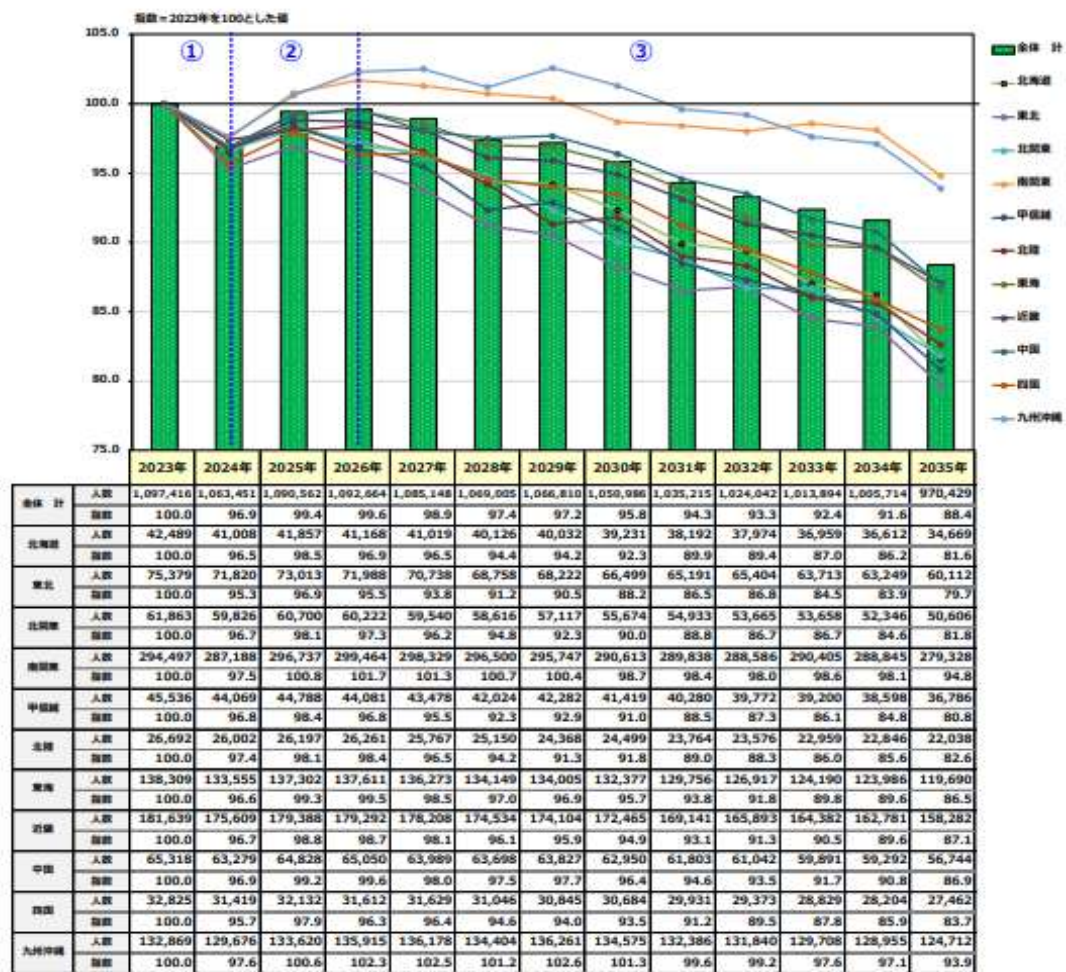
18歳人口予測（全体：エリア別：2023～2035年）

■減少率が高いのは東北（2023年比79.7%）、減少数が大きいのは近畿（23,357人減）

- ・減少率が高いのは、1位 東北（2023年比79.7%）、2位 甲信越（80.8%）、3位 北海道（81.6%）。
- ・減少数が大きいのは、1位 近畿（23,357人減）、2位 東海（18,619人減）、3位 東北（15,267人減）。
- ・減少率が低いのは、1位 南関東（94.8%）、2位 九州沖縄（93.9%）、3位 近畿（87.1%）。
- ・エリア別の18歳人口は、以下の3段階を経て減少する。

- ① 2023～2024年：全国では約3.4万人減少、エリアも含め減少傾向になる時期
- ② 2024～2026年：全国で約3万人増加、人口が回復し、横ばいが続く時期
- ③ 2026～2035年：回復後さらに減少する時期

注）減少率＝2035年人数÷2023年人数で算出。



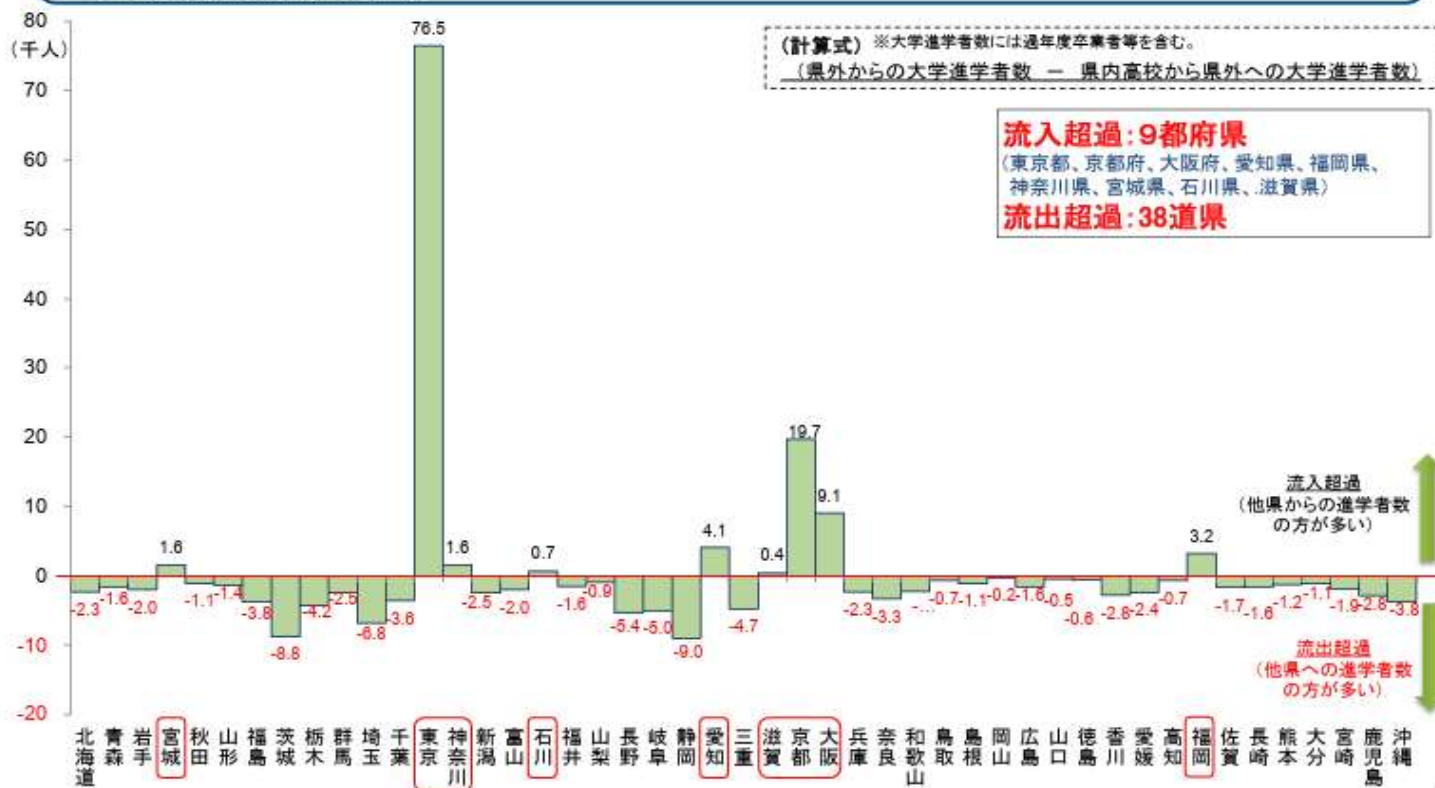
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

出展：リクルート進学総研「18歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向」7頁

URL : https://souken.shingakunet.com/research/pdf/2023_souken_report/2023_souken_report.pdf

大学進学時の都道府県別流入・流出者数

- 大学進学時の各都道府県における流入者・流出者数を見ると、流入超過が9都府県、流出超過が38道県となっている。
- 東京都には76,451人、京都府には19,704人、大阪府には9,069人が流入している一方、静岡県からは8,952人、茨城県からは8,779人、埼玉県からは6,804人が流出している。



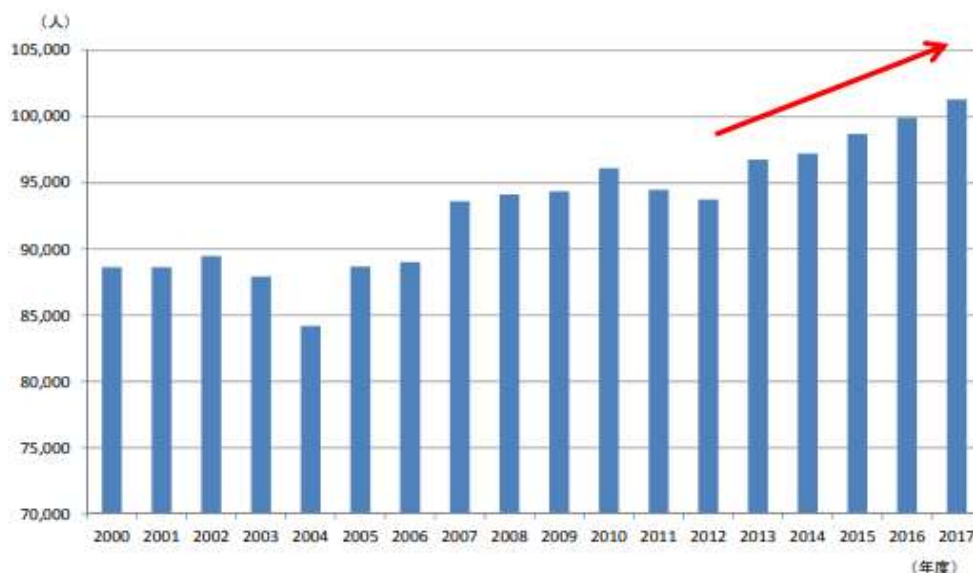
【出典】文部科学省「学校基本統計(令和4年度)」 8

出展：文部科学省「大学等進学者数に関するデータ 関係」8頁

URL : <https://www.mext.go.jp/kaigisiryu/content/000255573.pdf>

大学進学にともなう人口流出と地方創生

図表3 東京都の大学入学者数のうち非東京都出身者数の推移



(注) 外国の教育課程修了者等の「その他」を含む。
(出所) 文部科学省「学校基本調査」各年度より大和総研作成

さらに非東京出身者に関し、東京圏の大学入学者数について出身高校の所在地別に見たのが図表4である。出身高校を茨城県とする学生が9千人超と突出しており、これに静岡県が7千人弱と続いている。北は福島県、西は静岡県までの東京圏周辺の地方圏からの流入が多いことがわかる。

東京圏周辺に居住したまま東京圏にある大学に通う大学生もいることから、大学進学に際して必ずしも地方圏からの転出をとまなうわけではないと考えられるが、例えば、茨城県の場合、県内に所在する高校出身の大学入学者が1万5千人弱であるのに対し、そのうち東京圏の大学に入学する者が9千人以上にもものぼる。このような地域では、若者の東京圏の大学への進学が地域の経済社会に大きなインパクトを与えていることは想像に難くない。東京圏の大学定員増加抑制によってどれだけの効果が上がるか疑問であるとしても、大学進学を機にそのまま東京圏に住み続ける可能性も考慮し、大学進学段階で人口流出を抑制したいという非東京圏の心情については多くが共感できるのではなかろうか。

出典：政策調査部 主任研究員 市川拓也（2018）「大学進学にともなう人口流出と地方創生
～東京23区の大学定員増加抑制が人口流出阻止の切り札なのか～」5頁

「図表3東京都の大学入学者数のうち非東京都出身者数の推移」より引用して作成

URL：https://www.dir.co.jp/report/research/policy-analysis/regionalecnmy/20180104_012631.pdf

年齢(5歳階級)別将来人口（東京都、文京区）

地域名	年齢階級区分	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
東京都	総数	14047594	14184099	14236333	14169123	13982728	13785944
	0～4	521560	470274	488926	484959	472318	456385
	5～9	532323	504696	461285	477450	472933	461467
	10～14	514532	528161	501219	459022	472921	468549
	15～19	550705	573220	588866	556528	511862	523887
	20～24	857660	810011	813746	813760	751964	704239
	25～29	987393	1025127	961838	954237	935594	861832
	30～34	958959	992057	1026791	960734	941765	924194
	35～39	1009207	962934	983703	1011073	941350	923169
	40～44	1065587	961668	919156	933677	958689	896317
	45～49	1184918	1059112	956684	908502	917843	943246
	50～54	1067683	1170570	1045334	942001	891224	899776
	55～59	894511	1043922	1148122	1022490	919905	869832
	60～64	707805	859818	1004272	1105296	983385	885593
	65～69	696092	668346	810226	945926	1042383	928325
	70～74	804285	646083	620757	751720	877809	968725
	75～79	646882	724266	583719	560478	678143	792231
	80～84	499679	547586	612897	494471	474412	575875
	85～89	343868	370450	406287	455516	367899	356884
	90歳以上	203945	265798	302505	331283	370329	345418
文京区	総数	240069	250214	260506	268142	272547	275835
	0～4	10141	9497	10191	10370	10284	10030
	5～9	9698	10305	9828	10372	10430	10284
	10～14	8242	9677	10317	9839	10315	10363
	15～19	8156	9345	10917	11495	10982	11427
	20～24	17805	15621	16553	17396	16972	16273
	25～29	20427	21622	19166	19765	20177	19389
	30～34	18847	20768	21960	19428	19702	20056
	35～39	19221	19240	20974	21932	19259	19456
	40～44	19696	18646	18737	20199	21025	18505
	45～49	19867	19672	18706	18631	19933	20743
	50～54	17391	19744	19595	18542	18360	19596
	55～59	14630	16814	19248	19078	18045	17868
	60～64	11124	13715	15871	18253	18144	17252
	65～69	10099	10374	12847	14888	17163	17102
	70～74	11317	9201	9570	11865	13782	15930
	75～79	8528	9971	8243	8590	10669	12431
	80～84	6689	7044	8334	6915	7221	9031
	85～89	5014	5017	5283	6255	5192	5462
	90歳以上	3177	3941	4166	4329	4892	4637

東京都総務局統計部 「東京都の人口予測（第9表 区市町村、男女、年齢(5歳階級)別将来人口CSV）」より引用して作成

学部	学科	項目	収容定員
外国語学部	英語コミュニケーション学科	定員	1040
		在籍者	704
		定員充足率	0.67
経営学部	経営コミュニケーション学科	定員	780
		在籍者	787
		定員充足率	1.00
	マーケティング・デザイン学科	定員	260
		在籍者	294
		定員充足率	1.13
	学部合計	定員	1040
		在籍者	1081
定員充足率		1.03	
人間学部	コミュニケーション社会学科	定員	240
		在籍者	179
		定員充足率	0.75
	児童発達学科	定員	520
		在籍者	312
		定員充足率	0.60
	人間福祉学科	定員	440
		在籍者	248
		定員充足率	0.56
	心理学科	定員	400
		在籍者	406
		定員充足率	1.01
	学部合計	定員	1600
		在籍者	1145
		定員充足率	0.71
保健医療技術学部	理学療法学科	定員	320
		在籍者	329
		定員充足率	1.02
	作業療法学科	定員	160
		在籍者	126
		定員充足率	0.78
	臨床検査学科	定員	320
		在籍者	258
		定員充足率	0.80
	看護学科	定員	400
		在籍者	474
		定員充足率	1.18
学部合計	定員	1200	
	在籍者	1187	
	定員充足率	0.98	
大学合計		定員	4880
		在籍者	4117
		定員充足率	0.84

各大学独自の奨学金制度一覧表

大学	学部	学科	名称	対象入試・申請資格	内容	人数	その他	参考ページ
文京学院大学	ヒューマン・ディータサイエンス学部	ヒューマン・ディータサイエンス学科	スカラシップ制度	全学統一入試	スカラA：2年間授業料半額免除 スカラB：24万円給付（12×2） スカラC：12万円給付（6×2）	スカラA：62人 スカラB：20人 スカラC：15人	総合型選抜、学校推薦型選抜の合格者も入学手続が完了している学科であれば出願可能	募集要項
			教育支援奨学金（B'sエデュケーション）	前期成績発表後（9月中旬）から10月中旬	年間36万円	-		HP
			島田徳史子記念奨学金（B'sライフ）	明年5月～6月	授業料の半額または半額割	-		
			私費外国人留学生奨学金（B'sインターナショナル）	減免を受ける年度の前年度の2月末迄。 新入生は入学年度の4月末迄。	授業料の2割	-		
			後援会卒業支援奨学金	前期成績発表後（9月中旬）から11月頃	4年次後期学納金の三分の二の範囲内	-		
			海外インターンシップ奨学金（B'sインターンシップ）	修了年度の3月末迄	70,000円～100,000円	-		
			検定試験等奨学金申請書（B'sサティフィケーション）	明年2月～3月	受験料相当金額	-		
			学長顕彰（B'sバブリック）	前期・後期	商品券（3万円分）または奨学奨励金20万円	-		
武蔵野大学	ディータサイエンス学部	ディータサイエンス学科	武蔵野大学申請型奨学金制度	ムサシノスカラシップ選抜		パターンA：最大4年間全額免除 パターンB：最大4年間半額免除 パターンC：最大2年間半額免除	1年毎に給付継続可否を判定 パターンA：上位15%（30%以内の場合 はパターンBで継続） パターンB：上位30% パターンC：上位30%	HP
			武蔵野大学予約型奨学金「2050年のあなたへ。奨学金」	(1) 武蔵野大学が各年度の入学試験要項で指定する入学試験を受験する者 (2) 日本国籍を有する者、又は日本国籍を有していない者のうち査証における在留資格が「永住者」「日本人の配偶者等」「永住者の配偶者等」又は「定住者」（日本に永住する意思のある場合に限る）である者 (3) 埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県以外の、国内の選抜制を除く高等学校又は中等教育学校後期課程を卒業した者又は卒業予定の者 (4) (3)の学校における評定平均値が、この奨学金申請時点で3.5以上である者 (5) 父母の所得証明書に記載されている金額が、給与及び年金収入のみの場合は収入金額が合計800万円以下であること。その他の場合は所得金額が合計350万円以下であること。父母が共にいない場合、父母に代わって家計を支えている者の収入とする (6) この奨学金と高等教育の修学支援新制度の併願は可能だが、いずれも採用となった場合、本奨学金の採用を取消しすることを了承する者	500,000円	2023年度採用状況:1名	※採用された場合、年度毎に継続審査あり	奨学金ガイドブック
			武蔵野大学成績優秀奨学金	(1) 学部の2年生以上に在籍する者 (2) 前年度の取得単位数が20単位以上の者 (3) 原則、各学部学科学年における前年度の単年度GPAが上位2位までの者。 ただし、前年度の単年度GPAについて、同順位の方が複数いた場合、前年度までの総合GPAが上位2位までの者とする (4) 所属する学部の教授会から推薦のある者	200,000円	2023年度採用状況:121名		
			武蔵野大学高橋大蔵経記念奨学金	(1) 学部 に在籍する者 (2) 選考時に、論文の提出及び面接を受けることができる者	240,000円以内	2023年度採用状況:1名		
			印税門主伝灯奉告法要記念武蔵野大学奨学金	(1) 学部 に在籍する者 (2) 選考時に、論文の提出及び面接を受けることができる者	120,000円以内	2023年度採用状況:1名		
			武蔵野大学沼田奨学金	(1) 学部又は大学院に当該年度末まで在籍する者 (2) 選考時に、論文の提出及び面接を受けることができる者 (3) 採用後に、大学礼拝に全体の2分の1以上出席できる者 (4) 採用後に、日曜講演会への出席が1回以上できる者 (5) 採用後に、仏教文化研究所が主催する公開講座等への出席が2回以上できる者 (6) 採用後に、仏教伝道協会で行われる授与式に参加できる者 (7) 採用後に、年度末に活動報告書の提出ができる者	500,000円以内	2023年度採用状況:26名		
			武蔵野大学大学院特別奨学金	特別A ア本学学部を卒業又は卒業見込である者 イさらなる修学を重ね、大学院修了後、本学及び社会に貢献することが見込まれる者 ウ本学大学院修士課程への進学を志望している者 特別B ア本学学部を卒業し、かつ本学大学院修士課程を修了又は修了見込である者 イさらなる修学を重ね、大学院修了後、本学の教育及び研究に貢献する意思のある者 ウ本学大学院博士後期課程への進学を志望している者	特別A：200,000円以内 特別B：500,000円以内	2023年度採用状況:15名		HP
			武蔵野大学課外活動等奨学金	(1) 学部又は大学院に在籍する者 (2) 本学専任教員からの推薦のある者 (3) 本学入学以降、申請時点までの自己の活動について実績資料が提出できる者。 ただし、過去に当該奨学金に提出したことのある実績資料は除く	A区分：300,000円 B区分：200,000円 C区分：100,000円	2023年度採用状況:4名		
専修大学	ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	スカラシップ入試奨学生	スカラシップ入学試験	4年間授業料相当額と施設費相当額		-	HP
			新入生特別奨学生	一部帰国生入学試験 外国人留学生入学試験 公募制推薦入学試験 AO入試	授業料半額相当額（1、2、3年次）	-	-	
			学術奨学生	前年度の学業成績が優秀で、各学部が独自に実施する試験をクリアし、特に人物に優れた者	当該年度1年間につき一部30万円、二部15万円（2,3,4年次）			
			新入生学術奨学生	入学後、各学部において実施する奨学生試験	15万円		新入1年次生が対象	
			自己啓発奨学生	在学生で学業、文芸、スポーツ、自治・社会活動などの分野で優れた業績を達成し、さらに高い目標に挑戦する個人またはその団体	個人20万円、団体50万円を上限	-	採用時に一括支給	
明星大学	データサイエンス学環		特待生奨学金制度	一般選抜Ⅰ期4教科型/3教科型 一般選抜Ⅱ期3教科型	50万円又は20万円		総合型選抜（Ⅰ期・Ⅱ期・学びの探究入試）、学校推薦型選抜の合格者も入学手続が完了している学科であれば出願可能	HP
			明星大学特待生奨学金	(1) 2年生以上の学部在籍者 (2) 学業・人物ともに特に優れている者	50万円		公募はせず。成績等により審査、対象者へ通知。	
			明星大学明星ファミリー奨学金	(1) 在学学部生で、兄弟姉妹が当該年度5月1日に明星大学学部又は明星中学校・高等学校に在籍するもの (2) 現戸籍上その他方法で兄弟姉妹だと証明でき、かつ学費支弁者が同一者であるもの。	申請者を除く、兄弟姉妹1人につき20万円			
順天堂大学	健康データサイエンス学部	健康データサイエンス学科	学費減免制度（成績優秀者）	総合型選抜(育成型・プログラミング力育成) 一般選抜A日程（3教科均等配点型） 一般選抜A日程（数学重視型） 共通テスト利用選抜(3科目判定型) 共通テスト利用選抜(4科目判定型)	初年度の学費を半額免除	総合型選抜(育成型・プログラミング力育成)：2名 一般選抜A日程（3教科均等配点型）：3名 一般選抜A日程（数学重視型）：3名 共通テスト利用選抜(3科目判定型)：1名 共通テスト利用選抜(4科目判定型)：1名	該当者には合格通知書と併せて通知	募集要項

文京学院大学におけるヒューマン・データサイエンス学部の設置に係る
高校生アンケート調査結果報告書

令和7年2月
一般財団法人 日本開発構想研究所

1. アンケート調査の概要

1. 1. 調査目的

令和 8 年 4 月の開設を予定している文京学院大学のヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科に関して、高校生の進学意向等を的確に把握することを調査目的とする。

1. 2. 調査対象

東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県・茨城県・静岡県・新潟県の高等学校 180 校に在籍する高校生 2 年生を対象に、アンケート調査を実施した。アンケート調査の実施に当たっては、文京学院大学側が高等学校のリストアップを行い、そのうちアンケート調査実施の承諾を得られた 180 校宛にアンケート調査票（資料 A）を送付した。アンケート回答者に必要な情報を明示する観点からリーフレット（資料 B）も併せて送付した。高校別にみた調査票等一式の発送状況については、資料 C の通りとなっている。その後、調査実施高等学校よりアンケート調査票を回収し、集計分析を行った。

尚、高校でのアンケート実施にあたっては、紙媒体の調査票に回答を記入し調査票を返送する方式と、調査票表面上部にある QR コードから Web 回答フォームに入り回答する方式の、いずれかを選択する方法を採用した。

1. 3. 実施時期

令和 6 年 10 月から令和 7 年 1 月にかけて調査を実施した。

1. 4. 調査票回収状況

本調査では、高等学校 180 校に対して合計 38,834 票のアンケート調査票を送付した。その結果、合計 25,036 票の有効回答票を回収することができた。有効回答票の回収率は、59.32%であった。

合計 25,036 票の有効回答票のうち、紙媒体の調査票による有効回答票は 16,965 票、Web 回答フォームによる有効回答票は 8,071 票となった。

2. アンケート調査結果

2. 1. 単純集計

全設問の回答を集計したところ、資料 D の通り、単純集計結果が得られている。

2. 2. クロス集計

本稿では、ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科の学生確保の見通しについて適切な分析を行う観点から、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和 8 年度開設用）」150 頁～151 頁、並びに「学校法人の寄附行為の認可及び寄附行為変更の認可申請書類の作成等に関する手引（令和 6 年 9 月改訂版）」230 頁～233 頁の指示に倣って、資料 E の通りクロス集計を行った。

まず全有効回答数 25,036 人のうち、問 4〔卒業後の進路〕で「①大学」を選択した者は 18,741 人（74.9%）であった。次に、この 18,741 人のうち、問 5〔進学希望の大学等設置者〕で「①私立」を選択した者は 16,236 人（86.6%）であった。続いて、この 16,236 人のうち、問 7〔興味のある学問分野〕で「①データサイエンス学」を選択した者は 959 人（5.9%）であった。最後にこの 959 人について、問 8〔新設組織の受験希望有無〕と問 9〔合格した場合の入学希望有無〕のクロス集計を行っている。

このクロス集計において、問 8〔新設組織の受験希望有無〕で文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科を「①第一志望として受験する」と回答したした者は 148 人（15.4%）であり、このうち問 9〔合格した場合の入学希望有無〕で文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科に「①入学する」と回答した者は 141 人（95.3%）であった。

文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科の入学定員は 110 人であり、上記クロス集計の結果、入学定員の 1.28 倍となる入学見込者の実数を得ることができた。

ヒューマン・データサイエンス学科（仮称）の設置に係るアンケート調査



文京学院大学では、令和 8 年(2026 年)4 月に、ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科（仮称）の設置を構想しています。このアンケート調査は高校 2 年生の皆様に高校卒業後の進路、入学意向についてお聞きするものになります。よろしくお願いいたします。

*このアンケート結果は、統計資料としてのみ利用いたします。

*過去に本学の同一のアンケート調査に回答頂いている場合は、こちらのご回答はお控えください。

【あなた自身についてお聞きします】

【回答欄】

問 1 あなたの性別についておたずねします。

1. 男性

2. 女性

3. 回答しない

問 2 あなたのお住まい（現住所）についておたずねします。

- | | | | | |
|----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| 1. 北海道 | 1 1. 埼玉県 | 2 1. 岐阜県 | 3 1. 鳥取県 | 4 1. 佐賀県 |
| 2. 青森県 | 1 2. 千葉県 | 2 2. 静岡県 | 3 2. 島根県 | 4 2. 長崎県 |
| 3. 岩手県 | 1 3. 東京都 | 2 3. 愛知県 | 3 3. 岡山県 | 4 3. 熊本県 |
| 4. 宮城県 | 1 4. 神奈川県 | 2 4. 三重県 | 3 4. 広島県 | 4 4. 大分県 |
| 5. 秋田県 | 1 5. 新潟県 | 2 5. 滋賀県 | 3 5. 山口県 | 4 5. 宮崎県 |
| 6. 山形県 | 1 6. 富山県 | 2 6. 京都府 | 3 6. 徳島県 | 4 6. 鹿児島県 |
| 7. 福島県 | 1 7. 石川県 | 2 7. 大阪府 | 3 7. 香川県 | 4 7. 沖縄県 |
| 8. 茨城県 | 1 8. 福井県 | 2 8. 兵庫県 | 3 8. 愛媛県 | |
| 9. 栃木県 | 1 9. 山梨県 | 2 9. 奈良県 | 3 9. 高知県 | |
| 1 0. 群馬県 | 2 0. 長野県 | 3 0. 和歌山県 | 4 0. 福岡県 | |

問 3 あなたの所属するコース（クラス）についておたずねします。

- | | |
|-----------------|----------|
| 1. 文系コース（文系クラス） | 4. その他 |
| 2. 理系コース（理系クラス） | 5. 回答しない |
| 3. コース選択はない | |

【今後の進路についてお聞きします】

問 4 卒業後の進路をどのように考えていますか。（複数選択可）

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. 大学進学 | 5. 専門学校進学 |
| 2. 短期大学進学 | 6. 就職 |
| 3. 専門職大学進学 | 7. その他 |
| 4. 専門職短期大学進学 | |

問 5 問 4 で 1～4 を選択した方に質問です。

志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（複数選択可）

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 1. 私立 | 2. 国立 | 3. 公立 |
|-------|-------|-------|

問6 文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科(仮称)の特色は以下の通りです。特に魅力的だと感じる特色をお選びください。(複数選択可)

1. 社会や地域における課題に対して、データ分析手法などを活用し、解決策を提案することができるようになる。
2. 文系・理系出身に関わらず、プログラミングや統計手法、AI などデータを利活用する力を身につけることができる。
3. データサイエンスだけでなく、健康・生活、地域・環境、ビジネス・文化についても学ぶことができる文理融合型の学部である。
4. 理系科目が苦手でも安心できる、丁寧な学びの環境がある。
5. 企業や地域社会と連携した学びを通じて、プロジェクトを推進する力とコミュニケーション力を身につけることができる。
6. 少人数でのゼミで、自身の関心に基づいた卒業研究を行うことができる。

問7 高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。(複数選択可)

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. データサイエンス学 | 7. 文学・史学・哲学 |
| 2. 法学・政治学 | 8. 家政学・食物学 |
| 3. 商学・経済学 | 9. 医学・歯学・薬学・看護学 |
| 4. 社会学 | 10. 教育学・教員養成・体育学 |
| 5. 理学(数学・物理・化学・生物・地学等) | 11. 美術学・デザイン学・音楽学 |
| 6. 工学(機械工学・電気通信工学等) | 12. その他 |

【文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科(仮称)について】

問8 文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科(仮称)が開設された場合受験を希望しますか。次より1つ選択してください。

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 第一志望として受験する | 3. 第三志望以降として受験する |
| 2. 第二志望として受験する | 4. 受験しない |

問9 問8で1～3を選択した方に質問です。文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科(仮称)を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より1つ選択してください。

1. 入学する
2. 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する
3. 入学しない

問10 文京学院大学、またヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科(仮称)の設置構想についてご意見等ございましたらご記入ください。

アンケートにご協力頂きまして、誠にありがとうございました。

ヒューマン・ データサイエンス学部

ヒューマン・データサイエンス学科 **仮称**

2026年4月 設置構想中

※設置構想中であり、今後内容が変更となる可能性があります。

新学部特設サイト



人の幸せに直結する環境、地域社会、
健康・福祉分野にデータを利活用する

文系だからこそ学べる

データサイエンス教育 がスタート



FEATURES

学びの特色

文系でも安心!

データサイエンス・AIの スキルを身につける

理系科目が苦手な学生も安心な学修環境を用意します。

データサイエンティストの育成に特化した学部ではなく、社会課題を理解し、課題解決に向けたデータの収集・処理・分析のための手法やAI活用手法などを学びます。



新しい手法での
データの収集



AIを活用した
調査手法



統計手法の
理解と活用



プログラミング

課題理解・課題解決に向けた
データの収集・処理・分析手法

PBL型授業で社会課題発見力と マネジメントスキルを身につける

DXコンサルティング企業やAIサービス企業と協働し、社会課題を解決するためのプロジェクトを立ち上げます。統計分析やAI活用を組み合わせる課題解決する手法を実践的に学び、推進力とコミュニケーション力を身につけます。



企業連携による
実践的な学びを
提供



企業データによる
生きたデータでの
学び



PBL型授業での
マネジメントスキル獲得

実社会に即した実践的な学び

キャリアイメージ



IT・情報通信

ビッグデータを有効に活用して
情報システムを活用、サイバーセ
キュリティ運用を推進



広告・小売・サービス

顧客の行動データから効果的な
マーケティング戦略を立案し、
販売促進やサービス改善に活用



行政・地域自治体・NPO

交通データ、健康データ、犯罪
データ、住民の意見などを分析
して地域の課題を解決



物流・運送・航空・鉄道

効率的な配送ルートや在庫管理
を最適化し、時間とコストを節約



医療、介護・福祉

AI診断システム、治療方法データ
の収集、管理による早期回復



金融

リスク管理、投資戦略の最適化、
顧客ニーズの予測を支援し、市場
の動向を理解



娯楽・レジャー

人々の好み、動画視聴履歴など
から個々に合わせたプランを立案。
VR（仮想現実）を活用した
事前シミュレーション

取得できる資格・
検定試験

- ・ITパスポート試験
- ・統計検定
- ・基本情報技術者試験
- ・社会調査士（認定資格）

社会課題に合わせた3領域の学びを展開

生活・健康、地域・環境、ビジネス・文化の領域から、

自分の興味・関心のあるテーマを選択し少人数でのゼミできめ細かく実践的に学びます。



生活・健康

将来の健康問題への取り組みを推進し、データを活用して生活改善のシステム開発に貢献できる人材を養成します。



地域・環境

地域活性化や環境問題、カーボンニュートラルの実現、食品ロス削減、農林水産業の振興などに貢献する人材を養成します。



ビジネス・文化

企業や社会のデータを集め、データに基づいて新たな商品やサービスの企画により価値創造ができる人材を養成します。

学びの特色 01~03 で身につく力

仮説の検証に
データを活用
できる力

社会課題の解決に
情熱を持ち
仮説を立てる力

課題解決に向けて
広くコミュニケーション
をとる力

養成する人材像

課題を抱える人



課題を解決できる人

データサイエンスの知識を使って人と人を結び付け
解決策を提案できる人材

学部構想概要

- ◆ 開設：2026年4月
- ◆ 学部・学科名：ヒューマン・データサイエンス学部
(仮称) ヒューマン・データサイエンス学科
- ◆ 授与学位：学士（データサイエンス）
- ◆ 入学定員：110名
- ◆ 学部所在地：東京・本郷キャンパス

設置の理念

創立者の理念を現代に合わせ、これからの時代に求められる技術である「データサイエンス」をより身近な課題解決に活用するために、ヒューマン・データサイエンス学部を設置し、「人と人、人と地域、人と自然が共生する社会創造」を実現するための新たな教育を開始します。

養成する人材像

ヒューマン・データサイエンス学部においては、**建学の精神「自立と共生」の下、人と人、人と地域、人と自然が共生する社会創造を目標とする**。その目標実現のために提供する教育は、**生活・健康、地域・環境、ビジネス・文化の領域から学生各自が主体的に社会課題を把握**できること、**数理科学・統計学・情報学を基盤とするデータサイエンス・AIの専門知識・技術、並びに社会課題解決におけるその活用法を修得**できることである。これにより、社会課題に対して仮説を立て、検証にデータを活用し、データサイエンスの視点でステークホルダーとコミュニケーションをとり解決策を示すことができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー

ヒューマン・データサイエンス学科では、次のような学生を求めています。

【知識・技能】

本学科での学びに必要な、高等学校までに修得すべき基礎的な学力を身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

社会課題に対する関心と、課題の発見からデータの有効活用、複数の視点から論理的な解決策を導く力を伸ばしていく意欲を持ち、データ分析の結果や解決に向けたアイデアを自分の言葉で表現できる。

【主体性・多様性・協調性】

自ら進んで学ぶ姿勢を持ち、あらゆる協力者と積極的にコミュニケーションをとり課題解決に向けて取り組む意欲を備えている。

学生納付金（予定）

入学金	学費	諸費用	初年度（1年次）合計
270,000円	1,170,000円	22,400円	1,462,400円

類似する大学

- ◆ 武蔵野大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科
- ◆ 明星大学 データサイエンス学環
- ◆ 順天堂大学 健康データサイエンス学部 健康データサイエンス学科
- ◆ 専修大学 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科

アクセス

〒113-8668 東京都文京区向丘 1-19-1

◆ 東京メトロ南北線

「東大前」駅下車（2番出口）徒歩 0分

◆ 都営三田線

「白山」駅下車（A2出口）徒歩 10分

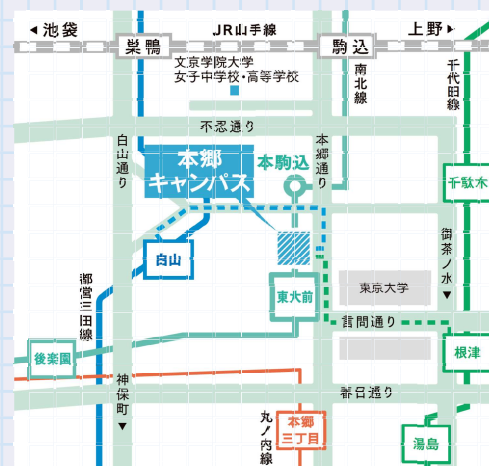
◆ 東京メトロ千代田線

「根津」駅下車（1番出口）徒歩 10分

お問い合わせ

設置準備室：Tel. 03-3814-1661 / Fax. 03-6240-0131

E-mail. hds-kaisetsu@bgu.ac.jp



外国語学部 英語コミュニケーション学科
経営学部 経営コミュニケーション学科
マーケティング・デザイン学科

人間学部

児童発達学科
人間福祉学科
心理学科

保健医療技術学部

理学療法学科
作業療法学科
臨床検査学科
看護学科

● アリセス

東京 本郷キャンパス

〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
東京メトロ南北線「東大前」駅下車（2番出口）徒歩0分
都営三田線「白山」駅下車（A2出口）徒歩 10分
東京メトロ千代田線「根津」駅下車（1番出口）徒歩10分

埼玉 ふじみ野キャンパス

〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
東武東上線「ふじみ野」駅西口より 無料スクールバス7分

受験生サイト
Switch On!



BUNKYO GCI

多様な世界を体感する
学びで、自分らしく、
グローバルに
活躍しよう！



文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部 高校生アンケート調査 調査票発送状況一覧表

No	都道府県	高校名	調査票発送枚数
1	東京都	東京都立大崎高等学校	268
2	東京都	東京都立大森高等学校	95
3	東京都	東京都立小山台高等学校	318
4	東京都	東京都立駒場高等学校	360
5	東京都	東京都立千歳丘高等学校	250
6	東京都	東京都立松原高等学校	235
7	東京都	東京都立井草高等学校	312
8	東京都	東京都立鷺宮高等学校	266
9	東京都	東京都立練馬高等学校	40
10	東京都	東京都立光丘高等学校	195
11	東京都	東京都立田柄高等学校	122
12	東京都	東京都立大山高等学校	210
13	東京都	東京都立豊島高等学校	320
14	東京都	東京都立文京高等学校	360
15	東京都	東京都立足立東高等学校	121
16	東京都	東京都立足立西高等学校	190
17	東京都	東京都立足立新田高等学校	270
18	東京都	東京都立江戸川高等学校	355
19	東京都	東京都立葛西南高等学校	183
20	東京都	東京都立小岩高等学校	360
21	東京都	東京都立日本橋高等学校	315
22	東京都	東京都立東高等学校	300
23	東京都	東京都立深川高等学校	320
24	東京都	東京都立南葛飾高等学校	223
25	東京都	東京都立紅葉川高等学校	269
26	東京都	東京都立小川高等学校	320
27	東京都	東京都立小平西高等学校	280
28	東京都	東京都立小笠原高等学校	26
29	東京都	東京都立神津高等学校	14
30	東京都	東京都立新島高等学校	11
31	東京都	東京都立江東商業高等学校	140
32	東京都	東京都立第四商業高等学校	160
33	東京都	東京都立千早高等学校	199
34	東京都	東京都立大田桜台高等学校	118
35	東京都	東京都立足立工科高等学校	57
36	東京都	東京都立科学技術高等学校	208
37	東京都	東京都立農業高等学校	180
38	東京都	東京都立農産高等学校	132
39	東京都	東京都立赤羽北桜高等学校	182
40	東京都	東京都立墨田川高等学校	308
41	東京都	東京都立大泉桜高等学校	180

No	都道府県	高校名	調査票発送枚数
42	東京都	東京都立板橋有徳高等学校	178
43	東京都	東京都立小台橋高等学校	240
44	東京都	東京都立桐ヶ丘高等学校	150
45	東京都	東京都立大江戸高等学校	162
46	東京都	東京都立青梅総合高等学校	230
47	東京都	東京都立稔ヶ丘高等学校	217
48	東京都	東京都立葛飾総合高等学校	185
49	東京都	東京都立世田谷総合高等学校	224
50	東京都	東京都立王子総合高等学校	30
51	茨城県	東洋大学附属牛久高等学校	588
52	埼玉県	筑波大学附属坂戸高等学校	180
53	埼玉県	埼玉県立川口高等学校	100
54	埼玉県	鴻巣女子高等学校	150
55	埼玉県	埼玉県立飯能高等学校	290
56	埼玉県	埼玉県立久喜高等学校	280
57	埼玉県	埼玉県立小川高等学校	200
58	埼玉県	埼玉県立草加高等学校	400
59	埼玉県	川越工業高等学校	15
60	埼玉県	埼玉県立豊岡高等学校	320
61	埼玉県	埼玉県立草加南高等学校	40
62	埼玉県	埼玉県立滑川総合高等学校	280
63	埼玉県	埼玉県立上尾南高等学校	250
64	埼玉県	埼玉県立杉戸高等学校	280
65	埼玉県	川越市立川越高等学校	280
66	埼玉県	埼玉県立川口東高等学校	150
67	埼玉県	埼玉県立鷺宮高等学校	280
68	埼玉県	埼玉県立朝霞西高等学校	280
69	埼玉県	埼玉県立川越西高等学校	80
70	埼玉県	埼玉県立坂戸西高等学校	320
71	埼玉県	埼玉県立所沢西高等学校	80
72	埼玉県	埼玉県立大宮東高等学校	240
73	埼玉県	埼玉県立所沢中央高等学校	320
74	埼玉県	埼玉県立草加東高等学校	20
75	埼玉県	埼玉県立庄和高等学校	160
76	埼玉県	埼玉県立大宮南高等学校	170
77	埼玉県	埼玉県立狭山清陵高等学校	200
78	埼玉県	埼玉県立宮代高等学校	170
79	埼玉県	埼玉県立浦和東高等学校	360
80	埼玉県	埼玉県立川越初雁高等学校	40
81	埼玉県	埼玉県立入間向陽高等学校	320
82	埼玉県	埼玉県立草加西高等学校	100
83	埼玉県	埼玉県立川口青陵高等学校	40
84	埼玉県	埼玉県立大宮光陵高等学校	360
85	埼玉県	埼玉県立久喜北陽高等学校	320
86	埼玉県	埼玉県立鳩ヶ谷高等学校	280

No	都道府県	高校名	調査票発送枚数
87	埼玉県	埼玉県立鶴ヶ島清風高等学校	180
88	埼玉県	埼玉県立新座柳瀬高等学校	206
89	埼玉県	埼玉県立狭山緑陽高等学校	180
90	埼玉県	埼玉県立蓮田松韻高等学校	120
91	埼玉県	埼玉県立ふじみ野高等学校	130
92	埼玉県	埼玉県立吉川美南高等学校	170
93	埼玉県	叡明高等学校	100
94	埼玉県	浦和麗明高等学校	380
95	埼玉県	細田学園高等学校	100
96	埼玉県	本庄第一高等学校	80
97	埼玉県	山村学園高等学校	500
98	埼玉県	山村国際高等学校	320
99	埼玉県	正智深谷高等学校	320
100	埼玉県	武蔵越生高等学校	280
101	埼玉県	東京成徳大学深谷高等学校	100
102	埼玉県	浦和実業学園高等学校	960
103	埼玉県	星野高等学校	100
104	埼玉県	浦和学院高等学校	542
105	埼玉県	西武台高等学校	100
106	埼玉県	秋草学園高等学校	270
107	埼玉県	埼玉平成高等学校	240
108	埼玉県	東野高等学校	350
109	埼玉県	国際学院高等学校	360
110	埼玉県	霞ヶ関高等学校	40
111	千葉県	千葉県立船橋啓明高等学校	90
112	千葉県	千葉県立浦安高等学校	169
113	千葉県	千葉県立流山おおたかの森高等学校	40
114	千葉県	千葉県立野田中央高等学校	80
115	千葉県	千葉県立八千代東高等学校	50
116	千葉県	千葉県立船橋法典高等学校	60
117	千葉県	千葉県立市川南高等学校	100
118	千葉県	千葉県立柏中央高等学校	320
119	千葉県	千葉県立土気高等学校	280
120	千葉県	千葉県立流山南高等学校	40
121	千葉県	千葉県立柏の葉高等学校	80
122	千葉県	昭和学院高等学校	50
123	千葉県	我孫子二階堂高等学校	150
124	千葉県	不二女子高等学校	160
125	千葉県	東京学館高等学校	460
126	千葉県	植草学園大学附属高等学校	240
127	千葉県	東京学館浦安高等学校	120
128	千葉県	翔凜高等学校	160
129	千葉県	桜林高等学校	163
130	東京都	神田女学園中学校高等学校	150
131	東京都	錦城学園高等学校	280

No	都道府県	高校名	調査票発送枚数
132	東京都	麴町学園女子中学校高等学校	100
133	東京都	二松学舎大学附属高等学校	255
134	東京都	中央学院大学中央高等学校	140
135	東京都	正則高等学校	50
136	東京都	京華商業高等学校	105
137	東京都	京華女子中学・高等学校	165
138	東京都	東洋大学京北高等学校	279
139	東京都	小石川淑徳学園高等学校	30
140	東京都	昭和第一高等学校	280
141	東京都	東洋女子高等学校	210
142	東京都	上野学園高等学校	170
143	東京都	安部学院高等学校	100
144	東京都	駿台学園高等学校	280
145	東京都	東京成徳大学高等学校	480
146	東京都	北豊島高等学校	50
147	東京都	共栄学園中学高等学校	260
148	東京都	修徳高等学校	293
149	東京都	品川エトワール女子高等学校	30
150	東京都	目黒日本大学高等学校	280
151	東京都	大東学園高等学校	230
152	東京都	日本女子体育大学附属二階堂高等学校	80
153	東京都	城西大学附属城西高等学校	250
154	東京都	昭和鉄道高等学校	100
155	東京都	豊島学院高等学校	100
156	東京都	豊南高等学校	240
157	東京都	帝京高等学校	388
158	東京都	東京家政大学附属女子高等学校	250
159	東京都	東京女子学院高等学校	114
160	東京都	藤村女子高等学校	117
161	東京都	大成高等学校	480
162	東京都	東海大学菅生高等学校	160
163	神奈川県	神奈川県立霧が丘高等学校	330
164	神奈川県	神奈川県立新羽高等学校	400
165	神奈川県	神奈川県立保土ヶ谷高等学校	290
166	神奈川県	神奈川県立横浜桜陽高等学校	240
167	神奈川県	神奈川県立鶴見総合高等学校	266
168	神奈川県	神奈川県立金沢総合高等学校	280
169	神奈川県	横浜商科大学高等学校	240
170	神奈川県	武相高等学校	320
171	神奈川県	横浜創学館高等学校	540
172	神奈川県	三浦学苑高等学校	500
173	静岡県	静岡県立浜松西高等学校	140
174	新潟県	東京学館新潟高等学校	270
175	埼玉県	埼玉県立川越総合高等学校	240
176	神奈川県	アレセイア湘南中学高等学校	321

No	都道府県	高校名	調査票発送枚数
177	東京都	立正大学付属立正高等学校	380
178	埼玉県	埼玉県立春日部工業高等学校	100
179	埼玉県	栄北高等学校	180
180	東京都	クラーク記念国際高等学校 CLARK NEXT Akihabara	30
合計			38,834

単純集計

問1 性別

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	男性	11812	47.2	47.2
2	女性	12464	49.8	49.8
3	回答しない	730	2.9	2.9
	不明	30	0.1	
	サンプル数 (%へ-ス)	25036	100	25006

問2 居住都道府県

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	北海道	51	0.2	0.2
2	青森県	11	0.0	0.0
3	岩手県	6	0.0	0.0
4	宮城県	5	0.0	0.0
5	秋田県	3	0.0	0.0
6	山形県	3	0.0	0.0
7	福島県	3	0.0	0.0
8	茨城県	51	0.2	0.2
9	栃木県	2	0.0	0.0
10	群馬県	28	0.1	0.1
11	埼玉県	9875	39.4	39.5
12	千葉県	1918	7.7	7.7
13	東京都	10491	41.9	41.9
14	神奈川県	2098	8.4	8.4
15	新潟県	232	0.9	0.9
16	富山県	1	0.0	0.0
17	石川県	2	0.0	0.0
18	福井県	1	0.0	0.0
19	山梨県	1	0.0	0.0
20	長野県	1	0.0	0.0
21	岐阜県	1	0.0	0.0
22	静岡県	150	0.6	0.6
23	愛知県	3	0.0	0.0
24	三重県	2	0.0	0.0
25	滋賀県	1	0.0	0.0
26	京都府	3	0.0	0.0
27	大阪府	5	0.0	0.0
28	兵庫県	1	0.0	0.0
29	奈良県	1	0.0	0.0
30	和歌山県	0	0.0	0.0
31	鳥取県	3	0.0	0.0
32	島根県	2	0.0	0.0
33	岡山県	0	0.0	0.0
34	広島県	1	0.0	0.0
35	山口県	3	0.0	0.0
36	徳島県	1	0.0	0.0
37	香川県	3	0.0	0.0
38	愛媛県	0	0.0	0.0
39	高知県	1	0.0	0.0
40	福岡県	0	0.0	0.0
41	佐賀県	5	0.0	0.0
42	長崎県	2	0.0	0.0
43	熊本県	4	0.0	0.0
44	大分県	0	0.0	0.0
45	宮崎県	1	0.0	0.0
46	鹿児島県	4	0.0	0.0
47	沖縄県	36	0.1	0.1
	不明	20	0.1	
	サンプル数 (%へ-ス)	25036	100	25016

問3 所属コース

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	文系コース (文系クラス)	11763	47.0	47.1
2	理系コース (理系クラス)	5172	20.7	20.7
3	コース選択はない	4947	19.8	19.8
4	その他	2046	8.2	8.2
5	回答しない	1053	4.2	4.2
	不明	55	0.2	
	サンプル数 (%へ-ス)	25036	100	24981

問4 卒業後の進路

(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	大学進学	18741	74.9	74.9
2	短期大学進学	1577	6.3	6.3
3	専門職大学進学	1179	4.7	4.7
4	専門職短期大学進学	444	1.8	1.8
5	専門学校進学	6761	27.0	27.0
6	就職	2737	10.9	10.9
7	その他	730	2.9	2.9
	不明	23	0.1	
	サンプル数 (%ベース)	25036	100	25013

問5 進学を希望する場合の大学等の設置者

(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(非該当を除く)%	(非該当と不明を除く)%
1	私立	16826	67.2	85.6	85.9
2	国立	4458	17.8	22.7	22.8
3	公立	5522	22.1	28.1	28.2
	不明	77	0.3	0.4	
	非該当	5371	21.5		
	サンプル数 (%ベース)	25036	100	19665	19588

問6 特に魅力的と感じる文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部の特徴

(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(非該当を除く)%	(非該当と不明を除く)%
1	社会や地域における課題に対して、データ分析手法などを活用し、解決策を提案することができるようになる。	4375	17.5	22.2	22.7
2	文系・理系出身に関わらず、プログラミングや統計手法、AIなどデータを利活用する力を身につけることができる。	8040	32.1	40.9	41.8
3	データサイエンスだけでなく、健康・生活、地域・環境、ビジネス・文化についても学ぶことができる文理融合型の学部である。	4643	18.5	23.6	24.1
4	理系科目が苦手でも安心できる、丁寧な学びの環境がある。	5535	22.1	28.1	28.8
5	企業や地域社会と連携した学びを通じて、プロジェクトを推進する力とコミュニケーション力を身につけることができる。	4151	16.6	21.1	21.6
6	少人数でのゼミで、自身の関心に基づいた卒業研究を行うことができる。	4267	17.0	21.7	22.2
	不明	422	1.7	2.1	
	非該当	5371	21.5		
	サンプル数 (%ベース)	25036	100	19665	19243

問7 興味のある学問分野

(複数回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(非該当を除く)%	(非該当と不明を除く)%
1	データサイエンス学	1174	4.7	6.0	6.1
2	法学・政治学	2263	9.0	11.5	11.7
3	商学・経済学	4605	18.4	23.4	23.8
4	社会学	1867	7.5	9.5	9.6
5	理学(数学・物理・化学・生物・地学等)	2297	9.2	11.7	11.9
6	工学(機械工学・電気通信工学等)	1760	7.0	8.9	9.1
7	文学・史学・哲学	3524	14.1	17.9	18.2
8	家政学・食物学	1127	4.5	5.7	5.8
9	医学・歯学・薬学・看護学	2716	10.8	13.8	14.0
10	教育学・教員養成・体育学	3533	14.1	18.0	18.3
11	美術学・デザイン学・音楽学	2229	8.9	11.3	11.5
12	その他	2842	11.4	14.5	14.7
	不明	310	1.2	1.6	
	非該当	5371	21.5		
	サンプル数 (%ベース)	25036	100	19665	19355

問8 文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部への受験希望の有無 (単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(非該当を除く)%	(非該当と不明を除く)%
1	第一志望として受験する	355	1.4	1.8	1.8
2	第二志望として受験する	375	1.5	1.9	1.9
3	第三志望以降として受験する	1544	6.2	7.9	8.0
4	受験しない	17092	68.3	86.9	88.3
	不明	299	1.2	1.5	
	非該当	5371	21.5		
	サンプル数 (%ベース)	25036	100	19665	19366

問9 文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部に合格した場合の入学希望の有無 (単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(非該当を除く)%	(非該当と不明を除く)%
1	入学する	459	1.8	20.2	20.2
2	志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	1568	6.3	69.0	69.1
3	入学しない	243	1.0	10.7	10.7
	不明	4	0.0	0.2	
	非該当	22762	90.9		
	サンプル数 (%ベース)	25036	100	2274	2270

「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和8年度開設用）」150頁～151頁、並びに「学校法人の寄附行為の認可及び寄附行為変更の認可申請書類の作成等に関する手引（令和6年9月改訂版）」230頁～233頁の指示に倣ったクロス集計の実施過程

回答者数(合計)	問4 卒業後の進路	問5 進学希望の 大学等設置者	問7 興味のある 学問分野	問8 新設組織の 受験希望有無	問9 合格した場合の 入学希望有無
25,036人	うち、	うち、	うち、	うち、	うち、
	①大学 18,741人 (74.9%)	①私立 16,236人 (86.6%)	①データサイエンス学 を選択 959人(5.9%) ※新設組織に該当 する学問分野を選択 した者のみ記載	①第一志望として 受験する 148人(15.4%)	①入学する 141人(95.3%)
					②志望順位が上位の 他の志望校が不合格 の場合に入学する 2人(1.4%)
					③入学しない 5人(3.4%)
				②第二志望として 受験する 69人(7.2%)	①入学する 23人(33.3%)
					②志望順位が上位の 他の志望校が不合格 の場合に入学する 39人(56.5%)
					③入学しない 7人(10.1%)
				③第三志望以降と して受験する 186人(19.4%)	①入学する 10人(5.4%)
					②志望順位が上位の 他の志望校が不合格 の場合に入学する 163人(87.6%)
					③入学しない 12人(6.5%)
					※不明 1人(0.5%)
				④受験しない	

クロス集計の結果:

入学見込者
141人

文京学院大学におけるヒューマン・データサイエンス学部の設置に係る
事業所アンケート調査結果報告書

令和7年2月
一般財団法人 日本開発構想研究所

1. アンケート調査の概要

1. 1. 調査目的

令和 8 年 4 月の開設を予定している文京学院大学のヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科に関して、事業所が期待する教育内容、採用意向等を的確に把握することを調査目的とする。

1. 2. 調査対象

文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科卒業生の就職先として想定される業種に属する事業所で、文京学院大学の既設学部卒業生に対する採用実績のある合計 558 事業所を選定の上、調査票等一式を発送し、アンケート調査を実施した。アンケート調査の実施にあたっては、文京学院大学が事業所のリストアップを行い、日本開発構想研究所がそのリストに基づき合計 558 票（1 事業所につき 1 票）のアンケート調査票（資料 a）を人事採用担当者宛に発送した。アンケート回答者に必要な情報を明示する観点からリーフレット（資料 b）も併せて送付した。

尚、事業所でのアンケート調査実施にあたっては、紙媒体の調査票に回答を記入し調査票を返送する方式と、調査票表面上部にある QR コードから Web 回答フォームに入り回答する方式の、いずれかを選択する方法を採用した。

1. 3. 実施時期

令和 6 年 10 月 22 日から令和 6 年 11 月 22 日にかけて調査を実施した。

1. 4. 調査票回収状況

合計 164 事業所から合計 164 票（1 事業所につき 1 票）の有効回答票を回収することができた。回収率は、29.3%であった。164 票の有効回答票のうち、紙媒体の調査票による有効回答票は 67 票、Web 回答フォームによる有効回答票は 97 票となった。

2. アンケート調査結果

全設問の回答を集計したところ、資料 c の通り、単純集計結果が得られている。問 8 でヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科卒業生に対する採用意向をきいたところ、「採用したい」が 100 事業所（61.0%）、「採用を検討したい」が 58 事業所（35.4%）となった。

さらに資料 d のクロス集計表により、問 8 と問 9〔ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科卒業生に対する採用想定人数〕の関係をみたところ、問 8 で「採用したい」と回答した事業所については、「1 人」が 9 事業所（9%）、「2 人」が 17 事業所（17%）、「3 人」が 11 事業所（11%）、「4 人」が 2 事業所（2%）、「5 名以上」が 18 事業所（18%）「人数は未定」が 43 事業所（43%）、となった。

この問 9 における採用想定人数と採用想定人数を選択した事業所数を掛け合わせると、「1 人」×9+「2 人」×17+「3 人」×11+「4 人」×2+「5 人」×18+43=217 人となり、文京学院大学ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科の入学定員 110 人に照らすと、1.97 倍の採用希望に係る実数を得ることができた。選択肢「5 名以上」については最小値である 5 人で掛け合わせた点、選択肢「人数は未定」については 1 人で掛け合わせた点、等を踏まえれば入学定員 110 人分に係る卒業後の進路見通しは確保できていると考えられる。

文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科 (仮称)

設置構想に関わるアンケート調査

本調査は、令和8年度(2026年)4月に設置構想している「文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科(仮称)」について、設置の基礎資料とするために貴社の採用状況や意向についてお伺いするものです。回答いただきました内容は、統計処理を行った上で本学部設置構想に関わる業務のみに使用いたします。また、本回答によって、実際の採用人数をお約束いただくものでもありません。

○ 調査回答の方法 ○

本アンケートは「本回答用紙にご記入の上、返信用封筒にてご投函いただくか、右の「スマートフォンやタブレットからQRコードを読み込んでいただきご回答」をお願いいたします。QRコードからご回答いただいた場合は、本用紙での返信は不要です。



○ 調査回答締め切りのお願 ○

令和6年11月22日(金)までにご回答いただきますようよろしくお願いいたします。

【貴社についてお伺いいたします】

問1 本社・支社・事業所等についてお伺いします。次の中から該当する番号を一つお選びください。

1. 本 社 2. 支 社 3. 単独事業所

問2 所在地についてお伺いします。次の中から該当する番号を一つお選びください。

- | | | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|
| 1.北海道 | 2.青森県 | 3.岩手県 | 4.宮城県 | 5.秋田県 | 6.山形県 | 7.福島県 | 8.茨城県 |
| 9.栃木県 | 10.群馬県 | 11.埼玉県 | 12.千葉県 | 13.東京都 | 14.神奈川県 | 15.山梨県 | 16.長野県 |
| 17.新潟県 | 18.富山県 | 19.石川県 | 20.福井県 | 21.岐阜県 | 22.静岡県 | 23.愛知県 | 24.三重県 |
| 25.滋賀県 | 26.京都府 | 27.大阪府 | 28.兵庫県 | 29.奈良県 | 30.和歌山県 | 31.鳥取県 | 32.島根県 |
| 33.岡山県 | 34.広島県 | 35.山口県 | 36.徳島県 | 37.香川県 | 38.愛媛県 | 39.高知県 | 40.福岡県 |
| 41.佐賀県 | 42.長崎県 | 43.熊本県 | 44.大分県 | 45.宮崎県 | 46.鹿児島県 | 47.沖縄県 | |

問3 貴社の業種についてお伺いします。次の中から最も当てはまる番号を一つお選びください。

- | | | |
|----------------------------------|---------------------|------------------|
| 1. 農業、林業 | 2. 漁業 | 3. 鉱業、採石業、砂利採取業 |
| 4. 建設業 | 5. 製造業 | 6. 電気・ガス・熱供給・水道業 |
| 7. 情報通信業、運輸業、郵便業 | 8. 卸売業、小売業 | 9. 金融業、保険業 |
| 10. 不動産業、物品賃貸業 | 11. 学術研究、専門・技術サービス業 | 12. 宿泊業、飲食サービス業 |
| 13. 生活関連サービス業、娯楽業 | 14. 教育、学習支援業 | 15. 医療、福祉 |
| 16. 複合サービス事業 | 17. その他サービス業 | 18. 公務 |
| 19. その他 () | | |

問4 今年度(令和6年度入社)の新卒採用人数についてお伺いします。該当する番号をお選びください。

(問1で支社、単独事業所と回答された場合は、そちらでの採用数をご回答ください。)

1. 1人~4人 2. 5人~9人 3. 10人以上 4. 採用していない

⇒⇒裏面にお進みください⇒⇒

問5 今後の採用について、どのようにお考えですか。お考えに最も近い番号を1つお選びください。

1. 毎年、安定的に新卒採用を実施する。
2. できれば、毎年、安定的に新卒採用を実施する。
3. 毎年ではないが、ある程度は安定的に新卒採用を実施する。
4. 増員が必要になった場合に新卒採用を実施する。
5. 欠員が出た場合に新卒採用を実施する。
6. 当面、新卒採用は行わない。

☐

【文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部（仮称）についてのご意見をお伺いします】

文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部（仮称）のリーフレットをご覧いただいたうえでご回答ください。

問6 新設学部の社会的必要性について、どのようにお考えになりますか。

次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 特に社会的必要性が高い分野の教育であると感じる。
2. 社会的必要性が高い分野の教育であると感じる。
3. あまり社会的必要性を感じない。
4. 必要性はない。

☐

問7 新設学部において計画している学生に求めるスキルのうち、重要であると考えerものはどれですか。

該当するものをすべてにチェックを入れてください。

- ・ テクノロジーにより問題解決に導くスキル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ☐
- ・ エビデンスベースで意思決定を支援できるスキル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ☐
- ・ 問題解決型授業で獲得したマネジメントスキル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ☐
- ・ 企業連携により実践データで獲得した知識を活用するスキル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ☐
- ・ プロジェクト管理を行い問題解決に導くスキル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ☐

【新設学部の卒業生が貴社への入社を希望した場合についてお伺いいたします。】

問8 当該卒業生の採用についてどのようにお考えになるか、次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 採用したい
2. 採用を検討したい
3. 採用しない

1～2を選ばれた方・・・・・・・・・・・・問9へ
3を選ばれた方・・・・・・・・・・・・問10へ

問9 当該卒業生を採用する場合、毎年何人程度採用したいと考えますか。次の中から該当する番号を1つお選びください。

1. 1人
2. 2人
3. 3人
4. 4人
5. 5人以上
6. 人数は未定

☐

【その他、ご意見をお願いいたします。】

問10 新設学部において、ご意見、ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

その他、本学の教育内容・活動等についてのご意見等もございましたら、併せてご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

文京学院大学 新学部設置準備室（担当 東城、金井、原）

〒113-8668 東京都文京区向丘 1-19-1

電話: 03-3814-9656 FAX: 03-6240-0131 E-mail: hds-kaisetsu@bgu.ac.jp

ヒューマン・ データサイエンス学部

ヒューマン・データサイエンス学科 仮称

2026年4月 設置構想中

※設置構想中であり、今後内容が変更となる可能性があります。

新学部特設サイト



人の幸せに直結する環境、地域社会、
健康・福祉分野にデータを利活用する

文系だからこそ学べる

データサイエンス教育 がスタート



FEATURES

学びの特色

文系でも安心!

データサイエンス・AIの スキルを身につける

理系科目が苦手な学生も安心な学修環境を用意します。

データサイエンティストの育成に特化した学部ではなく、社会課題を理解し、課題解決に向けたデータの収集・処理・分析のための手法やAI活用手法などを学びます。



新しい手法での
データの収集



AIを活用した
調査手法



統計手法の
理解と活用



プログラミング

課題理解・課題解決に向けた
データの収集・処理・分析手法

PBL型授業で社会課題発見力と マネジメントスキルを身につける

DXコンサルティング企業やAIサービス企業と協働し、社会課題を解決するためのプロジェクトを立ち上げます。統計分析やAI活用を組み合わせる課題解決する手法を実践的に学び、推進力とコミュニケーション力を身につけます。



企業連携による
実践的な学びを
提供



企業データによる
生きたデータでの
学び



PBL型授業での
マネジメントスキル獲得

実社会に即した実践的な学び

キャリアイメージ



IT・情報通信

ビッグデータを有効に活用して
情報システムを活用、サイバーセ
キュリティ運用を推進



広告・小売・サービス

顧客の行動データから効果的な
マーケティング戦略を立案し、
販売促進やサービス改善に活用



行政・地域自治体・NPO

交通データ、健康データ、犯罪
データ、住民の意見などを分析
して地域の課題を解決



物流・運送・航空・鉄道

効率的な配送ルートや在庫管理
を最適化し、時間とコストを節約



医療、介護・福祉

AI診断システム、治療方法データ
の収集、管理による早期回復



金融

リスク管理、投資戦略の最適化、
顧客ニーズの予測を支援し、市場
の動向を理解



娯楽・レジャー

人々の好み、動画視聴履歴など
から個々に合わせたプランを立案。
VR（仮想現実）を活用した
事前シミュレーション

取得できる資格・
検定試験

- ・ITパスポート試験
- ・統計検定
- ・基本情報技術者試験
- ・社会調査士（認定資格）

社会課題に合わせた3領域の学びを展開

生活・健康、地域・環境、ビジネス・文化の領域から、

自分の興味・関心のあるテーマを選択し少人数でのゼミできめ細かく実践的に学びます。



生活・健康

将来の健康問題への取り組みを推進し、データを活用して生活改善のシステム開発に貢献できる人材を養成します。



地域・環境

地域活性化や環境問題、カーボンニュートラルの実現、食品ロス削減、農林水産業の振興などに貢献する人材を養成します。



ビジネス・文化

企業や社会のデータを集め、データに基づいて新たな商品やサービスの企画により価値創造ができる人材を養成します。

学びの特色 01~03 で身につく力

仮説の検証に
データを活用
できる力

社会課題の解決に
情熱を持ち
仮説を立てる力

課題解決に向けて
広くコミュニケーション
をとる力

養成する人材像

課題を抱える人



課題を解決できる人

データサイエンスの知識を使って人と人を結び付け
解決策を提案できる人材

学部構想概要

- ◆ 開設：2026年4月
- ◆ 学部・学科名：ヒューマン・データサイエンス学部
(仮称) ヒューマン・データサイエンス学科
- ◆ 授与学位：学士（データサイエンス）
- ◆ 入学定員：110名
- ◆ 学部所在地：東京・本郷キャンパス

設置の理念

創立者の理念を現代に合わせ、これからの時代に求められる技術である「データサイエンス」をより身近な課題解決に活用するために、ヒューマン・データサイエンス学部を設置し、「人と人、人と地域、人と自然が共生する社会創造」を実現するための新たな教育を開始します。

養成する人材像

ヒューマン・データサイエンス学部においては、**建学の精神「自立と共生」の下、人と人、人と地域、人と自然が共生する社会創造を目標とする**。その目標実現のために提供する教育は、**生活・健康、地域・環境、ビジネス・文化の領域から学生各自が主体的に社会課題を把握**できること、**数理科学・統計学・情報学を基盤とするデータサイエンス・AIの専門知識・技術、並びに社会課題解決におけるその活用法を修得**できることである。これにより、社会課題に対して仮説を立て、検証にデータを活用し、データサイエンスの視点でステークホルダーとコミュニケーションをとり解決策を示すことができる人材を養成する。

アドミッション・ポリシー

ヒューマン・データサイエンス学科では、次のような学生を求めています。

【知識・技能】

本学科での学びに必要な、高等学校までに修得すべき基礎的な学力を身につけている。

【思考力・判断力・表現力】

社会課題に対する関心と、課題の発見からデータの有効活用、複数の視点から論理的な解決策を導く力を伸ばしていく意欲を持ち、データ分析の結果や解決に向けたアイデアを自分の言葉で表現できる。

【主体性・多様性・協調性】

自ら進んで学ぶ姿勢を持ち、あらゆる協力者と積極的にコミュニケーションをとり課題解決に向けて取り組む意欲を備えている。

学生納付金（予定）

入学金	学費	諸費用	初年度（1年次）合計
270,000円	1,170,000円	22,400円	1,462,400円

類似する大学

- ◆ 武蔵野大学 データサイエンス学部 データサイエンス学科
- ◆ 明星大学 データサイエンス学環
- ◆ 順天堂大学 健康データサイエンス学部 健康データサイエンス学科
- ◆ 専修大学 ネットワーク情報学部 ネットワーク情報学科

アクセス

〒113-8668 東京都文京区向丘 1-19-1

◆ 東京メトロ南北線

「東大前」駅下車（2番出口）徒歩 0分

◆ 都営三田線

「白山」駅下車（A2出口）徒歩 10分

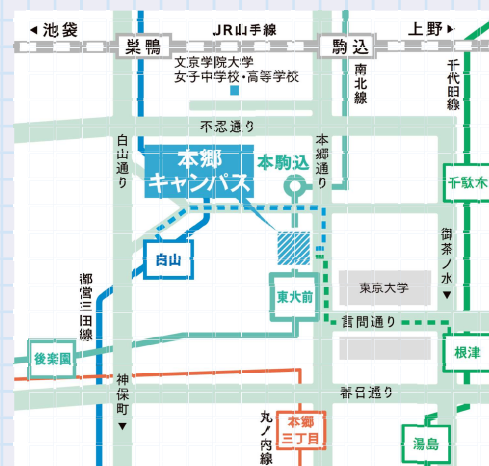
◆ 東京メトロ千代田線

「根津」駅下車（1番出口）徒歩 10分

お問い合わせ

設置準備室：Tel. 03-3814-1661 / Fax. 03-6240-0131

E-mail. hds-kaisetsu@bgu.ac.jp



外国語学部 英語コミュニケーション学科
経営学部 経営コミュニケーション学科
マーケティング・デザイン学科

人間学部

児童発達学科
人間福祉学科
心理学科

保健医療技術学部

理学療法学科
作業療法学科
臨床検査学科
看護学科

● アリセス

東京 本郷キャンパス

〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
東京メトロ南北線「東大前」駅下車（2番出口）徒歩0分
都営三田線「白山」駅下車（A2出口）徒歩 10分
東京メトロ千代田線「根津」駅下車（1番出口）徒歩10分

埼玉 ふじみ野キャンパス

〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
東武東上線「ふじみ野」駅西口より 無料スクールバス7分

受験生サイト
Switch On!



BUNKYO GCI

多様な世界を体感する
学びで、自分らしく、
グローバルに
活躍しよう！



単純集計

問1 本社・支社・事業所等

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	本社	141	86.0	86.0
2	支社	16	9.8	9.8
3	単独事業所	7	4.3	4.3
	不明	0	0.0	
	サンプル数 (%へ-ス)	164	100	164

問2 所在地

(単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	北海道	1	0.6	0.6
2	青森県	0	0.0	0.0
3	岩手県	0	0.0	0.0
4	宮城県	0	0.0	0.0
5	秋田県	0	0.0	0.0
6	山形県	0	0.0	0.0
7	福島県	0	0.0	0.0
8	茨城県	0	0.0	0.0
9	栃木県	0	0.0	0.0
10	群馬県	3	1.8	1.8
11	埼玉県	27	16.5	16.5
12	千葉県	5	3.0	3.0
13	東京都	109	66.5	66.5
14	神奈川県	5	3.0	3.0
15	山梨県	1	0.6	0.6
16	長野県	1	0.6	0.6
17	新潟県	0	0.0	0.0
18	富山県	0	0.0	0.0
19	石川県	0	0.0	0.0
20	福井県	0	0.0	0.0
21	岐阜県	0	0.0	0.0
22	静岡県	1	0.6	0.6
23	愛知県	5	3.0	3.0
24	三重県	0	0.0	0.0
25	滋賀県	0	0.0	0.0
26	京都府	1	0.6	0.6
27	大阪府	4	2.4	2.4
28	兵庫県	0	0.0	0.0
29	奈良県	0	0.0	0.0
30	和歌山県	0	0.0	0.0
31	鳥取県	0	0.0	0.0
32	島根県	0	0.0	0.0
33	岡山県	0	0.0	0.0
34	広島県	0	0.0	0.0
35	山口県	0	0.0	0.0
36	徳島県	0	0.0	0.0
37	香川県	0	0.0	0.0
38	愛媛県	0	0.0	0.0
39	高知県	0	0.0	0.0
40	福岡県	0	0.0	0.0
41	佐賀県	0	0.0	0.0
42	長崎県	0	0.0	0.0
43	熊本県	0	0.0	0.0
44	大分県	0	0.0	0.0
45	宮崎県	0	0.0	0.0
46	鹿児島県	0	0.0	0.0
47	沖縄県	1	0.6	0.6
	不明	0	0.0	
	サンプル数 (%へ-ス)	164	100	164

問3 業種		(単一回答)		
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	農業、林業	0	0.0	0.0
2	漁業	0	0.0	0.0
3	鉱業、採石業、砂利採取業	0	0.0	0.0
4	建設業	7	4.3	4.3
5	製造業	17	10.4	10.4
6	電気・ガス・熱供給・水道業	1	0.6	0.6
7	情報通信業、運輸業、郵便業	33	20.1	20.1
8	卸売業、小売業	49	29.9	29.9
9	金融業、保険業	5	3.0	3.0
10	不動産業、物品賃貸業	4	2.4	2.4
11	学術研究、専門・技術サービス業	3	1.8	1.8
12	宿泊業、飲食サービス業	13	7.9	7.9
13	生活関連サービス業、娯楽業	6	3.7	3.7
14	教育、学習支援業	1	0.6	0.6
15	医療、福祉	7	4.3	4.3
16	複合サービス事業	0	0.0	0.0
17	その他サービス業	12	7.3	7.3
18	公務	1	0.6	0.6
19	その他	5	3.0	3.0
	不明	0	0.0	
	サンプル数 (%ベース)	164	100	164

問4 令和6年度新卒採用人数		(単一回答)		
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	1人～4人	23	14.0	14.1
2	5人～9人	29	17.7	17.8
3	10人以上	95	57.9	58.3
4	採用していない	16	9.8	9.8
	不明	1	0.6	
	サンプル数 (%ベース)	164	100	163

問5 今後の採用についての考え		(単一回答)		
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	毎年、安定的に新卒採用を実施する。	131	79.9	79.9
2	できれば、毎年、安定的に新卒採用を実施する。	17	10.4	10.4
3	毎年ではないが、ある程度は安定的に新卒採用を実施する。	5	3.0	3.0
4	増員が必要になった場合に新卒採用を実施する。	4	2.4	2.4
5	欠員が出た場合に新卒採用を実施する。	3	1.8	1.8
6	当面、新卒採用は行わない。	4	2.4	2.4
	不明	0	0.0	
	サンプル数 (%ベース)	164	100	164

問6 新設学部の社会的必要性		(単一回答)		
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	特に社会的必要性が高い分野の教育であると感じる。	63	38.4	38.4
2	社会的必要性が高い分野の教育であると感じる。	99	60.4	60.4
3	あまり社会的必要性を感じない。	2	1.2	1.2
4	必要性はない。	0	0.0	0.0
	不明	0	0.0	
	サンプル数 (%ベース)	164	100	164

問7 新学部が学生に求めるスキルで重要なもの		(複数回答)		
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	テクノロジーにより問題解決に導くスキル	89	54.3	54.3
2	エビデンスベースで意思決定を支援できるスキル	81	49.4	49.4
3	問題解決型授業で獲得したマネジメントスキル	110	67.1	67.1
4	企業連携により実践データで獲得した知識を活用するスキル	60	36.6	36.6
5	プロジェクト管理を行い問題解決に導くスキル	96	58.5	58.5
	不明	0	0.0	
	サンプル数 (%ベース)	164	100	164

問8 文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科 卒業生に対する採用意向 (単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(不明を除く)%
1	採用したい	100	61.0	61.0
2	採用を検討したい	58	35.4	35.4
3	採用しない	6	3.7	3.7
	不明	0	0.0	
	サンプル数 (%ベース)	164	100	164

問9 文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科 卒業生に対する採用想定人数 (単一回答)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(非該当を除く)%	(非該当と不明を除く)%
1	1人	13	7.9	8.2	8.2
2	2人	20	12.2	12.7	12.7
3	3人	13	7.9	8.2	8.2
4	4人	2	1.2	1.3	1.3
5	5人以上	19	11.6	12.0	12.0
6	人数は未定	91	55.5	57.6	57.6
	不明	0	0.0	0.0	
	非該当	6	3.7		
	サンプル数 (%ベース)	164	100	158	158

クロス集計（問8×問9）

上段:度数		問9 文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科 卒業生に対する採用想定人数							
下段:%		合計	1人	2人	3人	4人	5人以上	人数は未定	不明
問8 文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科 卒業生に対する採用意向	全体	158	13	20	13	2	19	91	-
		100.0	8.2	12.7	8.2	1.3	12.0	57.6	-
	採用したい	100	9	17	11	2	18	43	-
		100.0	9.0	17.0	11.0	2.0	18.0	43.0	-
	採用を検討したい	58	4	3	2	-	1	48	-
		100.0	6.9	5.2	3.4	-	1.7	82.8	-
	採用しない	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-
	不明	-	-	-	-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-	-	-	-

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比
1	東京都	54,268人	34.5%
2	神奈川県	23,390人	14.9%
3	埼玉県	18,327人	11.7%
4	千葉県	14,112人	9.0%
5	茨城県	5,375人	3.4%
	全 体	157,086人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	東京都	103.70%	103.57%	102.88%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	理・工学系（大学）	104.35%	101.88%	99.39%
2	社会科学系（大学）	102.73%	102.70%	102.48%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

大学学部学科等名：文京学院大学外国語学部 英語コミュニケーション学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	42人	32人	32人	60人	60人	45人
	延べ人数	87人	80人	47人	41人	54人	62人
	志願者数	87人	80人	47人	41人	54人	62人
	受験者数	81人	80人	46人	40人	52人	60人
	合格者数	47人	63人	45人	40人	52人	49人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	3人	1人	1人	0人	0人	1人
	実人数	87人	80人	47人	41人	54人	62人
	志願者数	87人	80人	47人	41人	54人	62人
	受験者数	81人	80人	46人	40人	52人	60人
学校推薦型選抜	合格者数	47人	63人	45人	40人	52人	49人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	3人	1人	1人	0人	0人	1人
	実人数	42人	62人	41人	38人	50人	47人
	志願者数	152人	118人	101人	88人	76人	107人
	受験者数	152人	118人	99人	86人	76人	106人
	合格者数	141人	117人	99人	86人	76人	104人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	152人	118人	101人	88人	76人	107人
一般選抜	志願者数	152人	118人	99人	86人	76人	106人
	受験者数	141人	117人	99人	86人	76人	104人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	134人	109人	92人	81人	70人	97人
	志願者数	154人	154人	154人	140人	140人	148人
	受験者数	1406人	612人	350人	320人	260人	590人
	合格者数	1125人	350人	171人	162人	120人	386人
	うち追加合格者数	291人	283人	167人	160人	117人	204人
共通テスト利用入試	うち追加合格者数	23人	11人	0人	0人	0人	7人
	辞退者数	18人	36人	15人	3人	2人	15人
	実人数	732人	370人	214人	180人	133人	326人
	志願者数	670人	314人	168人	159人	114人	285人
	受験者数	291人	283人	167人	158人	113人	202人
	合格者数	23人	11人	0人	0人	0人	7人
	うち追加合格者数	18人	36人	15人	3人	2人	15人
	辞退者数	88人	85人	28人	27人	27人	51人
	実人数	12人	12人	12人	0人	0人	7人
	志願者数	1114人	741人	447人	322人	189人	563人
その他の特別選抜	受験者数	1114人	741人	447人	322人	189人	563人
	合格者数	74人	145人	315人	197人	134人	173人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	2人	3人	2人	0人	1人
	実人数	417人	288人	171人	116人	82人	215人
	志願者数	417人	288人	171人	116人	82人	215人
	受験者数	30人	58人	124人	75人	61人	70人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	2人	3人	2人	0人	1人
	辞退者数	1人	2人	7人	1人	4人	3人
合計	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	1人	0人	2人	0人	1人
	志願者数	0人	1人	0人	2人	0人	1人
	受験者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	1人	0人	2人	0人	1人
	志願者数	0人	1人	0人	2人	0人	1人
	受験者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
入学定員充足率	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	260人	260人	260人	260人	260人	260人
	受験者数	2759人	1552人	945人	773人	579人	1322人
	合格者数	2472人	1290人	763人	612人	437人	1115人
	うち追加合格者数	553人	608人	626人	484人	379人	530人
	辞退者数	23人	11人	0人	0人	0人	7人
	実人数	22人	39人	19人	5人	2人	17人
入学定員充足率	志願者数	1388人	857人	533人	427人	345人	710人
	受験者数	1320人	801人	484人	403人	324人	666人
	合格者数	509人	521人	435人	360人	302人	425人
	うち追加合格者数	23人	11人	0人	0人	0人	7人
	辞退者数	22人	39人	19人	5人	2人	17人
	実人数	265人	258人	168人	147人	151人	198人
	志願者数	260人	260人	260人	260人	260人	260人
	受験者数	1.02	0.99	0.65	0.57	0.58	0.76
	合格者数	0.48	0.42	0.27	0.30	0.40	0.37
	うち追加合格者数						

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	260人	260人	260人	260人	260人	260
入 学 定 員 充 足 率	1.02	0.99	0.65	0.57	0.58	0.76
歩 留 率	0.48	0.42	0.27	0.30	0.40	0.37

（備考）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	32人	32人	32人	20人	20人	27人
	延べ人数	77人	90人	66人	61人	51人	69人
	志願者数	77人	90人	66人	61人	51人	69人
	受験者数	77人	86人	65人	60人	50人	68人
	合格者数	44人	54人	58人	59人	45人	52人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	77人	90人	66人	61人	51人	69人
	志願者数	77人	86人	65人	60人	50人	68人
	受験者数	44人	54人	58人	59人	45人	52人
	合格者数	44人	54人	58人	59人	45人	52人
学校推薦型選抜	募集人数	43人	54人	57人	57人	43人	51人
	延べ人数	113人	135人	117人	44人	57人	93人
	志願者数	113人	135人	117人	44人	57人	93人
	受験者数	112人	134人	117人	44人	56人	93人
	合格者数	106人	131人	117人	44人	56人	91人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	実人数	113人	135人	117人	44人	57人	93人
	志願者数	112人	134人	117人	44人	56人	93人
	受験者数	106人	131人	117人	44人	56人	91人
	合格者数	106人	131人	117人	44人	56人	91人
一般選抜	募集人数	97人	119人	113人	44人	54人	85人
	延べ人数	2007人	1221人	747人	352人	224人	910人
	志願者数	1608人	810人	410人	237人	155人	644人
	受験者数	365人	355人	316人	191人	130人	271人
	合格者数	48人	61人	13人	12人	0人	27人
	うち追加合格者数	30人	42人	27人	11人	5人	23人
	辞退者数	1088人	645人	435人	245人	146人	512人
	志願者数	999人	541人	355人	208人	132人	447人
	受験者数	364人	355人	315人	190人	122人	269人
	合格者数	48人	61人	13人	12人	0人	27人
	うち追加合格者数	30人	42人	27人	11人	5人	23人
共通テスト利用入試	募集人数	123人	90人	82人	36人	32人	73人
	延べ人数	14人	14人	14人	0人	0人	8人
	志願者数	1383人	994人	621人	258人	142人	680人
	受験者数	1383人	994人	621人	258人	142人	680人
	合格者数	94人	156人	207人	75人	88人	124人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	4人	3人	1人	0人	0人	2人
	実人数	587人	396人	286人	119人	73人	292人
	志願者数	587人	396人	286人	119人	73人	292人
	受験者数	40人	63人	94人	34人	45人	55人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	募集人数	4人	3人	1人	0人	0人	2人
	延べ人数	0人	2人	3人	3人	5人	3人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	15人	13人	1人	1人	1人	6人
	合格者数	14人	12人	1人	1人	1人	6人
	うち追加合格者数	4人	0人	1人	0人	1人	1人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	15人	13人	1人	1人	1人	6人
	志願者数	14人	12人	1人	1人	1人	6人
	受験者数	4人	0人	1人	0人	1人	1人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	4人	0人	0人	0人	1人	1人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	15人	13人	1人	1人	1人	6人
	受験者数	14人	12人	1人	1人	1人	6人
	合格者数	4人	0人	1人	0人	1人	1人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	15人	13人	1人	1人	1人	6人
	志願者数	14人	12人	1人	1人	1人	6人
	受験者数	4人	0人	1人	0人	1人	1人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
入学者数	募集人数	260人	260人	260人	130人	130人	208人
	延べ人数	3595人	2453人	1552人	716人	475人	1758人
	志願者数	3194人	2036人	1214人	600人	404人	1490人
	受験者数	613人	696人	699人	369人	320人	539人
	合格者数	48人	61人	13人	12人	0人	27人
	うち追加合格者数	35人	45人	29人	11人	5人	25人
	辞退者数	1880人	1279人	905人	470人	328人	972人
	志願者数	1789人	1169人	824人	432人	312人	905人
	受験者数	558人	603人	585人	327人	269人	468人
	合格者数	48人	61人	13人	12人	0人	27人
	うち追加合格者数	35人	45人	29人	11人	5人	25人
入学定員充足率	募集人数	260人	260人	260人	130人	130人	208人
	延べ人数	3595人	2453人	1552人	716人	475人	1758人
	志願者数	3194人	2036人	1214人	600人	404人	1490人
	受験者数	613人	696人	699人	369人	320人	539人
	合格者数	48人	61人	13人	12人	0人	27人
	うち追加合格者数	35人	45人	29人	11人	5人	25人
	辞退者数	1880人	1279人	905人	470人	328人	972人
	志願者数	1789人	1169人	824人	432人	312人	905人
	受験者数	558人	603人	585人	327人	269人	468人
	合格者数	48人	61人	13人	12人	0人	27人
	うち追加合格者数	35人	45人	29人	11人	5人	25人
入学定員充足率	募集人数	260人	260人	260人	130人	130人	208人
	延べ人数	3595人	2453人	1552人	716人	475人	1758人
	志願者数	3194人	2036人	1214人	600人	404人	1490人
	受験者数	613人	696人	699人	369人	320人	539人
	合格者数	48人	61人	13人	12人	0人	27人
	うち追加合格者数	35人	45人	29人	11人	5人	25人
	辞退者数	1880人	1279人	905人	470人	328人	972人
	志願者数	1789人	1169人	824人	432人	312人	905人
	受験者数	558人	603人	585人	327人	269人	468人
	合格者数	48人	61人	13人	12人	0人	27人
	うち追加合格者数	35人	45人	29人	11人	5人	25人
入学定員充足率	募集人数	260人	260人	260人	130人	130人	208人
	延べ人数	3595人	2453人	1552人	716人	475人	1758人
	志願者数	3194人	2036人	1214人	600人	404人	1490人
	受験者数	613人	696人	699人	369人	320人	539人
	合格者数	48人	61人	13人	12人	0人	27人
	うち追加合格者数	35人	45人	29人	11人	5人	25人
	辞退者数	1880人	1279人	905人	470人	328人	972人
	志願者数	1789人	1169人	824人	432人	312人	905人
	受験者数	558人	603人	585人	327人	269人	468人
	合格者数	48人	61人	13人	12人	0人	27人
	うち追加合格者数	35人	45人	29人	11人	5人	25人
入学定員充足率	募集人数	260人	260人	260人	130人	130人	208人
	延べ人数	3595人	2453人	1552人	716人	475人	1758人
	志願者数	3194人	2036人	1214人	600人	404人	1490人
	受験者数	613人	696人	699人	369人	320人	539人
	合格者数	48人	61人	13人	12人	0人	27人
	うち追加合格者数	35人	45人	29人	11人	5人	25人
	辞退者数	1880人	1279人	905人	470人	328人	972人
	志願者数	1789人	1169人	824人	432人	312人	905人
	受験者数	558人	603人	585人	327人	269人	468人
	合格者数	48人	61人	13人	12人	0人	27人
	うち追加合格者数	35人	45人	29人	11人	5人	25人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	260人	260人	260人	130人	130人	208
入 学 定 員 充 足 率	1.03	1.02	0.98	1.08	1.04	1.03
歩 留 率	0.44	0.38	0.36	0.38	0.42	0.40

（備考）

令和5年度 入学定員を260人から130人に変更

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	0人	20人	20人	8人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	50人	51人	20人
		受験者数	0人	0人	49人	50人	20人
		合格者数	0人	0人	47人	47人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	50人	51人	20人
		受験者数	0人	0人	49人	50人	20人
		合格者数	0人	0人	47人	47人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	47人	47人	19人
学校推薦型選抜	募集人数	0人	0人	0人	40人	40人	16人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	84人	86人	34人
		受験者数	0人	0人	83人	86人	34人
		合格者数	0人	0人	83人	85人	34人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	84人	86人	34人
		受験者数	0人	0人	83人	86人	34人
		合格者数	0人	0人	83人	85人	34人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	80人	79人	32人
一般選抜	募集人数	0人	0人	0人	70人	70人	28人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	339人	203人	108人
		受験者数	0人	0人	163人	107人	54人
		合格者数	0人	0人	116人	71人	37人
		うち追加合格者数	0人	0人	12人	2人	3人
		辞退者数	0人	0人	5人	2人	1人
	実人数	志願者数	0人	0人	148人	113人	52人
		受験者数	0人	0人	127人	95人	44人
		合格者数	0人	0人	115人	71人	37人
		うち追加合格者数	0人	0人	12人	2人	3人
		辞退者数	0人	0人	5人	2人	1人
	入学者数	0人	0人	0人	30人	11人	8人
共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	254人	141人	79人
		受験者数	0人	0人	254人	141人	79人
		合格者数	0人	0人	53人	69人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	97人	62人	32人
		受験者数	0人	0人	97人	62人	32人
		合格者数	0人	0人	21人	31人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	1人	3人	1人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	1人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	1人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	1人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	1人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	1人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	1人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
合計	募集人数	0人	0人	0人	130人	130人	52人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	727人	482人	242人
		受験者数	0人	0人	549人	385人	187人
		合格者数	0人	0人	299人	273人	114人
		うち追加合格者数	0人	0人	12人	2人	3人
		辞退者数	0人	0人	5人	2人	1人
	実人数	志願者数	0人	0人	379人	313人	138人
		受験者数	0人	0人	356人	294人	130人
		合格者数	0人	0人	266人	235人	100人
		うち追加合格者数	0人	0人	12人	2人	3人
		辞退者数	0人	0人	5人	2人	1人
	入学者数	0人	0人	0人	158人	141人	60人

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	0人	0人	0人	130人	130人	52
入 学 定 員 充 足 率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	1.22	1.08	#DIV/0!
歩 留 率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	0.53	0.52	#DIV/0!

（備考）

令和5年度開設 入学定員130人

大学学部学科等名：文京学院大学人間学部 児童発達学科

(大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。)

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均	
総合型選抜	募集人数	28人	28人	28人	30人	30人	29人	
	延べ人数	志願者数	64人	30人	30人	50人	27人	40人
		受験者数	64人	30人	30人	50人	27人	40人
		合格者数	59人	30人	30人	50人	27人	39人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	64人	30人	30人	50人	27人	40人
		受験者数	64人	30人	30人	50人	27人	40人
		合格者数	59人	30人	30人	50人	27人	39人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人	
入学者数	59人	30人	30人	50人	27人	39人		
学校推薦型選抜	募集人数	25人	25人	25人	30人	30人	27人	
	延べ人数	志願者数	42人	46人	38人	31人	21人	36人
		受験者数	42人	46人	38人	31人	21人	36人
		合格者数	42人	46人	38人	31人	21人	36人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	1人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	42人	46人	38人	31人	21人	36人
		受験者数	42人	46人	38人	31人	21人	36人
		合格者数	42人	46人	38人	31人	21人	36人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数		1人	0人	1人	0人	0人	0人	
入学者数	38人	44人	36人	31人	21人	34人		
一般選抜	募集人数	72人	72人	72人	65人	65人	69人	
	延べ人数	志願者数	158人	113人	86人	64人	24人	89人
		受験者数	122人	72人	42人	37人	12人	57人
		合格者数	82人	71人	41人	37人	12人	49人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	2人	2人	1人	0人	2人
	実人数	志願者数	122人	87人	63人	47人	18人	67人
		受験者数	102人	72人	41人	37人	12人	53人
		合格者数	82人	71人	41人	37人	12人	49人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数		7人	2人	2人	1人	0人	2人	
入学者数	18人	18人	7人	7人	1人	10人		
共通テスト利用入試	募集人数	5人	5人	5人	5人	5人	5人	
	延べ人数	志願者数	288人	254人	160人	134人	61人	179人
		受験者数	288人	254人	160人	134人	61人	179人
		合格者数	187人	214人	134人	113人	50人	140人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	3人	2人	0人	1人	2人
	実人数	志願者数	90人	105人	78人	68人	32人	75人
		受験者数	90人	105人	78人	68人	32人	75人
		合格者数	58人	89人	65人	57人	27人	59人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数		6人	3人	2人	0人	1人	2人	
入学者数	5人	3人	2人	1人	0人	2人		
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人	
入学者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人		
合計	募集人数	130人	130人	130人	130人	130人	130人	
	延べ人数	志願者数	552人	443人	314人	280人	133人	344人
		受験者数	516人	402人	270人	253人	121人	312人
		合格者数	370人	361人	243人	232人	110人	263人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	14人	5人	5人	1人	1人	5人
	実人数	志願者数	318人	268人	209人	197人	98人	218人
		受験者数	298人	253人	187人	187人	92人	203人
合格者数		241人	236人	174人	176人	87人	183人	
うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人	
辞退者数	14人	5人	5人	1人	1人	5人		
入学者数	120人	95人	75人	90人	49人	86人		

3. 入学定員充足率

	R2 年度入学者	R3 年度入学者	R4 年度入学者	R5 年度入学者	R6 年度入学者	平 均
入 学 定 員	130人	130人	130人	130人	130人	130
入 学 定 員 充 足 率	0.92	0.73	0.58	0.69	0.38	0.66
歩 留 率	0.32	0.26	0.31	0.39	0.45	0.35

(備考)

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	24人	24人	24人	25人	25人	24人
	延べ人数	25人	20人	22人	20人	11人	20人
	志願者数	25人	20人	22人	20人	11人	20人
	受験者数	25人	20人	22人	20人	11人	20人
	合格者数	25人	20人	22人	20人	11人	20人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	25人	20人	22人	20人	11人	20人
	志願者数	25人	20人	22人	20人	11人	20人
	受験者数	25人	20人	22人	20人	11人	20人
学校推薦型選抜	募集人数	25人	19人	22人	20人	11人	19人
	延べ人数	18人	18人	18人	25人	25人	21人
	志願者数	30人	34人	35人	26人	18人	29人
	受験者数	29人	34人	35人	25人	18人	28人
	合格者数	29人	34人	35人	25人	18人	28人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	30人	34人	35人	26人	18人	29人
	志願者数	29人	34人	35人	25人	18人	28人
	受験者数	29人	34人	35人	25人	18人	28人
一般選抜	募集人数	29人	34人	34人	23人	18人	28人
	延べ人数	63人	63人	63人	55人	55人	60人
	志願者数	287人	211人	152人	106人	70人	165人
	受験者数	184人	112人	63人	56人	28人	89人
	合格者数	144人	106人	61人	53人	23人	77人
	うち追加合格者数	6人	0人	0人	0人	0人	1人
	辞退者数	13人	5人	2人	2人	0人	4人
	実人数	152人	108人	60人	55人	24人	80人
	志願者数	144人	94人	53人	48人	19人	72人
	受験者数	140人	92人	53人	47人	19人	70人
共通テスト利用入試	募集人数	42人	33人	12人	6人	3人	19人
	延べ人数	5人	5人	5人	5人	5人	5人
	志願者数	272人	250人	156人	112人	66人	171人
	受験者数	272人	250人	156人	112人	66人	171人
	合格者数	206人	228人	144人	92人	38人	142人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	4人	0人	1人	0人	0人	1人
	実人数	76人	91人	74人	39人	18人	60人
	志願者数	76人	91人	74人	39人	18人	60人
	受験者数	58人	84人	70人	33人	11人	51人
その他の特別選抜	募集人数	4人	0人	1人	0人	0人	1人
	延べ人数	15人	6人	3人	0人	0人	5人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	110人	110人	110人	110人	110人	110人
	志願者数	614人	515人	365人	264人	165人	385人
	受験者数	510人	416人	276人	213人	123人	308人
	合格者数	404人	388人	262人	190人	90人	267人
	うち追加合格者数	6人	0人	0人	0人	0人	1人
	辞退者数	17人	5人	3人	2人	0人	5人
	実人数	283人	253人	191人	140人	71人	188人
	志願者数	274人	239人	184人	132人	66人	179人
	受験者数	252人	230人	180人	125人	59人	169人
入学定員充足率	募集人数	110人	110人	110人	110人	110人	110人
	延べ人数	1.01	0.84	0.65	0.45	0.29	0.65
歩留率	募集人数	0.27	0.24	0.27	0.26	0.36	0.28
	延べ人数	0.27	0.24	0.27	0.26	0.36	0.28

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	110人	110人	110人	110人	110人	110
入 学 定 員 充 足 率	1.01	0.84	0.65	0.45	0.29	0.65
歩 留 率	0.27	0.24	0.27	0.26	0.36	0.28

(備考)

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	23人	23人	23人	20人	20人	22人
	延べ人数	71人	28人	29人	45人	41人	43人
	志願者数	69人	28人	29人	45人	41人	42人
	受験者数	28人	27人	29人	44人	41人	34人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	71人	28人	29人	45人	41人	43人
	志願者数	69人	28人	29人	45人	41人	42人
	受験者数	28人	27人	29人	44人	41人	34人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数	28人	26人	26人	44人	41人	33人
	延べ人数	17人	17人	17人	25人	25人	20人
	志願者数	61人	61人	60人	50人	37人	54人
	受験者数	61人	61人	60人	49人	37人	54人
	合格者数	53人	61人	60人	49人	37人	52人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	2人	0人
	志願者数	61人	61人	60人	50人	37人	54人
	受験者数	61人	61人	60人	49人	37人	54人
	合格者数	53人	61人	60人	49人	37人	52人
一般選抜	募集人数	52人	57人	58人	44人	34人	49人
	延べ人数	55人	55人	55人	50人	50人	53人
	志願者数	464人	259人	216人	156人	133人	246人
	受験者数	370人	175人	136人	112人	90人	177人
	合格者数	78人	79人	96人	88人	90人	86人
	うち追加合格者数	4人	1人	9人	1人	0人	3人
	辞退者数	12人	8人	5人	4人	8人	7人
	志願者数	314人	169人	159人	123人	117人	176人
	受験者数	267人	144人	121人	98人	90人	144人
	合格者数	74人	79人	96人	88人	90人	85人
共通テスト利用入試	募集人数	25人	27人	25人	16人	15人	22人
	延べ人数	5人	5人	5人	5人	5人	5人
	志願者数	560人	450人	265人	191人	121人	317人
	受験者数	560人	450人	265人	191人	121人	317人
	合格者数	118人	69人	110人	58人	54人	82人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	3人	1人	2人	0人	0人	1人
	志願者数	307人	199人	133人	91人	65人	159人
	受験者数	307人	199人	133人	91人	65人	159人
	合格者数	64人	31人	56人	27人	29人	41人
その他の特別選抜	募集人数	7人	2人	2人	1人	0人	2人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	1156人	798人	570人	442人	332人	660人
	志願者数	1060人	714人	490人	397人	289人	590人
	受験者数	277人	236人	295人	239人	222人	254人
	合格者数	4人	1人	9人	1人	0人	3人
	うち追加合格者数	15人	9人	7人	4人	10人	9人
	辞退者数	753人	457人	381人	309人	260人	432人
	志願者数	704人	432人	343人	283人	233人	399人
	受験者数	219人	198人	241人	208人	197人	213人
	合格者数	4人	1人	9人	1人	0人	3人
入学定員充足率	入学定員充足率	1.12	1.12	1.11	1.05	0.90	1.06
	歩留率	0.40	0.47	0.38	0.44	0.41	0.42

（備考）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	15人	20人	30人	30人	19人
	延べ人数	0人	54人	36人	39人	59人	38人
	志願者数	0人	54人	36人	39人	59人	38人
	受験者数	0人	54人	35人	39人	59人	37人
	合格者数	0人	42人	35人	38人	51人	33人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	54人	36人	39人	59人	38人
	志願者数	0人	54人	35人	39人	59人	37人
	受験者数	0人	54人	35人	38人	51人	33人
	合格者数	0人	42人	35人	38人	51人	33人
学校推薦型選抜	募集人数	0人	41人	35人	38人	51人	33人
	延べ人数	30人	30人	25人	25人	25人	27人
	志願者数	57人	25人	19人	27人	49人	35人
	受験者数	57人	24人	19人	26人	49人	35人
	合格者数	42人	23人	19人	26人	47人	31人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	2人	2人	6人
	実人数	57人	25人	19人	27人	49人	35人
	志願者数	57人	24人	19人	26人	49人	35人
	受験者数	42人	23人	19人	26人	47人	31人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
一般選抜	募集人数	41人	21人	18人	26人	42人	30人
	延べ人数	47人	35人	35人	25人	25人	33人
	志願者数	281人	143人	84人	75人	78人	132人
	受験者数	170人	71人	48人	46人	44人	76人
	合格者数	89人	51人	43人	43人	26人	50人
	うち追加合格者数	7人	0人	0人	1人	0人	2人
	辞退者数	16人	5人	2人	3人	4人	6人
	実人数	201人	82人	60人	55人	49人	89人
	志願者数	139人	62人	45人	45人	36人	65人
	受験者数	89人	51人	43人	43人	26人	50人
	合格者数	7人	0人	0人	1人	0人	2人
共通テスト利用入試	募集人数	16人	5人	2人	3人	4人	6人
	延べ人数	40人	23人	17人	13人	5人	20人
	志願者数	3人	0人	0人	0人	0人	1人
	受験者数	61人	21人	24人	21人	27人	31人
	合格者数	10人	14人	13人	14人	27人	16人
	うち追加合格者数	3人	11人	13人	13人	7人	9人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
	志願者数	61人	21人	24人	21人	27人	31人
	受験者数	10人	14人	13人	14人	27人	16人
	合格者数	3人	11人	13人	13人	7人	9人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	80人	80人	80人	80人	80人	80
入 学 定 員 充 足 率	1.01	1.08	0.93	1.00	1.23	1.05
歩 留 率	0.60	0.68	0.67	0.67	0.75	0.67

（備考）

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	7人	10人	20人	20人	20人	15人
	延べ人数	32人	20人	19人	15人	16人	20人
	志願者数	32人	20人	19人	15人	16人	20人
	受験者数	32人	20人	19人	15人	16人	20人
	合格者数	27人	20人	19人	15人	16人	19人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	32人	20人	19人	15人	16人	20人
	志願者数	32人	20人	19人	15人	16人	20人
	受験者数	27人	20人	19人	15人	16人	19人
学校推薦型選抜	募集人数	13人	10人	10人	10人	10人	11人
	延べ人数	11人	5人	10人	12人	21人	12人
	志願者数	10人	5人	9人	12人	21人	11人
	受験者数	9人	5人	9人	12人	21人	11人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	11人	5人	10人	12人	21人	12人
	志願者数	10人	5人	9人	12人	21人	11人
	受験者数	9人	5人	9人	12人	21人	11人
一般選抜	募集人数	20人	20人	10人	10人	10人	14人
	延べ人数	210人	134人	108人	74人	78人	121人
	志願者数	101人	61人	45人	29人	32人	54人
	受験者数	30人	43人	34人	29人	25人	32人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	2人	1人	2人	0人	1人
	辞退者数	0人	2人	1人	2人	0人	1人
	実人数	60人	60人	41人	26人	34人	44人
	志願者数	39人	50人	35人	24人	28人	35人
	受験者数	28人	42人	33人	24人	25人	30人
共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	12人	14人	12人	3人	8人	10人
	志願者数	7人	10人	6人	2人	8人	7人
	受験者数	6人	4人	2人	2人	3人	3人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	12人	14人	12人	3人	8人	10人
	志願者数	7人	10人	6人	2人	8人	7人
	受験者数	6人	4人	2人	2人	3人	3人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	265人	173人	149人	104人	123人	163人
	志願者数	150人	96人	79人	58人	77人	92人
	受験者数	72人	72人	64人	58人	65人	66人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	2人	1人	2人	0人	1人
	辞退者数	0人	2人	1人	2人	0人	1人
	実人数	115人	99人	82人	56人	79人	86人
	志願者数	88人	85人	69人	53人	73人	74人
	受験者数	70人	71人	63人	53人	65人	64人
入学定員充足率	入学定員充足率	0.61	0.40	0.50	0.48	0.65	0.53
	歩留率	0.61	0.40	0.50	0.48	0.65	0.53

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入 学 定 員 充 足 率	1.10	0.73	0.80	0.70	1.05	0.88
歩 留 率	0.61	0.40	0.50	0.48	0.65	0.53

（備考）

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	15人	20人	20人	20人	15人
	延べ人数	0人	17人	20人	24人	23人	17人
	志願者数	0人	17人	20人	22人	23人	16人
	受験者数	0人	17人	20人	22人	23人	16人
	合格者数	0人	16人	20人	22人	23人	16人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	17人	20人	24人	23人	17人
	志願者数	0人	17人	20人	22人	23人	16人
	受験者数	0人	16人	20人	22人	23人	16人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数	0人	15人	20人	22人	22人	16人
	延べ人数	25人	20人	20人	20人	20人	21人
	志願者数	32人	17人	12人	12人	21人	19人
	受験者数	28人	16人	12人	12人	21人	18人
	合格者数	28人	16人	12人	12人	21人	18人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	32人	17人	12人	12人	21人	19人
	志願者数	28人	16人	12人	12人	21人	18人
	受験者数	28人	16人	12人	12人	21人	18人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
一般選抜	募集人数	0人	15人	20人	22人	22人	16人
	延べ人数	52人	42人	40人	40人	40人	43人
	志願者数	356人	216人	127人	98人	107人	181人
	受験者数	236人	160人	97人	69人	81人	129人
	合格者数	166人	145人	96人	64人	81人	110人
	うち追加合格者数	0人	0人	11人	0人	0人	2人
	辞退者数	18人	12人	9人	7人	9人	11人
	実人数	319人	207人	120人	93人	104人	169人
	志願者数	212人	156人	97人	67人	81人	123人
	受験者数	166人	145人	96人	64人	81人	110人
	合格者数	0人	0人	11人	0人	0人	2人
共通テスト利用入試	募集人数	18人	12人	9人	7人	9人	11人
	延べ人数	60人	43人	30人	14人	19人	33人
	志願者数	3人	3人	0人	0人	0人	1人
	受験者数	108人	53人	52人	32人	74人	64人
	合格者数	23人	39人	43人	18人	74人	39人
	うち追加合格者数	10人	38人	35人	7人	49人	28人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	1人	2人	4人	0人	1人	2人
	志願者数	108人	53人	52人	32人	74人	64人
	受験者数	23人	39人	43人	18人	74人	39人
	合格者数	10人	38人	35人	7人	49人	28人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	80人	80人	80人	80人	80人	80人
	志願者数	496人	303人	211人	166人	225人	280人
	受験者数	287人	232人	172人	121人	199人	202人
	合格者数	204人	215人	163人	105人	174人	172人
	うち追加合格者数	0人	0人	11人	0人	0人	2人
	辞退者数	19人	15人	13人	7人	10人	13人
	実人数	459人	294人	204人	161人	222人	268人
	志願者数	263人	228人	172人	119人	199人	196人
	受験者数	204人	215人	163人	105人	174人	172人
	合格者数	0人	0人	11人	0人	0人	2人
入学定員充足率	募集人数	19人	15人	13人	7人	10人	13人
	延べ人数	88人	74人	64人	47人	61人	67人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	80人	80人	80人	80人	80人	80
入 学 定 員 充 足 率	1.10	0.93	0.80	0.59	0.76	0.84
歩 留 率	0.43	0.34	0.39	0.45	0.35	0.39

(備考)

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	20人	20人	30人	30人	20人
	延べ人数	0人	41人	68人	93人	82人	57人
	志願者数	0人	41人	68人	93人	81人	56人
	受験者数	0人	40人	68人	93人	81人	56人
	合格者数	0人	23人	33人	53人	62人	34人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	41人	68人	93人	82人	57人
	志願者数	0人	41人	68人	93人	81人	56人
	受験者数	0人	40人	68人	93人	81人	56人
学校推薦型選抜	募集人数	0人	23人	33人	53人	62人	34人
	延べ人数	0人	23人	33人	53人	62人	34人
	志願者数	0人	23人	33人	53人	62人	34人
	受験者数	0人	23人	33人	53人	62人	34人
	合格者数	0人	23人	33人	53人	62人	34人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	23人	33人	53人	62人	34人
	志願者数	0人	23人	33人	53人	62人	34人
	受験者数	0人	23人	33人	53人	62人	34人
一般選抜	募集人数	30人	30人	30人	35人	35人	32人
	延べ人数	45人	36人	41人	44人	51人	43人
	志願者数	44人	35人	41人	44人	49人	43人
	受験者数	42人	30人	37人	39人	44人	38人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	1人	2人	4人	0人	2人	2人
	実人数	45人	36人	41人	44人	51人	43人
	志願者数	44人	35人	41人	44人	49人	43人
	受験者数	42人	30人	37人	39人	44人	38人
共通テスト利用入試	募集人数	67人	50人	50人	35人	35人	47人
	延べ人数	502人	332人	331人	270人	247人	336人
	志願者数	369人	242人	257人	221人	176人	253人
	受験者数	200人	172人	166人	127人	103人	154人
	合格者数	0人	0人	22人	22人	0人	9人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	30人	19人	16人	14人	9人	18人
	実人数	462人	319人	315人	252人	232人	316人
	志願者数	329人	229人	241人	203人	161人	233人
	受験者数	200人	172人	166人	127人	103人	154人
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数	100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	628人	460人	476人	439人	452人	491人
	志願者数	435人	347人	391人	377人	378人	386人
	受験者数	250人	230人	241人	221人	213人	231人
	合格者数	0人	0人	22人	22人	0人	9人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	32人	21人	20人	14人	11人	20人
	実人数	588人	447人	460人	421人	437人	471人
	志願者数	395人	334人	375人	359人	363人	365人
	受験者数	250人	230人	241人	221人	213人	231人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	100人	100人	100人	100人	100人	100
入 学 定 員 充 足 率	1.08	1.07	1.06	1.12	1.30	1.13
歩 留 率	0.43	0.47	0.44	0.51	0.61	0.49

（備考）

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙 3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：文京学院大学のオープンキャンパス

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	3571人	3299人	①取組概要 高校1～3年生、既卒生、保護者向けに、既設の全学部学科を対象としたオープンキャンパス、進学相談会等の入試イベントを実施。プログラム概要は学部学科ガイダンス、模擬講義、実習体験、在学生との懇談、施設案内、入試ガイダンスなど。R5、6年とも年間11回実施。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 オープンキャンパス等入試イベント参加者からの入学者数は、R5年、R6年の入学者数平均で見ると既設組織全体の入学定員数の55%になる。新設組織の入学定員110名に対して60名程度が見込まれる。 ③(b)の数値は参加者全員のアンケート集計から高校3年生、既卒生など受験対象者を抽出。
うち受験対象者数 (b)	2571人	2185人	
うち受験者数 (c)	861人	767人	
うち入学者数 (d)	699人	647人	
(受験率 c/b)	33.5%	35.1%	
(入学率 d/b)	27.2%	29.6%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：文京学院大学のガイダンス（高校内ガイダンス、出張講義、学外進学相談会等）

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	2938人	2858人	①取組概要 高校に出向き本学や分野別のガイダンス、出張講義などを1都3県を中心に240校近く実施。その他、進学企業開催の会場相談会にも参加。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 入学率実績は約1割と人数としては多くはないが、ガイダンス接触がきっかけで獲得できる入学者は一定数存在している。未接触の高校生に本学の紹介ができるガイダンスは貴重な機会であることから、今後も積極的に活用し新設組織の入学者獲得に努め、参加者と出願、入学者増加を狙う。入学定員110名の1割となる11名以上を見込む。 ③(b)の数値はガイダンス、出張講義実施時に個人情報取得できた(a)のうち、高校3年生、既卒生など受験対象者を抽出。
うち受験対象者数 (b)	892人	673人	
うち受験者数 (c)	101人	82人	
うち入学者数 (d)	81人	63人	
(受験率 c/b)	11.3%	12.2%	
(入学率 d/b)	9.1%	9.4%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：文京学院大学の資料請求

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	25657人	31656人	①取組概要 本学ホームページ、進学企業媒体において大学案内パンフレット、入試ガイド、募集要項、過去問題集などの資料請求を受付。希望者には無料で配布。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 受験対象者数から見ると受験率、入学率の割合は少ないがR5年、R6年の入学者数平均で見ると既設組織の入学定員の約1割を占める。R6年度入学者数112名は全入学者数の約12%を占める。よって新設組織においても資料請求からの入学者は入学定員110名に対して13名程度が見込まれる。 ③(b)の数値は資料請求受付時に取得する個人情報から高校3年生、既卒生など受験対象者を抽出。
うち受験対象者数 (b)	10811人	8399人	
うち受験者数 (c)	601人	430人	
うち入学者数 (d)	121人	112人	
(受験率 c/b)	5.6%	5.1%	
(入学率 d/b)	1.1%	1.3%	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)			①取組概要 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。
うち受験対象者数 (b)			
うち受験者数 (c)			
うち入学者数 (d)			
(受験率 c/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)			①取組概要 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。
うち受験対象者数 (b)			
うち受験者数 (c)			
うち入学者数 (d)			
(受験率 c/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	
(入学率 d/b)	#DIV/0!	#DIV/0!	